市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－①	青少年国際交流事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)－ア 国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

町内の青少年リーダーを海外へ派遣し、教育･文化･歴史産業などの視察研修、そして現地の学校への体験入学、ホームステイを実施する。研修を通して国際的視野を広め、国際化時代に対応しうる青少年リーダーの育成を図る。また、参加した青少年達に対して事後活動を定期的に行い、地域で自主的な活動を行えるようサポートする。

実施方法　□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,443	3,492			
	(b)予算現額	3,443	3,500			
	(c)増減額(b-a)	0	8			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	3,443	3,500			
B. 執行済額		3,381	3,500			
うち交付金充当額		2,704	2,800			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		98.2%	100.0%			

予算の状況の説明：当初計画していた事業内容はすべて実施した。
活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
交流事業派遣生徒数:10名	目　標	(　10名　)	(　10名　)	(　　)	(　　)
	実　績	10名	10名		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：本研修は１０日間の日程でカナダで実施した。研修生である中学生１０名は4日間のホームスティを体験しその間３日間のミドルスクールへの体験入学に参加した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
研修後報告会の開催	目　標	(　1回　)	(　1回　)	(　1回　)	(　　)	(　1回　)
	実　績		1回	1回		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：
･国際交流本研修で、現地にて学んだことを地域や他児童生徒へ伝えることでお互い国際交流への興味や海外に対する意識が向上し、今後の国際社会へと対応しうる人材の育成。また、本研修で経験したことを生かし、町のリーダーとして積極的に地域行事へ参加するなど、それぞれに活躍する。その一貫として、結成した国際交流事業OB会の活動方針もきちんと整備され、年間をとおして活躍できるよう今後も活動展開を続ける。
･「研修後報告会の開催」を成果目標として設定する事で、国際交流に参加した生徒の活動状況を多くの方に見て、感じてもらうという機会を作り「行って終わり」という結果とならない取り組みが行える。そのため、平成24年度の成果目標を変更した。
【成果目標】　交流事業派遣生徒数:10人(目標)→10人(実績)

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本町は国際交流により、派遣した児童が移民の歴史、海外の教育・文化・歴史産業、現地の方や県系人との関わりを学び、帰国後は、この経験を生かし国際社会について地域へ伝える役割も担っている。その一貫として、国際交流事業OB会を立ち上げるなど少しずつ活動を行っている。しかし、地域にて体験したことを生かす機会が少ない、また高校入学以降は勉学に集中するため行事への参加が厳しいなど、活動の展開が課題となっている。 今年度も対外的なことができず、同様の内容となっているが、OB会で集まる機会を作ることができた。	今年度はOB会で集まる機会を設けたことで、地域に伝えるためのアイデアを出し合うことが出来た。今後はそのアイデアの中で実現可能なものを検証していく。

今後の取り組み方針

平成２５年度は、国際交流OBと今年度の派遣生徒・保護者が交流する機会を派遣前に設けた。派遣生徒は、経験者の話を参考にして本研修に臨むことが出来た。今後も派遣前の交流の機会を設定しOB会の活用につなげていきたい

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,500	3,500	2,800	700	0

南風原町 3,500千円 → 補助金 3,500千円 → 南風原町育英会（町補助金団体） 補助金 3,500千円

（青少年国際交流事業に係る経費の補助旅費等）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業に必要な旅費、現地経費、謝礼金を要綱等や見積もりにより、支出している。また、事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。 ○南風原町青少年国際交流実施要項の中で経費負担について定めていることから妥当と評価する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	小学校英語指導助手配置事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－５－(4)－ア 国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	小学校のうちから英会話にふれさせ、外国の言語や文化について興味を持たせ英語力を向上させるために、外国語に精通した日本人を各小学校に配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,800	7,200			
	(b)予算現額	4,800	7,200			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	4,800	7,200			
B. 執行済額		4,800	7,200			
うち交付金充当額		3,840	5,760			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		小学校英語指導助手は、嘱託職員として採用しており、月15万円報酬(固定給)である。25年度は当初(4月)より全小学校(4校)に小学校英語指導助手を配置したので、事業計画通り15万円×12月×4校＝720万円を執行できた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
小学校英語指導助手配置数(4人)	目　標	(　4人　)	(　4人　)	(　　)	(　　)
	実　績	4人	4人		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				
達成状況説明	町内小学校4校全てに英語指導助手を配置することができた。配置することにより、小学校英語のカリキュラムを達成できた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
英語を話す児童の割合60%以上(アンケート)	目　標	(　　)	(　　)	(　60%以上　)	(　　)	(　　)
	実　績			92%		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					
進捗状況説明	平成２４年度は小学校英語指導助手を配置することが成果目標であったが、配置が実現したため、平成２５年度はアンケート結果を成果目標とした。 英語を進んで話す児童の割合は９２%となり達成できた。次年度以降も指導助手を配置し児童の英語力の向上に努める。					

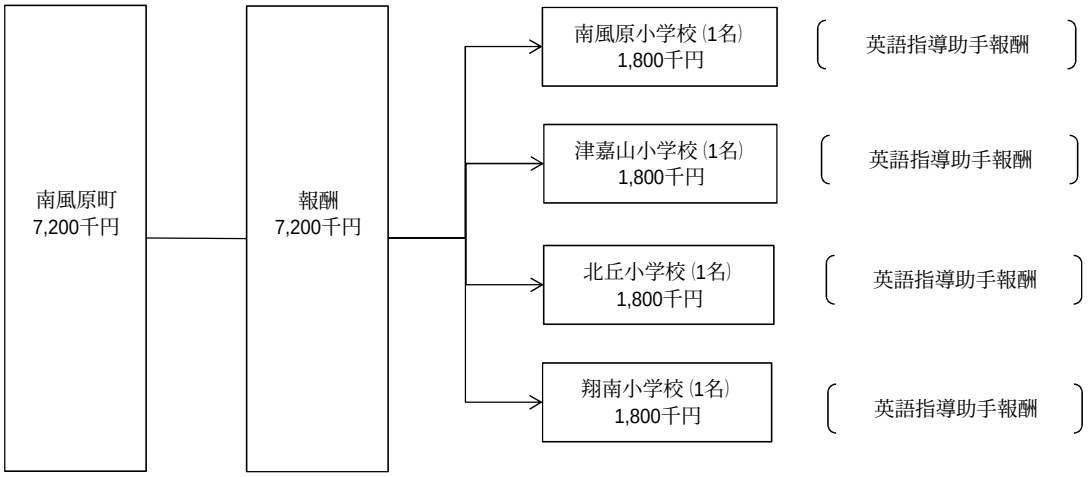
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町内小学校4校全てに英語指導助手を配置したことで、活動目標・成果目標は達成された。 ・今後小学校英語活動は小学校中学年（3・4年生）も必修科目になることが見込まれる。又高学年（5・6年生）は英語活動から教科へ移行する可能性が高い。	・中学校外国人英語指導助手と連携し、中学校英語に抵抗なく移行できるよう、指導助手の交流研修をする。 ・今後の文部科学省の小学校英語に関する動向を注視していく。

今後の取り組み方針

・今後も引き続き小学校4校に英語指導助手を配置し、進んで英語を話す児童が増えるよう活動内容を改善する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,200	7,200	5,760	1,440	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-③	学力調査等事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-⑶-ア 自ら学ぶ意欲を育む教育の充実
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-⑴

事業内容

学力が低い沖縄県において、本町を担う児童生徒の学力向上推進のために、学力調査等を専門業者に委託する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,478	2,632			
	(b)予算現額	2,478	2,632			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	—	—			
	A. 計(b+d)	2,478	2,632			
B. 執行済額		2,469	2,574			
うち交付金充当額		1,975	2,059			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		99.6%	97.8%			

予算の状況の説明：町内各小中学校(小学校:4校、中学校:2校) 小学校12月中学校4月に学力調査を実施し、適正な予算執行を行った。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
標準学力調査の実施 (小学校4校中4校･中学校2校中2校)	目　標	(標準学力調査の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(標準学力調査の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校)	( )	( )
	実　績	標準学力調査等の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校	標準学力調査等の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校		
	目　標	( )	( )	( )	( )
	実　績				

達成状況説明：
･標準学力調査(小学校4校中4校、中学校2校中2校)、を実施できた。
･小学1年～6年生は国語･算数、中学1年生は国語･数学、中学2年～3年生は国語･数学･英語のを実施ができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
標準学力調査の実施 (小学校4校中4校･中学校2校中2校)	目　標	(-)	(標準学力調査の実施 小学校4校中4校･中学校2校中2校)	(標準学力調査の実施小学校4校中4校･中学校2校中2校)	( )	(標準学力調査の実施 小学校4校中4校･中学校2校中2校)
	実　績		標準学力調査等の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校	標準学力調査等の実施 小学校4校中4校 中学校2校中2校		
	目　標	( )	( )	( )	( )	( )
	実　績					

進捗状況説明：
･標準学力調査をもとに個々の児童･生徒への指導ができた。
･学習支援員等配置しているが小中学校ともに算数･数学の学力が低いため今後も対策が必要と考えらる。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・学力調査を実施したことで、その結果をもとに個々の児童生徒の学力向上に向け指導ができたが、実施結果は、昨年度の正答率と比較すると正答率0．1%アップの目標の達成はできなかった。今後は、その結果を踏まえた指導の実施が課題である。	・個々の学力に合わせた指導ができるよう、放課後の補習等を取り入れ学力向上に向けた取り組みを行い児童生徒にあった指導を行う。

今後の取り組み方針

・放課後補習等で個々の児童生徒の指導をしていくことで学力向上につなげていく。
・学力調査の結果は、児童生徒の学力の傾向が確認できる手法として有効である。今後も継続的に学力調査を実施し児童生徒に合わせた指導を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,574	2,574	2,059	515	0

南風原町
2,574千円

→ 委託料 2,574千円 → 株式会社　学友館 2,574千円

（標準学力調査にかかる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、県内で採用している市町村が多く学力の比較がしやすいため随契とした。 ・費目、使途については、委託料として1教科に対しての受験者数、一人当たりの契約金額と受験者数の支出であることから適切である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	学習支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア 自ら学ぶ意欲を育む教育の充実
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	沖縄の学力の低さは、基礎学力の不足が原因と言われている。そこで、基礎学力を定着させるため、授業に遅れがちな児童生徒に対するきめ細かな指導により基礎学力向上を図るため、学習支援員を配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	8,523	13,374			
	(b)予算現額	8,523	11,382			
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 1,992			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	8,523	11,382			
B．執行済額		7,411	10,265			
うち交付金充当額		5,928	8,212			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		87.0%	90.2%			
予算の状況の説明		学習支援員配置は目標達成したが、勤務日数が少ない月があり執行率が約９０%となった。又、当初の見積もり約1名分過大であったため、減額となった。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
学習支援員配置数(小学校5人･中学校4人)	目　標	(小学校5人･中学校4人)	(小学校5人･中学校4人)	( )	( )
	実　績	(小学校5人･中学校4人)	小学校4人･中学校4人		
	目　標	( )	( )	( )	( )
	実　績				

達成状況説明：町内小中学校全てに学習支援員を配置することができた。
平成24年度は小学1年生の学級数が減になった小学校があり1学級当たりの児童が増えたため学習支援員を1名増員配置したが、平成25年度は町内4小学校1年は少人数学級での対応になったので各小学校1名づつの配置となった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
標準学力調査結果正答率(国語･算数･数学) 0.1%増	目　標	( )	( )	(小学校国語 0.1 小学校算数 0.1 中学校数学 0.1)	( )	( )
	実　績		( )	(小学校国語－3.4 小学校算数－2.5 中学校数学－6.0)		
	目　標	( )	( )	( )	( )	( )
	実　績					

進捗状況説明：24年度は学習支援員を全小中学校に配置することを目標し達成できたため、２５年度は正答率の０．１%増を目標とした。町内小中学校全てに学習支援員を配置することができたが、標準学力調査結果正答率は、全科目マイナスとなった。原因として25年度の問題が難しかったと考えられる。次年度以降も全小中学校に配置し、基礎学力向上に努める。

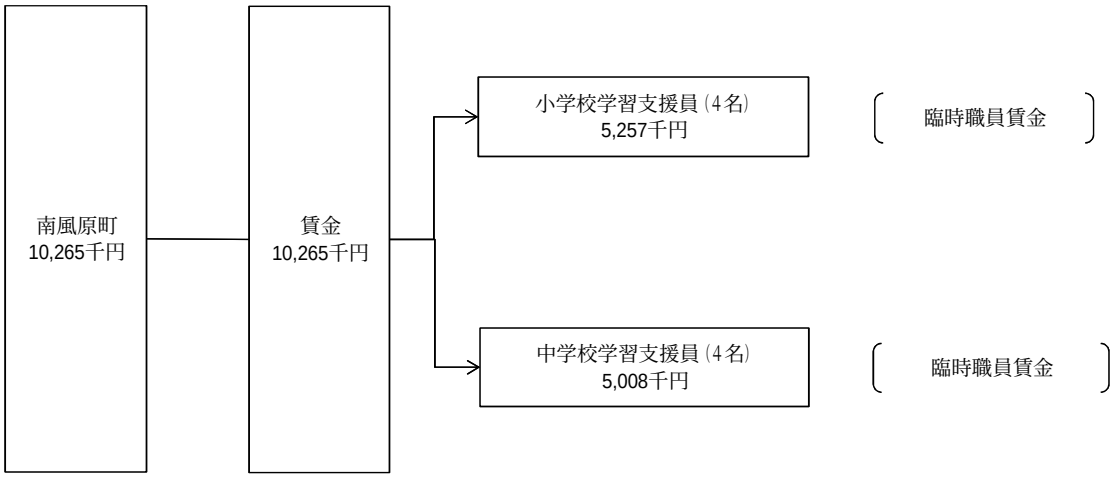
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成25年度小中学校全校に学習支援員を配置するこができ、授業環境は改善していると思われるが、さらにきめ細かい指導をするために教材研究の時間確保が必要。正答率が前年度より下がったことの原因は、出題問題の難易度が高くなったと考えられる。又学習支援員は賃金職員で、一年雇用のため、支援のノウハウが蓄積されにくかったのも原因の一つと考えられる。	・南風原町の基礎学力向上のために学習支援員の教材研究の時間を確保していく。 ・支援のノウハウを蓄積するため学習支援員を複数年雇用できるよう改善する。

今後の取り組み方針

・引き続き全小中学校に学習支援員を配置し、基礎学力向上に努める。
・学習支援員を嘱託職員として最大3年間雇用できるようにし、教材研究などのノウハウを蓄積し、正答率向上に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,265	10,265	8,212	2,053	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑤	特別支援教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－イ 自ら学ぶ意欲を育む教育の充実
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

児童生徒の総合的な学力向上を目的として、教室内で授業中に全体の指導についていけない子ども(学習障害者や注意欠陥多動性障害者など学習や生活面の特別な教育的補助を必要とする児童生徒)の個別指導や授業外の補習、円滑に学習を行うためのサポート(介助や安全確保)などを教師と連携して行う補助員を配置する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	16,586	49,234			
	(b)予算現額	16,586	51,364			
	(c)増減額(b-a)	0	2,130			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	16,586	51,364			
B. 執行済額		9,940	49,643			
うち交付金充当額		7,952	39,714			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		59.9%	96.6%			

予算の状況の説明：特別支援教育補助員配置は目標達成し、執行率が約９６％となった。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
特別支援教育補助員配置数(幼稚園５名・小学校２４名・中学校３名)	目　標	(幼稚園13名・小学校24名・中学校3名)	(幼稚園5名・小学校24名・中学校3名)	(　)	(　)
	実　績	(幼稚園14名・小学校25名・中学校4名)	(幼稚園9名・小学校35名・中学校6名)		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：町内小中学校・幼稚園全てに特別支援教育補助員の配置ができた。
特別な支援を必要とする児童生徒が増加したことにより特別支援員を増員しよりきめこまかい支援ができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
標準学力調査結果正答率(国語・算数・数学) 0.1%増	目　標		(　)	(小学校国語 0.1 小学校算数 0.1 中学校数学 0.1)	(　)	(　)
	実　績		(　)	(小学校国語－3.4 小学校算数－2.5 中学校数学－6.0)		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：
・平成24年度は特別支援教育支援員を配置することが成果目標であったが、配置が実現したため、２５年度は正答率を成果目標とした。
・町内幼稚園小中学校全てに特別支援教育支援員を配置することができたが、標準学力調査結果正答率は、全科目マイナスとなった。原因として平成25年度の問題が難しかったと考えられる。次年度以降も全小中学校に配置し、基礎学力向上に努める。

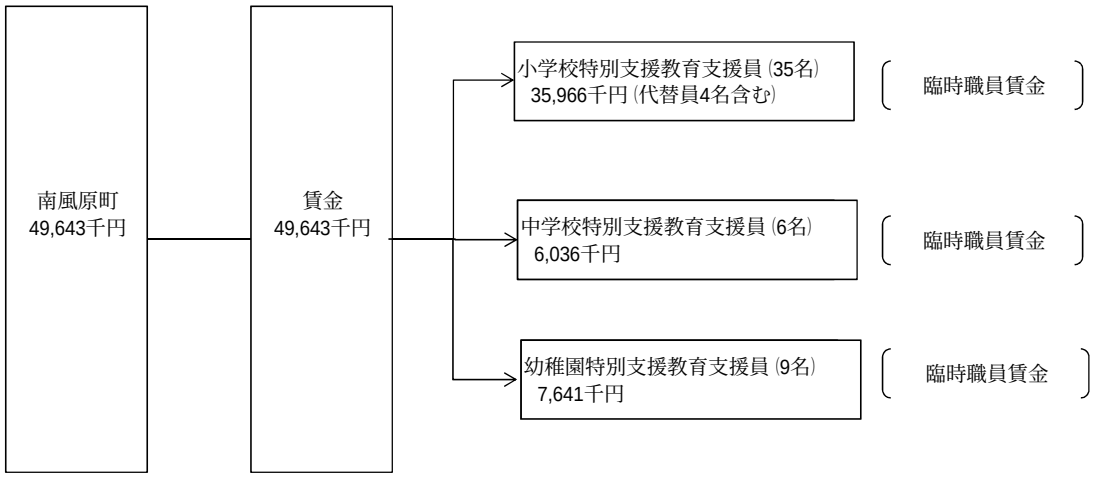
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成25年度幼稚園小中学校全校に特別支援教育支援員を配置することができ、授業環境は改善していると思われるが、個々の対応が違うため支援向上には時間がかる。 ・成果目標は達成できなかったが、支援員を増員したことにより、児童生徒は安心して学校生活を送れる環境が整いつつある。	・特別支援教育支援員を配置することで、個々の支援をより細かく把握し授業への取り組み体制の改善を図っていく。 ・学習支援員と同様にノウハウを蓄積するよう研修等を充実していく。

今後の取り組み方針

引き続き全小中学校に特別支援教育支援員を配置し、基礎学力向上に努める。
夏休み期間中に、幼小中合同で2回研修を開催する。具体的には、他市町村教育委員会と合同で、座学やワークショップを行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
49,643	49,643	39,714	9,929	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑥	学校ICT推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア 自ら学ぶ意欲を育む教育の充実
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	沖縄県は学力テスト結果が下位に位置し、低所得者も多いことから、学力向上を図る為に電子黒板とデジタル教科書やデジタルペンさらにネットワークを介してデジタルコンテンツ等を十分に利用するため学校内ネットワーク器機の整備、ICT支援員を配置する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	27,480	17,640			
	(b)予算現額	25,520	124,971			
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,960	107,331			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	25,520	124,971			
B. 執行済額		25,520	124,971			
うち交付金充当額		20,416	99,976			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			

予算の状況の説明

・町内小中学校の全ての普通クラスに電子黒板の設置、デジタル教科書の購入、ネットワーク機器の整備等、教育環境を整えて、より解りやすい授業を行うと共に、児童生徒にパソコンに慣れさせる機会を作るため、平成２５年７月に予算の増額を行なった。増額したことで、150,498千円の予算額となった。その後、備品購入費の入札執行残があり、平成２６年３月に予算を減額し、最終的な予算は124,971千円となった。
・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
電子黒板設置台数	目　標	22台	104台		
	実　績	22台	104台		
デジタルペン購入数	目　標	-	12セット		
	実　績	-	12セット		
デジタル教科書購入件数	目　標	60件	9件		
	実　績	60件	10件		
ネットワーク機器購入台数	目　標	-	62台		
	実　績	-	61台		
ICT支援員委託料	目　標	-	2名		
	実　績	-	2名		

進捗状況説明

H25年度予定していた事業はすべて実施した。
デジタル教科書で目標(9件)→実績(10件)となっているが、実施前に再度学校へ確認を行い変更の必要性があった為、件数の変更を行った。
ネットワーク機器についても目標(62台)→実績(61台)となっているが、実施前に現場調査を行い数量の変更が発生した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（28年度）
電子黒板導入率(普通教室)	目　標	【小】19%【中】16.5%	【小】38%【中】33%	【小】100%【中】100%		100%
	実　績		【小】38%【中】33%	【小】100%【中】100%		
【参考指標】(電子黒板) H25普通クラス　全教室　126学級	目　標	－	121学級	104学級		28年度のクラス数
	実　績		22学級 (24年度整備台数)	104学級 H24で22台整備済		
デジタルペン導入率(小学校普通教室)	目　標	－	－	【小】13%		13%
	実　績		－	【小】13%		
デジタル教科書件数(導入率)	目　標	【小】40%　【中】71.4%	60件 【小】80%【中】85.7%	9件 【中】100%		100%
	実　績		60件 【小】80%【中】85.7%	10件 【中】100%		
ネットワーク機器台数	目　標	－	－	小学校:46式 中学校:16式		100%
	実　績		－	小学校:43式 中学校:18式		
ICT支援員	目　標	－	－	2名		100%
	実　績		－	2名		
アンケートの実施	目　標	－	－	アンケートの実施		100%
	実　績		－	アンケートの実施		

進捗状況説明

電子黒板導入率(普通教室)
・小学校:H23年度19%→H24年度:38%→H25年度100%　・中学校:H23年度16.5%→H24年度:33%→H25年度100%
（※H24年度成果では、H21年度導入した電子黒板も数に入れていたが、故障が多くなり耐用年数5年間近であることからH25年度はH21導入電子黒板を除いて普通教室への100%目標とし整備を。）
（※H24年度の検証シートでは、電子黒板の設置学級を18学級としていたが、22学級の誤りであった。そのため、H25年度で修正した。）
デジタル教科書
・小学校:H23年度40%→H24年度:80%　・中学校:H23年度71.4%→H24年度:85.7%→H25年度100%
※デジタル教科書に関しては、教科書改定年度にあわせて100%整備を行う。
・その他　ICT備品購入を学校と調整を行いながら導入を行っていく。　・ICT支援員:　H25年度2名
・ICT支援員委託事業のなかでアンケートを実施した。アンケート結果を今後の学校ICT推進事業の参考としていく。

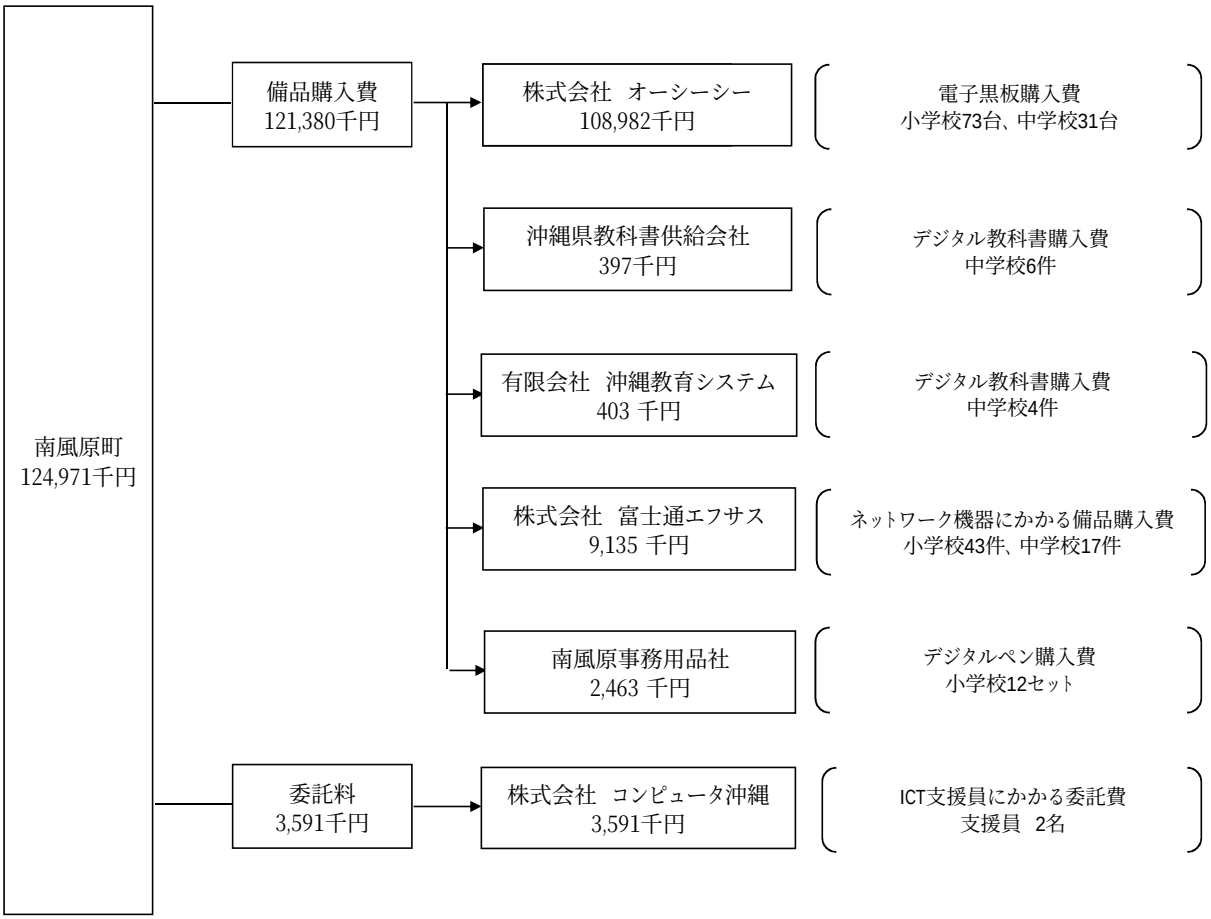
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・電子黒板について特別教室（理科、音楽、家庭科など）、少人数クラス（算数・数学など）での授業や体育などの授業において需要が多くなってきているが、頻繁に電子黒板を移動することは、短い休み時間での対応やフロアが違うなど移動が厳しい現状がある。	特別教室など普通教室以外での授業でもスムーズに活用できるよう、利用方法について確認を行いながら特別教室等への電子黒板配置も検討していく必要がある。また実施したアンケートでは、電子黒板配置以外にもタブレットPC導入を希望する声が多かった。児童生徒個別の特性に合わせたきめ細やかな指導やグループ学習など子ども同士学びあいの場で活用することにより、よりよい授業づくりへ役立てるため、特別支援クラスや普通クラスへのタブレットPC導入についても検討いく必要がある。

今後の取り組み方針

・特別教室等や特別支援クラスへの電子黒板導入を検討する。
・タブレットPCの導入について検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
124,971	124,971	99,976	24,995	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○県内で教科書供給会社のみ取り扱いの備品を除き、実績または県内で取り扱い可能な事業者を選定し、指名競争入札を行っており、選定方法および予算規模について、妥当であったと考えている。 ○購入した備品は、事業内容に記載した教育の質向上による児童生徒の学力向上を図るためのもので、費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑧	教育相談支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(1)－イ 沖縄らしい個性を持った人づくりの推進
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	不登校または不登校傾向にある児童生徒や、子どもへの対応に悩みを持つ保護者に対する支援を充実させるため、教育相談支援員を小中学校に配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,310	3,960			
	(b)予算現額	2,310	3,434			
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 526			
	(d)繰越額	—	—			
	A. 計(b+d)	2,310	3,434			
B. 執行済額		1,983	3,103			
うち交付金充当額		1,586	2,482			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		85.8%	90.4%			
予算の状況の説明		相談員配置目標達成し、執行率が約90%となった。 当初の相談支援時間を過大に見積もっていたため減となった。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・町教育相談員配置数:1人	目　標	・町教育相談員配置数:1人	・町教育相談員配置数:1人	(　)	(　)
	実　績	・町教育相談員配置数:1人	・町教育相談員配置数:1人		
・心の教室相談員配置数:2人	目　標	・心の教室相談員配置数:2人	・心の教室相談員配置数:2人	(　)	(　)
	実　績	・心の教室相談員配置数:2人	・心の教室相談員配置数:2人		
達成状況説明	目標のとおり配置することができたが、相談支援内容が複雑多様化している。今年度は臨床心理士との連携でき支援内容を充実できた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
・町教育相談員配置数:1人	目　標	-	・町教育相談員配置数:1人	・町教育相談員配置数:1人	(　)	・町教育相談員配置数:1人 ・心の教室相談員配置数:2人
	実　績		・町教育相談員配置数:1人	・町教育相談員配置数:1人		
・心の教室相談員配置数:2人	目　標	(　)	・心の教室相談員配置数:2人	・心の教室相談員配置数:2人	(　)	(　)
	実　績		・心の教室相談員配置数:2人	・心の教室相談員配置数:2人		
進捗状況説明	目標のとおり配置することができたが、相談支援内容が複雑多様化している。今年度は臨床心理士との連携でき支援内容を充実できた。 今後は、状況を確認しながら増員について検討していく。					

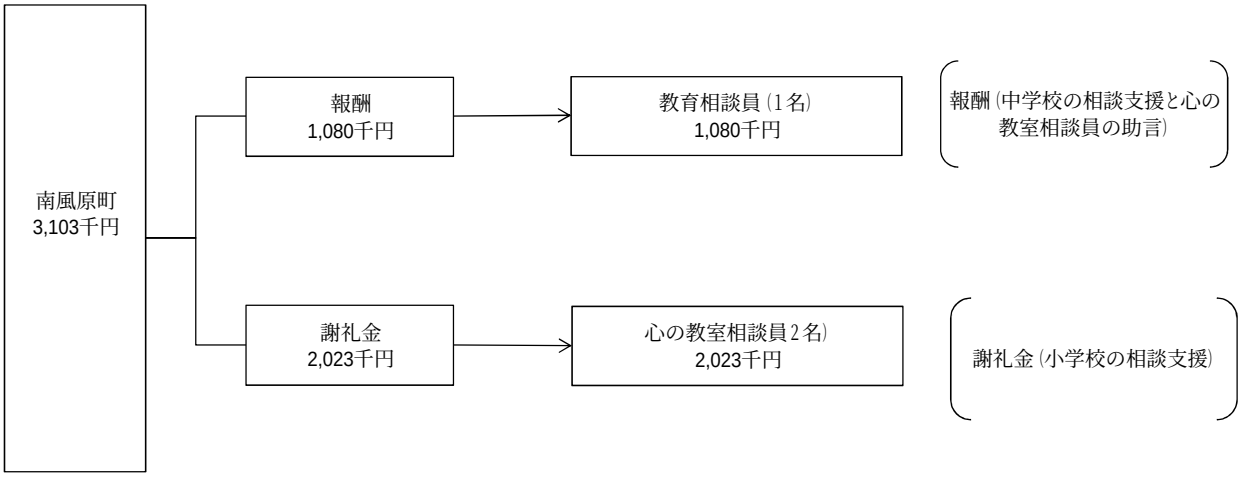
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	相談支援の性質上「登校支援サポーター」が登校支援の際に教育相談を受けるケースや「心の教室相談員」が登校支援を行う必要があるケースがあり、支援内容が重複することがあった。また「登校支援サポーター」と「心の教室相談員」が複数校受け持っているため、児童生徒への支援について情報共有を十分に行うことが課題となった。	・今後、配置人員や配置校、情報共有の仕方について支援体制を見直しながら取り組んでいく。 ・小学校4校に心の教室相談員を配置し寄り細かな支援を実現する。

今後の取り組み方針

今後臨床心理士、生徒校外指導員、登校支援サポーターと連携を密にし支援体制を強化していき、非行・怠学・不登校問題にきめ細やかな支援で対応していきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,103	3,103	2,482	621	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑨	中学校外国人英語指導助手配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア 国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	中学校英語教育の充実と国際理解教育推進に資するため、外国人英語指導員を中学校へ派遣する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,205	3,780			
	(b)予算現額	2,205	3,780			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	2,205	3,780			
B. 執行済額		2,205	3,780			
うち交付金充当額		1,764	3,024			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		中学校英語指導助手は、嘱託職員として採用しており、月315,000円報酬(固定給)である。25年度は当初(4月)より中学校英語指導助手を配置したので、事業計画通り315,000円×12月×1校＝378万円を執行できた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・外国人英語指導助手配置数:1人	目　標	・中学校英語指導助手配置数:1人	(・中学校英語指導助手配置数:1人)	(　)	(　)
	実　績	・中学校英語指導助手配置数:1人	・中学校英語指導助手配置数:1人		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				
達成状況説明	中学校外国人英語指導助手を配置することができたが、標準学力調査結果正答率は、マイナスとなった。次年度以降も中学校に配置し、学力向上に努める。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
標準学力調査結果正答率(英語)0.1%増	目　標	-		(中学校英語＋0.1)	(　)	
	実　績			中学校英語－11.2		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					
進捗状況説明	中学校外国人英語指導助手を配置することができたが、標準学力調査結果正答率は、マイナスとなった。原因として平成25年度の問題が難しかったと考えられる。次年度以降も中学校に配置し、学力向上に努める。外国人指導助手は会話を重点に置いているので、成果に現れにくい。 平成２４年度は外国人英語指導助手を配置することが成果目標であったが、配置が実現したため、平成２５年度は正答率を成果目標とした。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	中学校英語で、生きた英語を学ぶために、英語の苦手意識をなくすよう、授業内容を工夫していく。2020年には東京オリンピックが開催され、沖縄県の外国人観光客も増加傾向であり、今後沖縄の人材育成として英語力は益々重要となってくる。観光立県を目指す沖縄県としては、英語を話せる人材を輩出していきたいが、苦手意識を持った児童生徒が多く、課題解決に時間がかかると見込まれる。	小学校英語指導助手との連携を密にし、小学校英語から中学校英語へ、抵抗なく移行するようにし、生徒が英会話に対し苦手意識を持たせないようにする。

今後の取り組み方針

今後も引き続き、外国人英語指導助手を配置し、小学校英語指導助手との連携を密にし、小学校英語から中学校英語へ、抵抗なく移行するようにし、生徒が英会話に対し苦手意識を持たせないようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,780	3,780	3,024	756	0

南風原町
3,780千円
→
報酬
3,780千円
→
南星中学校英語指導助手
3,780千円
（英語指導助手報酬）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑩	南風原町青年海外派遣事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章ー４－(1)－イ 世界との交流ネットワークの形成
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－(1)

事業内容	本町の青年達を、特に移民先の南米やハワイへ派遣し、町人会や、移民の次世代の青年たちとの交流を深める。言語、文化理解をはじめ、移民の歴史や現在の状況、世界のあらゆる動きの中で同じ町の人として励まし合い、助け合う繋がりを構築できる人材を育成する。その成果を今後の町の将来を担うリーダーとしての自覚を持って活動をしてもらう。平成25年度は南米に青年を派遣する。
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,730				
	(b)予算現額	1,730				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額					
	A. 計(b+d)	1,730				
B. 執行済額		1,703				
うち交付金充当額		1,362				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		98.4%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・派遣する青年の数：2人	目　標	（　2人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	2人			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	予定通り、2人の青年を南米に派遣し、町人会や、受け入れた研修生との交流を行うことができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
・帰国後、訪問地の町人会の様子や研修成果等の報告会開催	目　標	（　）	（研修成果の報告）	（　）	（　）	（　）
	実　績		研修成果の報告			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	研修後、研修先とのネットワークを保持しつつ、南風原での成果報告会を開催し、今後の研修生を受け入れるための器(関係者)を作ることができた。今後は、受け入れた研修生と派遣した研修生達が情報を交換し、ネットワークの機敏さを利用した新たな南風原町の国際交流事業を展開させたい。例えば、英語、ポルトガル語、スペイン語などの通訳ができる人材の育成、移民の歴史を学び、二世、三世などのアイデンティティ構築から学ぶ、南風原や沖縄の若者達の地域に対する意識の向上を図る。					

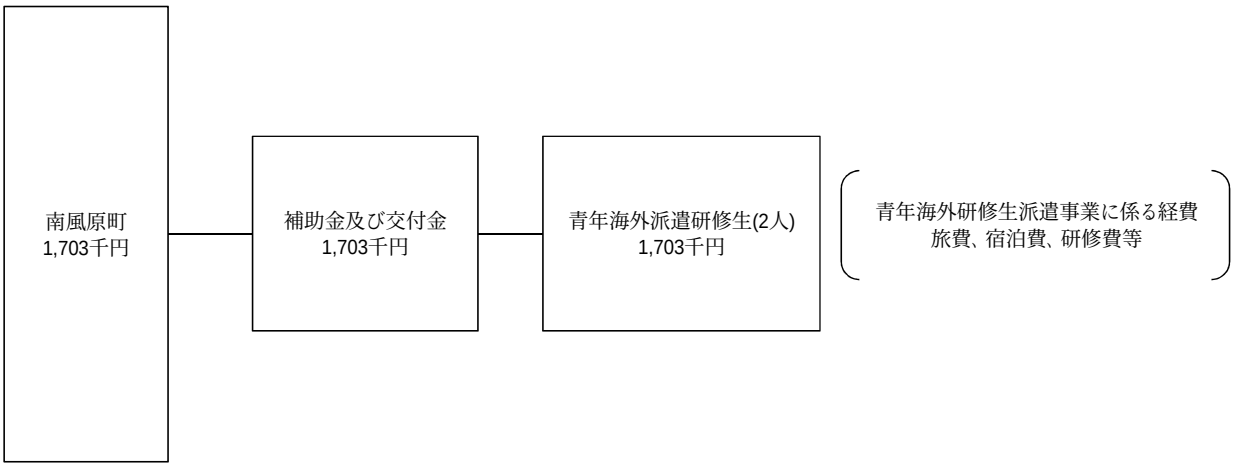
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成25年が最初の青年派遣の年であり、受け入れ側の町人会などの体制を整える協力を得ながら、連携することができた。研修生は、移民の歴史を踏まえつつ、現在の町人会や、これまでに海外移住者子弟研修生として南風原町を訪れた研修生らと交流を重ね、これからのつながりを築く世代としての役割を果たした。 ・旅費特に南米への旅費の高騰を考慮する必要がある。 ・研修成果を発揮する場所や機会を増やすことは重要な課題である。	・帰国後の研修生たちの取り組みをより強化し、研修成果を発揮できる仕組みや、機会をつくる。また研修生自身の積極的協力を促す。 ・旅費については、研修内容に影響が出ないよう事前に現地町人会との調整を密にする。

今後の取り組み方針

南米と米国ハワイを交互に研修先と定め、受け入れ側と密接に情報を交換しつつ、よりよい関係を築いていけるよう努力し、引き続き交流事業を継続実施する。また、共通の課題や、問題意識を持つことで、お互いの理解が深まるので、常に研修先と南風原町の必要としていることを話し合いながら、今後の交流に不可欠な事業の展開、情報の提供を推進していく。そのためにも研修成果を広く公表し、さまざまな意見や提案を享受していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,703	1,703	1,362	341	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業に必要な旅費、現地経費を見積もり等を精査し支出している。また、事業達成に必要な文の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。 ・受益者との負担関係については、南風原町青年海外派遣事業実施要綱に基づき整理しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑪	南風原町各種大会派遣助成事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－５－(4)－イ 国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－(1)
事業内容	小･中学校の児童生徒が、県外で開催される運動競技大会又は文化又は文化関係大会に参加する際の派遣費の補助をする。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,837				
	(b)予算現額	1,991				
	(c)増減額(b-a)	154				
	(d)繰越額	0				
	A．計(b+d)	1,991				
B．執行済額		1,991				
うち交付金充当額		1,592				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初予算は、平成24年度実績で計画していたが、平成25年度は、前年度をうわまわる大会派遣があり予算増となった。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
各種派遣児童生徒数　３１人	目　標	（児童･生徒３１人）	（　）	（　）	（　）
	実　績	児童･生徒９５人			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	児童･生徒が運動競技大会又は文化関係大会で県代表として派遣することができた。九州大会５種目、全国大会２種目、９５人の児童生徒が出場できた。想定していた以上に派遣種目が増えたことにより派遣児童生徒数も増となった。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
各種派遣児童生徒数　３１人	目　標	（　）	（児童･生徒３１人）	（　）	（　）	（児童･生徒７０人）
	実　績		児童･生徒９５人			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	児童･生徒が運動競技大会又は文化関係大会で県代表として派遣され他県の児童生徒と交流を行うことによって、一人ひとりの能力や可能性をのばしてくことができた。目標より派遣種目が増えたため児童生徒数も増となった。					

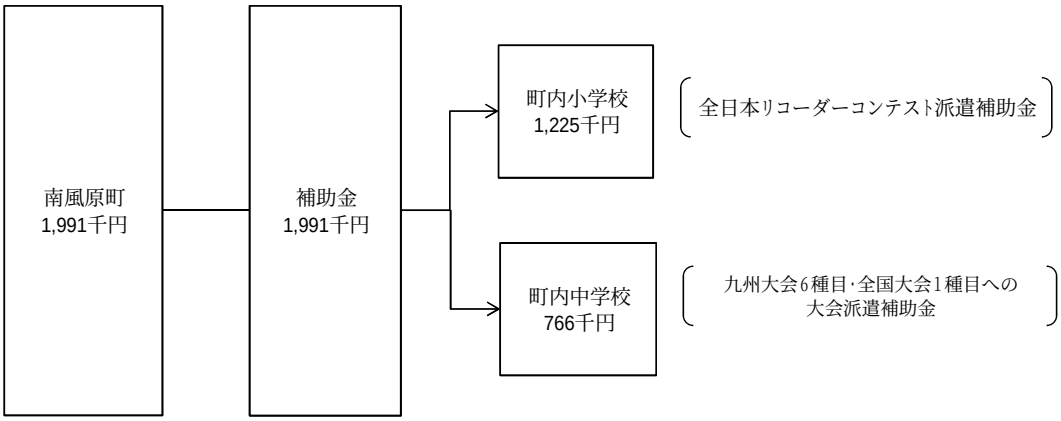
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	児童･生徒の大会派遣件数については、各大会の成績により派遣数が決まるため事前の人数把握が困難であるため予算の確保が難しい。	各小中学校と連携し早めに予算･大会等を把握し派遣補助をしていく。

今後の取り組み方針

事業のスムーズな推進を行ない、児童生徒の派遣環境を整えるため、各小中学校と連携を密にし、今後も事業を展開していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,991	1,991	1,592	399	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	･額の確定については支出等に関する書類により確認、適正であった。 ･費目使途事業目的に即しているかについては「児童･生徒の各種大会への派遣費補助の取り扱い基準」をもとに補助金を支払ったので適正であった。 ･受益者との負担関係については、派遣費補助の取扱い基準に基づき整理しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑫	南風原町県外等派遣助成事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)ーイ 国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	将来の沖縄振興に資する人材育成のため、町内に在住する小学生･中学生及び地域青年会等が運動競技及び文化活動に対して必要な派遣費用の助成を行う。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,979				
	(b)予算現額	2,154				
	(c)増減額(b-a)	▲ 825				
	(d)繰越額	0				
	A. 計(b+d)	2,154				
B. 執行済額		2,024				
うち交付金充当額		1,619				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		94.0%				
予算の状況の説明		執行率は９４%であるが、年度途中からの事業開始ということもあり、適正な予算執行ができたと考える。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
派遣児童･生徒数(累計)：１４０人	目　標	(　140人　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績	127人			
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明	
	国内だけでなく海外にも２人派遣し、競技種目もテニスやサッカーなど１１競技への派遣費用について助成した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(24年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(　年度)
派遣児童･生徒数(累計)：１４０人	目　標	(　138人　)	(　140　)	(　　)	(　　)	(　140人　)
	実　績		127人			
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明	
	平成24年度は1年間で138人であるが、今年度は、事業活用開始の7月から127人であり、ある程度目標は達成できた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・参加した生徒からは上位の大会に参加する事で自分自身やチームの弱点・課題を見つけることが出来,とても良い経験となったとの声もあり、成果を感じる。その一方で申請期限を過ぎてからの申請のため助成できなった事例もあり、助成事業の周知が弱かったと思われる。	・学校へ事業内容の説明を定期的に実施し、申請もれを減らす。 ・様々な媒体を活用した助成事業の周知を図る。

今後の取り組み方針

・申請漏れを減らす取り組みとして、校長・教頭連絡会を活用し学校へ事業内容の説明を行う。また、広報誌やＨＰを利用し、事業内容の周知を図る。
・派遣後の児童等の結果を広報紙やHPへ記載するなど、定期的な情報発信を実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,024	2,024	1,619	405	0

南風原町
2,024千円
→
補助金
2,024千円
→
２２件
（申請者）
学校長・団体代表者
2,024千円

（航空運賃又は港までの運賃への半額補助）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	派遣対象者については、要綱に照らして決定しており、助成金額についても普通運賃額を超えないように比較し適正に金額を決定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－⑬	魅力的な体験学習事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－５－(3)－ア 自ら学ぶ意欲を育む教育の充実
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－(1)
事業内容	沖縄振興に資する人材育成のため、机上の学習だけではなく体験学習を取り入れた授業を行うことで児童生徒の探究心や想像力を育て学ぶことに対する「興味」「楽しさ」を実感してもらう。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,397				
	(b)予算現額	3,397				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	0				
	A. 計(b+d)	3,397				
B. 執行済額		3,297				
うち交付金充当額		2,637				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		97.1%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した。 活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
サイエンスショーの開催	目　標	(　1回　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	1回			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：・12月に「米村でんろうサイエンスショー」を開催し、町内4小学校の5・6年生が参加した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（25年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
理科への関心度：70％	目　標	(　70%　)	(　70%　)	(　)	(　)	(　)
	実　績		97%			
【参考指標】	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：・サイエンスショー鑑賞後に、理科への興味・関心を持ち、勉強したいと思うようになったと答えた児童が9割以上おり、サイエンスショーの鑑賞が理科に対する興味・関心の向上に一定の効果があった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・サイエンスショーを鑑賞した児童のアンケート結果では、鑑賞前には３２％が「理科が得意でない」と答えていたことに対し、鑑賞後は９０％以上が理科に対し「興味・関心を持った」、「勉強したいと思うようになった」と答えており、成果目標を上回る事業の効果があった。 ・開催日が１２月で学校行事との日程調整で苦慮した。学校からは、１学期中の開催の要望がある。	・引き続き成果目標（理科への関心度）を達成できるよう、プロダクションと調整しながらサイエンスショーの内容の充実を図る。 ・１学期中に開催できるよう早期に校長教頭会で日程調整を図る。

今後の取り組み方針

・アンケート結果では、ほとんどの児童がサイエンスショーが「楽しかった」と回答しており、また、「知らないことについて、もっと調べたい」や「理科の不思議についてもっと学びたい」などの意見もあり、サイエンスショーは児童や学校から好評であった。よって、引き続きサイエンスショーを実施し、子供たちの学ぶことに対する「興味」「楽しさ」を実感してもらう。
・１学期中に開催できるよう早期に校長教頭会およびプロダクションと日程調整を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,297	3,297	2,637	660	0

南風原町 3,297千円 → 委託料 3,297千円 → (有)米村でんじろうサイエンスプロダクション 3,297千円

（米村でんじろうサイエンスショー開催委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業は随意契約である。本事業は、米村でんじろうサイエンスショーを実施するもので、本公演を実施できる委託事業者が１社しかないため、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑭	南風原町児童生徒県外交流事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－５－(4)－イ 国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－(1)
事業内容	徳島県サマーキャンプに南風原町の小学校高学年及び中学生を派遣し、徳島県つるぎ町の半田中学校での交流会、つるぎ町及び徳島市での自然･文化体験プログラムで文化交流や自然学習等を体験する派遣費の補助をする。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		２５年度	２６年度	２７年度	２８年度	２９年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,214				
	(b)予算現額	2,214				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額					
	A．計(b+d)	2,214				
B．執行済額		2,093				
うち交付金充当額		1,674				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		94.5%				
予算の状況の説明		補助金精算により不用額は生じたが当初の計画とおりできた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 ２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
徳島県つるぎ町立半田中学校へ中学生10名、小学生12名を派遣	目　標	（小学生１２人 中学生１０人）	（　）	（　）	（　）
	実　績	小学生１２人 中学生１０人			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	福島県つるぎ町との交流事業へ小学生１２名中学生１０名を派遣することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	２６年度	２７年度	目標値（年度）
･派遣者にアンケートや報告書(感想文)を実施し集計結果や分析を報告 「楽しかったこと･びっくりしたこと」の答えの50%以上に民泊交流･中学校交流が入るようにする。 「次回も継続してほしいこと」の答えの50%以上に民泊交流･中学校交流が入るようにする。	目　標	（　）	･「楽しかったこと･びっくりしたこと」の回答に民泊･中学校交流と答えた割合50% ･「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊･中学校交流と答えた割合50%	（　）	（　）	（　）
	実　績		･「楽しかったこと･びっくりしたこと」の回答に民泊･中学校交流と答えた割合55% ･「次回も継続して欲しいこと」の回答に民泊･中学校交流と答えた割合56%			
･徳島県から中学校修学旅行生を１校受け入れる。	目　標	（　）	（１校）	（　）	（　）	（　）
	実　績		１校			
進捗状況説明	福島県つるぎ町での文化交流や自然体験学習のアンケート結果では「楽しかったこと･びっくりしたこと、次回も継続してほしいもの」の回答に約５５%の児童生徒が民泊交流･中学校交流と回答しており、目標達成ができた。徳島県つるぎ町立半田中学校の受け入れもできた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・対象児童生徒の選定等に時間を要した。 ・民泊家庭との交流時間が少なかった。又天候や交通状況によるスケジュール変更も視野に入れた計画が必要である。	・対象児童生徒の募集等を早めていく。 ・民泊家庭との交流を初日から後半に移し、交流時間を増やしていく。 ・天候や交通機関のトラブルによるスケジュール変更が余儀なくされる場合に備えた柔軟な対応をする。

今後の取り組み方針

・上記の検証を踏まえ今後は選定を5～6月中に行い、民泊は3泊目に設定する。
・気象情報は前日で判断し添乗員と連携を密にし、スケジュールを有効に活用する。
・新しい人との出会・交流を持つことにより幅広い視野を持った児童生徒の育成につとめる。
・徳島県と沖縄県の違いを事前に学習し、予備知識を増やし、民泊受け入れ家庭や、中学校生徒・教員との交流をより充実させる。
・交流事業に参加した児童生徒が、徳島県から訪問する修学旅行生を受け入れる主要なメンバーになるよう、指導支援していく。
・事業に参加した児童生徒が、在籍の学校で中心的な人材（生徒会役員や部活動の主将、ボランティアリーダー等）になるよう、指導支援していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,093	2,093	1,674	419	0

南風原町
2,093千円
→
補助金
2,093千円
→
小学生　12名
中学生　10名
引率　3名
合計
2,093千円

（児童生徒県外交流の派遣費に関する補助
（自己負担　1人　6,848円））

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・南風原町振興特別推進事業交付金要綱に基づき交付金を交付しており妥当であった。 ・募集要項に基づき実施しており、妥当であったと考えている。 ・受益者負担も募集要項に基づき、徴収し妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－①	南風原町観光景観美化整備事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－（6）－ア 価値創造のまちづくり
担当部課名	経済建設部　まちづくり振興課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（1）
事業内容	本県は亜熱帯性の固有な自然環境であり、年間を通して植物の繁茂がある。町内の観光ルートの環境美化を町内の求職者を雇用して実施し、クリーンな南風原町を目指す。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	6,600	6,442			
	(b)予算現額	6,600	6,442			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	0			
	A．計(b+d)	6,600	6,442			
B．執行済額		6,116	6,128			
うち交付金充当額		4,892	4,902			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		92.7%	95.1%			
予算の状況の説明		・予算は計画通りに執行し、事業を円滑に行う事が出来た。				

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
観光ルート（町道L＝12,600m）のメンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を恒常的に行う	目　標	（　L＝12,600m　）	（　L＝12,600m　）	（　）	（　）
	実　績	L＝12,600m	L＝12,600m		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	・町道のメンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化がはかられた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（33年度）
観光ルートに伴う町道のメンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を実施	目　標	（　）	（　L＝12,600m　）	（　L＝12,600m　）	（　）	（　L＝12,600m　）
	実　績		L＝12,600m	L＝12,600m		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	・町道のメンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を恒常的に行い、台風襲来後の片付け等も敏速に対応出来き、町内の観光ルートの環境美化がはかられた。 ・また次年度も同じルートの景観美化をはかっていく。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町道のメンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化を図るために、より効率的、計画的な実施が必要。 ・夏季においては、草木が著しく成長するため、場所によっては短期間での伐採等が必要になることがある。	・観光ルートでもある町道については、メンテナンス箇所を効率的に計画して、恒常的にクリーンに保つ必要がある。 ・草木は、夏季に著しく成長（繁茂）するため、町道のメンテナンスを効果的に実施できるよう伐採等を行い、景観美化の向上に努める必要がある。

今後の取り組み方針

・観光ルートのメンテナンス（草木の伐採等による景観美化の管理）を継続し、今後も景観美化の向上に努める。
・年間を通して景観美化に努めるため、繁茂の激しい夏季においては、草木の伐採を、より効率的、且つ計画的に町道のメンテナンスを行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,128	6,128	4,902	1,226	0

南風原町
6,128千円

賃金
（景観美化作業員　4人）
6,128千円

町内観光ルートの環境美化

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○雇用者の賃金は町の基準に合わせて雇用していて適正と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－②	かすりの道景観活性化プロジェクト		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

魅力的な観光地、まちづくりを形成するため、地域の観光資源である「かすりの道」に観光客誘客をねらう。
地域住民参加による色鮮やかな花の植栽等の緑化活動、地域ガイド活動、道並などの整備を行い滞在型観光客の受け入れ態勢を整える。
イベントを開催するなどし、かすりの道の来訪者（観光客・地元客）が安心・安全に散策できる散策体験プログラムや地域住民と協働で整備を行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	6,676	5,000			
	(b)予算現額	4,545	3,753			
	(c)増減額(b-a)	▲ 2,131	▲ 1,247			
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	4,545	3,753			
B. 執行済額		4,260	3,343			
うち交付金充当額		3,408	2,674			
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		93.7%	89.1%			

予算の状況の説明：
・当初予算では、消費税を計上していたが、消費税免除事業者として認定されたため、1,247千円減額した。また、イベント経費も地域住民の協力の元、経費を押さえることができた。
・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
かすりの道ツアー開催	目　標	（　）	（1回）	（　）	（　）
	実　績		5回		
かすりの道緑化活動	目　標	（10回）	（10回）	（　）	（　）
	実　績	10回	12回		

達成状況説明：
・かすりの道ツアーは、かすりの道集落内の古民家を活用して2回開催した「お茶会」に合わせたツアーをはじめ、かすりの道を4名から30名の団体で道歩きをするツアーを5回開催し、210名の町内外からのツアー客があった。
・かすりの道緑化活動は、かすりの道両側に植栽をした草花の雑草取り、施肥、季節の花の植付などを毎月第1日曜日にかすりの道周辺の住民と観光協会で定期的に行っている。
それに合わせて肥料の配布と施肥や新しい花の選定と配布・植え付けなどを継続的に行っている。
・路面清掃においては水の確保が難しくて清掃回数が少なく、集水方法と採水場所を検討し次回からは充分な対応をしていく。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
かすりの道ツアー開催	目　標	（　）	（　）	（1回(10人)）	（　）	（　）
	実　績			5回(210人)		
かすり緑化活動	目　標	（　）	（10回）	（10回(30人)）	（　）	（　）
	実　績		10回	12回(115人)		

進捗状況説明：
・従来かすりの道ツアーは、ガイドが観光客を案内すると同時に、集落の住民が一緒に回ってガイドの説明の後で現場の昔を説明することで、現在周辺の地形が変わっていても十分に観光客が想像できるようなシステムをつくって案内をしている。
・今年度は、古民家を活用して「お茶会」を開催し、同時にツアーを組み立てることにより多くの誘客に結び付いたこと、また、イベント開催時には周辺集落の住民が地元の特産品の販売も行ってくれたことは住民と観光協会の協働の取り組みとして成果があった。
・かすりの道緑化活動は、季節ごとに道周辺の花の植え替えと、水やり、草取りなどの管理を毎月第1日曜日に周辺住民の方と行っているが、主婦が多く1回の集まりに10名前後の周辺住民が集まってくれる。

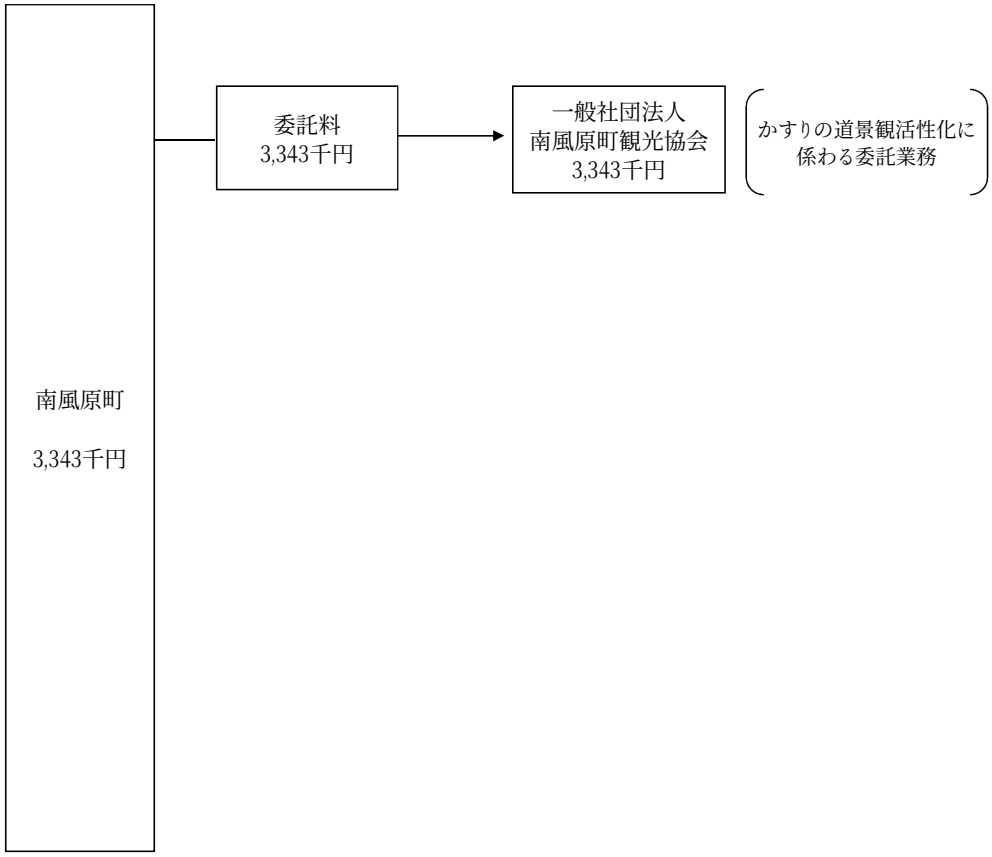
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・現在、かすりの道周辺の住民は道の維持管理や観光客へのとりくみを理解し始めているが、まだまだ集落全体にまでいきわたってはいない。 ・特に個人で機織りをしているかすり工房などでは、観光客が見学に来ると仕事の邪魔になるという工房もあり、全工房の協力を取り付けるには時間がかかる。 ・緑化運動においても、道路周辺の民家では非協力的な家庭もあり、理解を得るには継続をして事業を進めて行き理解を求めるしかないと考える。	・かすりの道に観光客の誘客をすることにより、周辺住民の利益に結びつくイベントを開催することが理解をえる大きな要素ということが、今回の古民家でのお茶会に周辺集落の住民が協働で物産の販売を行ったことで実証され、住民がスタッフの一員としてかかわってくれたことで大きな成果を得た。 ・このことは、かすりの道の緑化活動にも反映していくことで、ますます道周辺が活気をとりもどし、現在「お客さんがくれば仕事の邪魔になる。」と言って理解を得られていない工房にも理解を得られることが出来ると確信をしている。 ・緑化活動は継続していくことで、道路周辺の民家では非協力的な家庭も理解を得られることができる。

今後の取り組み方針

・かすりの道の洗浄作業や花の苗の配布植え付け作業や同時に施肥作業を進めるとともに、集落内の古民家を活用してイベントの開催や集落の高齢者に相談をして古民家を「休憩所」としての活用などを進めていく事により、かすりの道の活用が有効にできると考える。
・そのためには町内外に広くアピールすることが大切なことで、ポスターやパンフレットを作成し、また、広告媒体を活用してPRしていく。
・緑化活動を継続していくために、周辺住民との関係を密にし、更に理解を得られるように地域の和を広げていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,343	3,343	2,674	669	0



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業の契約先である一般社団法人南風原町観光協会は来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発信は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○観光協会に委託したことにより、観光協会と地域が協働でまちづくりに参加することができた。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－④	デザインくくり担い手育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－イ 伝統文化の保全･継承及び新たな文化の創造
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	本町の琉球絣は伝統工芸品として有名だが、現在不足している「デザイン･くくり」の継承者を育成する必要がある。デジタル方法で新しいデザインを生み、管理できる新たな道を開く。若い担い手の活動の場を提供し、かすりの伝統工芸の継承を促進しつつ、新しい分野での発展の可能性を向上させる。絣の基礎知識、全行程も学びながら、デザインくくりの技術を習得させ「デザインくくりの担い手」として、即戦力になるまで3年間育成する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	12,684	30,000			
	(b)予算現額	12,684	17,770			
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 12,230			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	12,684	17,770			
B．執行済額		11,564	16,140			
うち交付金充当額		9,251	12,912			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		91.2%	90.8%			

予算の状況の説明：
･当初予算額と比較して予算現額は12,230千円減額になっているが、5名の内2名がやむを得ない理由で退職したためであり3月で補正予算減額を行った。他3名の当初3年計画していた内の2年目目標である、デザインくくり技術の応用編の習得は実践や研修を通して達成しており、適正であったと考えられる。

活動目標(指標)及び達成状況

H24活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
デザインくくりの担い手育成　5名	目　標	(　5名　)	(　5名　)	(　　)	(　　)
	実　績	5名	3名		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：
･南風原だけでなく、多くの場所や織物を見ることで、知識や折り方、歴史を学習し、広い視野を得る事を目的に、絣を取り扱っている場所に赴き、見学･学習を行った。また、デザインを考案するためのパソコン講習会等を開催した。
･基礎的な知識を学ぶと同時に、デザインくくりの技術を講師から教わり、その技術を習得するために何度も練習を重ねながら、新たなデザインを考案し挑戦した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
デザインくくりの担い手育成人数　5名	目　標	(　0人　)	(　5名　)	(　5　名　)	(　　)	(　18人　)
	実　績		5名	3名		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：
･当初計画していた人数を採用したが、やむを得ない理由により2名退職という形になり、育成人数は3名となった。
･デザインくくりの技術の応用編を学習し、実践や研修を行うことで、デザインくくり技術の習得を行った。
･予定育成人数を成果では下回っているが、3名は計画通り技術を習得している。今後3名を計画通り育成していくとともに、新規採用することで、目標育成人数達成を図る。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・研修生にも様々な事情があり、2名が途中退職になった。 ・24年度で絣の基礎知識を習得しているが、まだ前半は糸の扱い方や計算の過程で失敗もあり、糸や染料を無駄にすることがあった。 ・新たに色々な糸を使用して用途に応じたデザインとくくりの技術に取り組んだため、教材の無駄があった。	・研修生の諸事情も解決できる部分は、事業所一体となって対応し、職員が働きやすい環境作りをつくる。 ・製作過程で失敗を何度か繰り返すことにより、どの方法で対処したらいいのかを学び、修正が可能になる。繰り返し工程を学ぶことが技術の習得につながる。

今後の取り組み方針

・職員とのコミュニケーションや無理のない勤務体系などを検討し、働きやすい職場環境を目指す。
・研修者には、繰り返し工程を実践することで、失敗が減り、技術の習得に繋がるため、多くの経験を積ませる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,140	16,140	12,912	3,228	0

南風原町
16,140千円

→ 委託料 16,140千円 → 琉球絣事業協同組合 16,140千円（デザインくくりの担い手育成に係わる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先事業者は、琉球絣組合に随意契約で委託を行っている。 伝統工芸である琉球絣の歴史的背景や50を超える琉球絣事業者の会員で構成され、琉球絣の制作にかかわるすべての情報を把握できる団体であり、本事業は絣組合しか対応出来ないと判断した。選定方法は妥当であったと考えている。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑤	担い手経営戦略事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(5)－イ
					文化産業の戦略的な創出･育成
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	琉球絣に携わる担い手が、生産をするだけではなく、グローバルな視点をもち、全国、世界に対応できる人材を育成し、産業として成り立つよう経営戦略を長期的に学ぶ。新たな絣工芸品の開発及び二次加工製品の新技術との融合により付加価値のある製品開発を行い、成果展を開催する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,935	6,000			
	(b)予算現額	2,935	6,000			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	2,935	6,000			
B．執行済額		2,868	5,582			
うち交付金充当額		2,295	4,465			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		97.7%	93.0%			

予算の状況の説明	･予算は計画通りに執行し、事業を円滑に行う事が出来た。

活動目標(指標)及び達成状況

H24活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
絣事業担い手経営学習者数 6名	目 標	(6名)	(6名)	( )	( )
	実 績	6名	6名		
	目 標	( )	( )	( )	( )
	実 績				

達成状況説明	･絣関係の若手の集まる場を設けることで、新商品開発や将来の経営戦略に向けて、活発な議論を促した。 ･ブランド戦略や消費者心理等についての講演を経営者に向けて行い、消費者の観点からみた経営戦略について学習した。 ･これから琉球絣を更に販路開拓していう上で、必要となってくる新商品の開発を行い、それらを活用してデパートとの交渉し、販路開拓の実践を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
絣事業担い手経営学習者数 6名	目 標	(0人)	(6名)	(6名)	( )	(6名)
	実 績		6名	6名		
	目 標	( )	( )	( )	( )	( )
	実 績					

進捗状況説明	･講演会や勉強会を開催、参加することで知識や技術の習得に繋がった。 ･新商品開発に向けて勉強会や会議を設け、試作品を完成させ、成果展を行った。 ･基礎知識･技術を習得し、これから実践を絡めた経営戦略の経験を積んでいく。

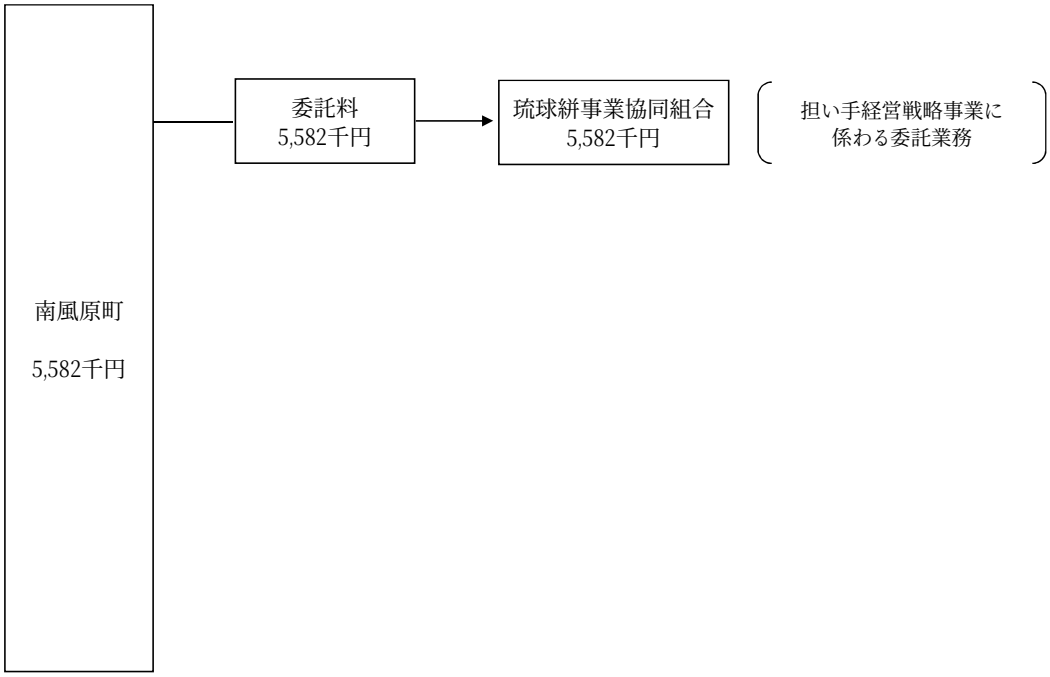
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・経営戦略についての勉強会や研修の計画が日程と合わず、又経営戦略についての説明や意識付けが足りなかったため、担い手の経営者としての自覚が薄かった。	・プロの知識や技術に直に触れることで、経営について良い刺激となり、経営者としての自覚になることから、講演会や研修の開催をする必要がある。

今後の取り組み方針

平成２６年度では、学習者が興味を持つ内容や実際に経営に直結するような講演を行うことで、経営者としての意識付けを図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,582	5,582	4,465	1,117	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先事業者は、琉球絣組合に随意契約で委託を行っている。伝統工芸である琉球絣の歴史的背景や50を超える琉球絣事業者の会員で構成され、琉球絣の制作にかかわるすべての情報を把握できる団体であり、本事業は絣組合しか対応出来ないと判断した。選定方法は妥当であったと考えている。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑥	伝統工芸と観光戦略事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

伝統工芸品である琉球絣は貴重で町民の憧れの品となっている。その良さを町内外の方々に知ってもらうため、滞在型観光につながる絣体験のコンテンツをプログラム化し、本町でしか経験できない体験を創る。さらに絣事業の拠点でもある琉球絣会館を観光客のニーズに対応し、琉球絣の行程が見学できるよう改修工事を行い、町内外からの観光客増加を図る。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,770	56,190			
	(b)予算現額	3,770	55,376			
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 814			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	3,770	55,376			
B．執行済額		3,279	54,764			
うち交付金充当額		2,623	43,811			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		87.0%	98.9%			

予算の状況の説明

・体験プログラムのモニタリングを行う際、予定していた講師の出勤日数が、予定よりも少なく済んだため814千円減額となった。

活動目標(指標)及び達成状況

H24活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
かすり体験プログラム制作:3本	目　標	（制作1本）	（制作3本）	（　）	（　）
	実　績	制作1本	制作3本		
琉球絣会館改修工事実施	目　標	（　）	（工事完了）	（　）	（　）
	実　績		工事完了		

達成状況説明

・県内外の観光客を集客する事を目的に、南風原らしい体験学習プログラムの構築を図った。体験プログラム構築に向けて会議を設け、事業所との調整等を行い、体験プログラムのモニタリングを行った。
・伝統的な絣の拠点である琉球絣会館の改修工事を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
モニター参加者目標	目　標	（0人）	（体験プログラム制作1本）	（10人／月）	（　）	（　）
	実　績		体験プログラム制作1本	47人／年		
琉球絣会館改修工事の完了	目　標	（　）	（　）	（工事完了）	（　）	（　）
	実　績			工事完了		

進捗状況説明

・体験プログラムのモニタリングを行う事で、観光客の実際の意見を聞くことができ、その意見をこれからの体験プログラムや絣のデザインなどに活かしていけるものと思われる。
・9月～2月をモニタリング期間と定めて実施し、6ヶ月で60人を目標としていたが、周知が足りなかったことやモニターと講師の日程が合わなかった事などの理由により、目標が達成できなかった。
・琉球絣会館改修工事が終了し、1階で琉球絣の工程が全て見れるようになり、観光客にやさしい会館となった。

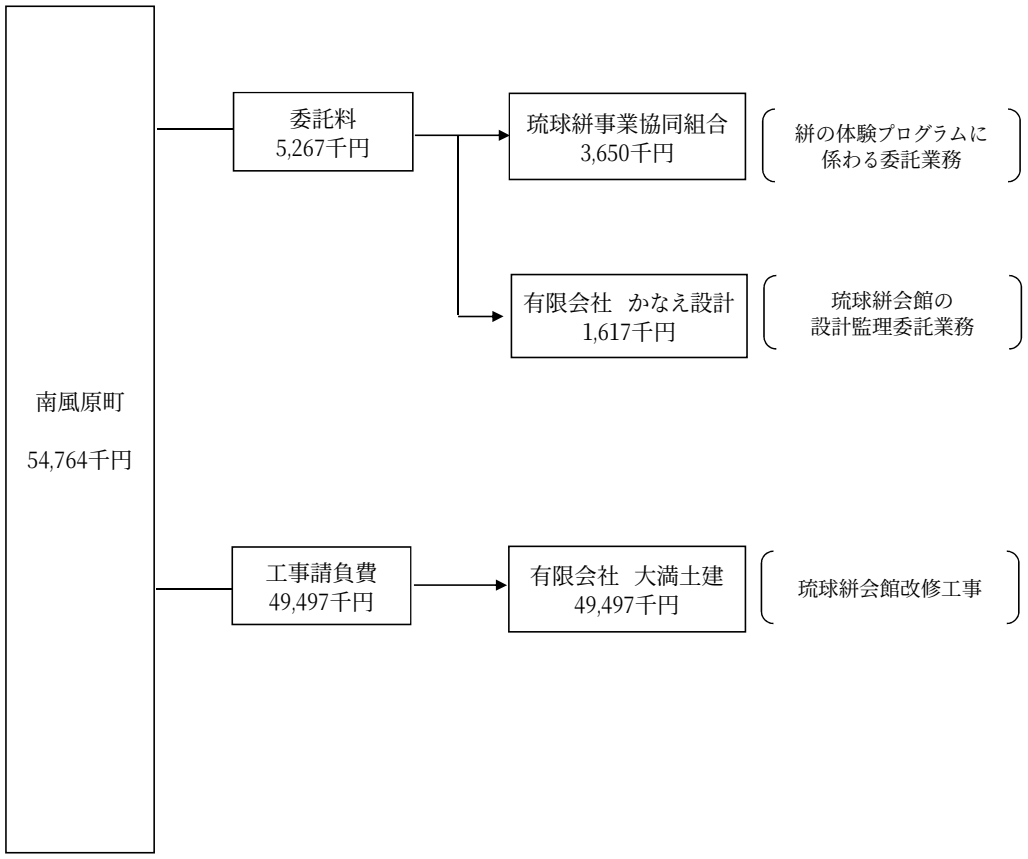
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・モニタリングへの申込者が多くて、日程調整を1人1人組むのに時間がかかったが、講師と打ち合わせしながら、体験者の受け入れができた。 ・アンケートではなく感想文になってしまい、体験プログラムに対しての意見集約にならない。 ・外国からの体験者が増加しており、言葉の壁がある。 ・モニタリングへの参加を呼びかけについて周知不足であった。	・固定の講師を付ける事で、体験者と講師の日程調整が大分スムーズに行えた。 ・体験者の意見をプログラムに反映できるようなアンケート内容を検討する必要がある。 ・外国からの体験者も増えており、言葉の壁が問題であるが、説明に必要なものは先に文書で作成し、それをもとに説明できるようにする。 ・モニタリングへの参加について県内全体はもちろんのこと、県外への周知が必要になる

今後の取り組み方針

・日程調整は常に必要なので、引き続き体験者を優先して、講師と打ち合わせをし日程調整を行う。
・体験者がスムーズに織れるように糸と道具の管理を講師と一緒に行う。
・外国人の受け入れに関しては、インターネットの翻訳システム等を活用し、体験プログラムを説明する上で必要なものに関しては、紙におとしこみ、それをもとに説明を行っていく。
・アンケート項目の改善を行い、体験プログラムについての意見集約をより確実なものとする。
・町内・県内だけでなく、全国へ向けた雑誌に掲載するなど、PR方法を検討し、体験プログラムを全国の人に知ってもらい、観光に訪れてもらえるよう務める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
54,764	54,764	43,811	10,953	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○「琉球絣会館改修工事」の監理委託及び工事の業者選定は、入札方式で行った。 ○「伝統工芸と観光戦略事業」は、琉球絣組合に随意契約で委託を行っている。伝統工芸である琉球絣の歴史的背景や50を超える琉球絣事業者の会員で構成され、琉球絣の制作にかかわるすべての情報を把握できる団体であり、本事業は絣組合しか対応出来ないと判断した。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑦	町独自の商品開発技術力強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(9)－ア ものづくり産業の振興と地域ブランドの形成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

地域資源の活用や異業種連携による商品開発及び企業と連携により消費者のニーズを踏まえたデザイン性･機能性に優れた南風原らしい、商品開発等を行い、産業展開する。異業種があつまり、プロジェクトチームを組み、南風原らしい商品開発を行い、生産、販路まで、展開し、競争力を高める。平成24年度はターゲットを2点に絞り、平成25年度は実際に商品をつくり、販路を開拓する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,477	8,322			
	(b)予算現額	5,477	7,411			
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 911			
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	5,477	7,411			
B. 執行済額		3,971	7,158			
うち交付金充当額		3,176	5,726			
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		72.5%	96.6%			

予算の状況の説明

･事業計画において、県外を予定していた研修を県内研修へと変更したり、商標登録を弁理士でなく職員がおこなったことで、経費を抑えることができ、911千円減額となった。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
プロジェクトチームによる試作品開発	目　標	(　2品　)	(　試作品開発　)	(　　)	(　　)
	実　績	2品	試作品開発		
試作品の試食会の開催	目　標	(　　)	(　試食会の開催　)	(　　)	(　　)
	実　績		試食会の開催(2回)		

達成状況説明

･H24年度に発足した、「特産品開発チーム（プロジェクトチーム）」において、スターフルーツと美瓜の商品開発に取り組んだ。
･県内外の商品開発に取り組んでいる事業所などを視察。南風原だけでなく、多くの場所や商品を見ることで知識を高め、情報を収集し、商品開発を行ううえで必要な発想力を養った。
･開発した試作品の試食会や県内のイベント各種に試作品を出品し、アンケート調査を実施（ありんくりん市、町新年宴会）した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
プロジェクトチームによる試作品開発	目　標	(　　)	(　2品　)	(　試作品開発)	(　　)	(　　)
	実　績		2品	試作品開発		
試作品の試食会の開催	目　標	(　　)	(　　)	(　試食会の開催　)	(　　)	(　　)
	実　績			試食会の開催(2回)		

進捗状況説明

･スターフルーツのコンフィを使った「ゆめかなえぼしマドレーヌ」、美瓜佃煮の2品を開発した。

･マドレーヌの名称とパッケージデザインは、町内の小中学校生からアイデアを募集し決定した。

･「はえばる美瓜」を商標登録し、商品の差別化を図った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・開発した商品を今後さらに普及させていくために、原料である美瓜とスターフルーツ自体の認知度は低く、原料自体の周知、普及が必要。 ・農産物は時期や天候に収穫量が左右されるため、収穫量が少なくなる時期の対応が必要。 ・スターフルーツコンフィ、美瓜佃煮の製造技術及び安定供給体制の構築が必要。	・特産品PRと新たな販路開拓を探る。 ・原料の周知・普及や、収穫量が少ない時期の対応に関しては、プロジェクトチーム単独で取り組むのではなく、関係機関の連携を強化する。

今後の取り組み方針

スターフルーツコンフィ、美瓜佃煮の製造技術及び販路に関する講習会等を開催し、商品安定供給体制と人材育成を図る。
町内外へ特産品の周知と販路拡大、原料となる美瓜とスターフルーツのPRを図るため物産展等に出店する。
開発した商品を販売する店舗の開拓のため、バイヤーとの商談を積極的に行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,158	7,158	5,726	1,432	0

南風原町
7,158千円

→ 委託料 7,158千円 → 南風原町商工会 7,158千円（町独自の商品開発技術力強化事業に係わる委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約により委託した南風原町商工会は、商工業の総合的な改善発達を図るための組織として設立された、町内唯一のの地域経済団体であり、地域経済に精通し、町の歴史背景や地域性、地域資源を充分理解している組織であり、本業務の遂行に必要な多くの中小企業者との広範なネットワークも有していることから、妥当であったと考えている。 ○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑩	南風原名人制度創設事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－５－（６）－イ 地域社会を支える人材の育成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２５～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(1)

事業内容

観光の国際化や多様な観光ニーズに対応するため、本町の地域人材を活用した地域発の観光商品の事業化に向けた取り組みを推進する。
本町での体験ツールを増やす目的で、町内の名人（得意なこと）制度を創設する。名人として認定委員会より認定し、認定証を発行。
認定した後は名人名簿に登録してもらい体験学習のプログラムに参加し、町民と共に滞在型観光の実現を図る。

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,082				
	(b)予算現額	184				
	(c)増減額(b-a)	▲ 898				
	(d)繰越額					
	A. 計(b+d)	184				
B. 執行済額		137				
うち交付金充当額		109				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		74.5%				

予算の状況の説明
・印刷製本費等の経費を、自前で行ったため、898千円の予算減額になっている。
・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
体験学習プログラム数	目　標	（　2件　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	4件			
名人登録者（累計）	目　標	（　15人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	10人			

達成状況説明
・南風原町老人連合会や女性会、学童連絡協議会の指導員などに、告知をして名人の登録を依頼した。
・名人登録依頼をされた中から推薦者10人を2回にわたる選定委員会で名人として第１次審査を行い、認定をして登録をしてもらった。
・同時に4件の体験学習レシピを提出してもらい印刷し、体験時にテキストとして活用した。
・名人を民泊事業者の学習に活用した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（27年度）
体験学習プログラム数	目　標	（　）	（　2件　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		4件			
名人登録者（累計）	目　標	（　）	（　15人　）	（　）	（　）	（　45人　）
	実　績		10人			

進捗状況説明
・町内の各団体組織を活用した名人の推薦のため、取り組みを理解してもらう事を優先に活動してきた結果、町内でも少しずつ認識が出来てきた。
・町内の福祉団体でも名人を活用したいとの要望もあり、観光客とともに活用をして検討している。
・得意技を持っていても人に教える事には躊躇する方が多く、その説得に時間がかかり目標を達成することができなかった。
・得意技を持っている人を発掘した場合は、趣旨を説明し同意を得た後「名人選定委員会」に図り、委員会において名人登録をした後に名人として活用をする。
・平成27年度目標の45人を達成するために、年間15人を達成目標として、名人を発掘していく。

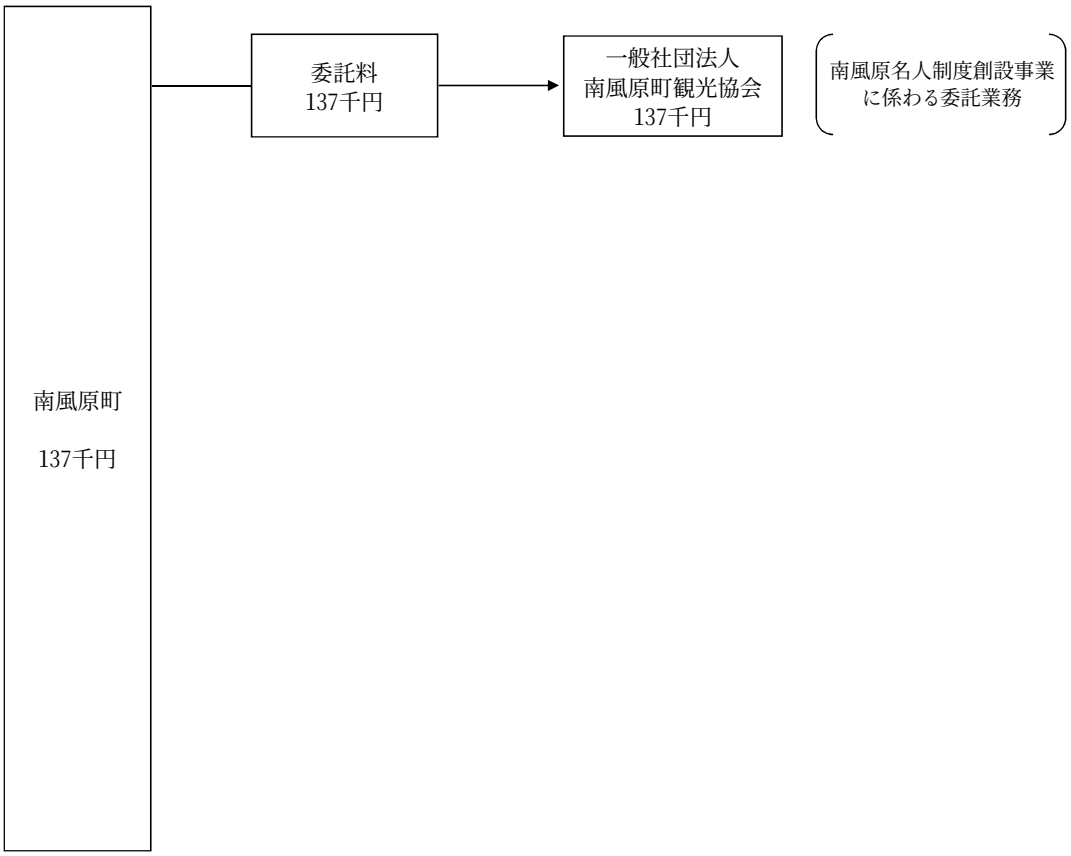
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・得意の技を持っていても人に教える事には躊躇する方が多く、そのあたりの説得に時間がかかっている。 ・修学旅行者に向けて体験学習の一端として名人の活用について、名人活用をする修学旅行の入域客を増やすためには民泊担当者との連携も必要になってくる。	・町内における民泊家庭の開拓とともに、名人制度の周知を図る。 ・町内の諸団体との連携をとり名人の発掘に努力をする。 ・町内の各組織においても名人の活用を奨励する。 ・南風原町を訪れる修学旅行の団体などに周知をして活用を図る。 ・民泊受入家庭に向けて名人を活用した、体験学習のカリキュラムをくみ民泊受入家庭でも体験学習ができるような研修を行う。 ・体験発表の場を増やし、名人として教えることを経験してもらう。

今後の取り組み方針

名人の数を増やし、体験学習のアイテムを多様化していく。
旅行社や学校などに取り組みの周知を図る。
民泊家庭との連携で、南風原町の特色を活かした名人の活用を図るリ、民泊受入家庭向けの名人を活用した講習会を開催する。
町内各組織で活用をしてもらう事により、名人の取組趣旨を理解してもらい名人を増やしていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
137	137	109	28	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○観光協会に委託したことにより、観光協会と地域が協働でまちづくりに参加することができた。 ○予算の状況の説明のとおり予算を減額となっているが、事業内容に基づく事業執行を行うためのものであり、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑪	民泊啓発推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 世界水準の観光リゾートの形成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２５～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

本町には宿泊施設がないため、滞在型観光の振興の妨げとなっている。宿泊体験の推進を図り、滞在型観光を促進するため、企画･運営職員を配置し、宿泊体験家庭の開拓やシステムの構築など行って、観光推進体制を強化していく。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,598				
	(b)予算現額	2,644				
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,954				
	(d)繰越額	0				
	A. 計(b+d)	2,644				
B. 執行済額		2,337				
うち交付金充当額		1,869				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		88.4%				

予算の状況の説明

･当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。
･企画職員の1ヶ月弱の不在による人件費の減と消耗品費を自前で購入したため1,954千円の減額が生じた。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
宿泊体験家庭数	目　標	(　5家庭　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	9家庭			
宿泊体験受入数	目　標	(　25名　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	0名			
宿泊体験事業者講習会	目　標	(　6回　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	6回			

･平成25年7月から事業を開始し、職員を採用し2ヶ月取り組んだが継続できなく職員が退職し、交代職員を9月より採用。当面は民泊を理解してもらう事に重点を置き各家庭を訪問した。しかし、民泊に対する理解不足もあり受入家庭の開拓が難航した。
そのため、受入に関心のある家庭に対して料理講習会や体験学習講習会、直接に他地域の民泊家庭を訪問し民泊体験をするなどの取組を行った。同時に受入家庭を開拓したころには、修学旅行の秋のシーズンは過ぎており宿泊者の受入数は無くゼロで終わった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(27年度)
宿泊体験家庭数	目　標	(　)	(　5家庭　)	(　)	(　)	(　20家庭　)
	実　績		9家庭			
宿泊体験受入数	目　標	(　)	(　25名　)	(　)	(　)	(　)
	実　績		0名			

進捗状況説明

･民泊家庭の開拓の為、種々の体験学習や既存の民泊家庭を訪問して民泊体験をすることにより、9家庭が民泊の登録を完了し受入体制が出来たが、その時点で修学旅行の時期は過ぎており今年度の修学旅行の受け入れは断念しなければいけない状況であった。

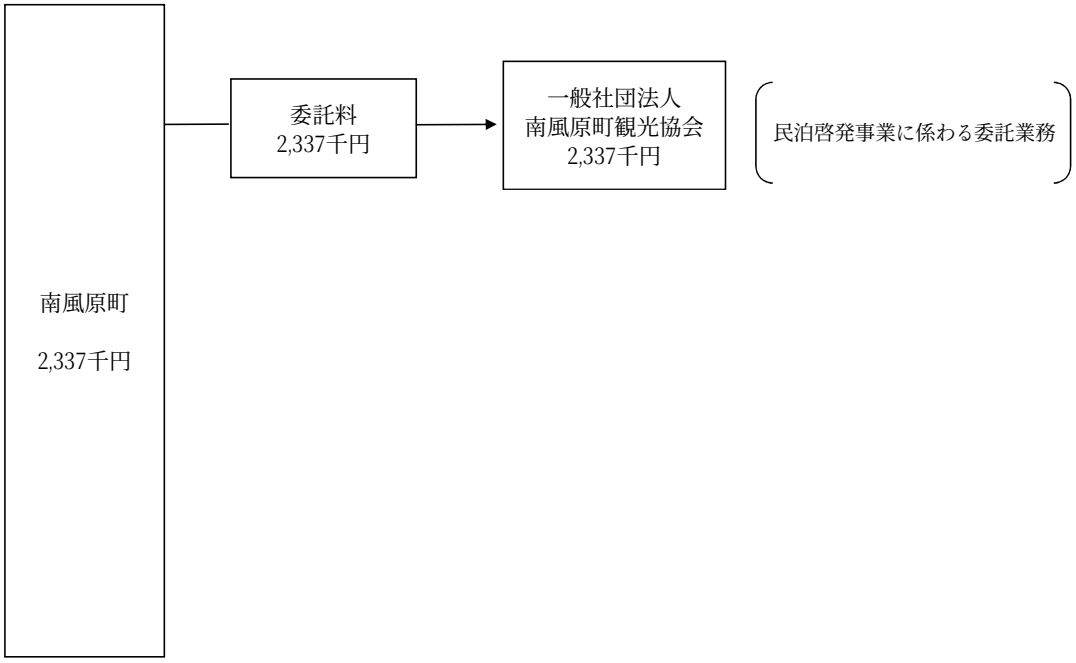
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・南風原町は那覇市近郊ということで子供たちは学校を卒業しても自宅から通勤をするため空き部屋が少ないとともに、民泊に対する関心も薄く、時間をかけて増やしていく事が必要である。 ・民泊の対象である学生の修学旅行における宿泊先は、2年先まで決まっている状態であり、民泊受入家庭を開拓したり、学校へPRを行ってもすぐに誘客は出来ない状況である。	・町内における民泊家庭の開拓は、難航しているが区長会や町内の諸団体、各家庭を訪問し、民泊の説明をすることで理解を得ていく。 ・南風原町と関係のある他県に修学旅行における民泊や体験学習の単独営業をしていく。 ・南風原町に平和学習で訪れる学校・旅行社に営業活動を行っているが、それを続けていき南風原町の良さをＰＲしていく。 ・南風原町単独で修学旅行生の民泊受け入れが実施できるまでの期間は受入家庭が経験を積むことができるようにしていく。

今後の取り組み方針

・民泊家庭間で食事内容や応対などに差が出ないようにするために、民泊家庭が少数の時点から組織化して、料理や体験学習、受け入れ応対など横の連絡を密にし常に情報の交換を行い民泊品質の均一化を図る。具体的にはマニュアルを作成し、民泊の受け入れをやりやすくする。また、民泊家庭が取り組む体験学習などについて、講習会などを開催して民泊家庭の理解を深め、受け入れ数を増やしていく。
・南風原町単独で修学旅行生を民泊受け入れ実施ができるようになるまでの間（2～3年間）には、民泊を実施している他の団体と連携をすることにより、一部の受け入れなどを実施することで、1年目から民泊受入家庭に修学旅行生を受け入れてもらうよう取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,337	2,337	1,869	468	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○観光協会に委託したことにより、観光協会と地域が協働でまちづくりに参加することができた。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑫	南風原町地域発信力強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(6)－イ 地域社会を支える人材の育成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

ヘチマ生産日本一を誇る本町では、南風原産へちまの愛称を「はえばる美瓜（ヒュウリー）」と名付け、本町のブランド化を図るため、ビュウリーズダンスユニットを結成した。
そのビュウリーズダンスユニットを活用し、物産展やイベント等で、販売促進活動を行い、南風原産へちま及び本町の観光ＰＲを図り、本町の魅力
等情報発信を行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,390	3,125			
	(b)予算現額	2,649	2,977			
	(c)増減額(b-a)	▲ 741	▲ 148			
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	2,649	2,977			
B. 執行済額		2,459	2,883			
うち交付金充当額		1,967	2,306			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		92.8%	96.8%			

予算の状況の説明

・イベント等への出演のためレッスンに対する謝金を予定していたが、特別なレッスンを行わずに出演できるレベルまで実力を上げることができたため、148千円の減額となった。
・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
町ＰＲ活動イベント出演	目　標	(　－　)	(　5回　)	(　　)	(　　)
	実　績		24回		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明

・平成25年4月1日ビュウリーズダンスチームが本町より『南風原町へちま大使』へと任命され、各方面のイベントに24回参加した。
・NHKの全国放送での『はえばる美瓜』のＰＲ活動、ＲＢＣ(ラジオでのへちま大使としてのＰＲ活動や町内各字の夏まつり、病院の秋まつり、他町でのはえばる美瓜ＰＲ活動イベントなどにも出演した。
・イベント参加の為に、練習を月2回程度で年間23回行った。
・平成24年度はダンススクール開催やマナー講習会開催を活動目標としていたが、観光客や来訪者の対応に当たれることや、イベントへの積極的な参加をその目的としており、活動の初期段階の目標は達成できたため今年度はPR活動イベント出演を目標としている。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
町ＰＲ活動イベント出演	目　標	(　　)	(　－　)	(　5回　)	(　　)	(　20回　)
	実　績			24回		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明

・町特産の『はえばる美瓜』のＰＲ活動を行っていく中で、子供達が自分たちの住んでいる地域の特産を知ることが出来るということと、堂々と人前に立ち、発表できる子が増えている。さらに、南風原町は食用ヘチマ生産日本一ということを町内外にPRし、認知度を上げている。
・月2回のペースでイベント依頼があり、子供達の意識も上がり向上心も出てきている。
・平成24年度はダンススクール開催やマナー講習会開催を活動目標としていたが、観光客や来訪者の対応に当たれることや、イベントへの積極的な参加をその目的としており、活動の初期段階の目標は達成できたため今年度はPR活動イベント出演を目標としている。

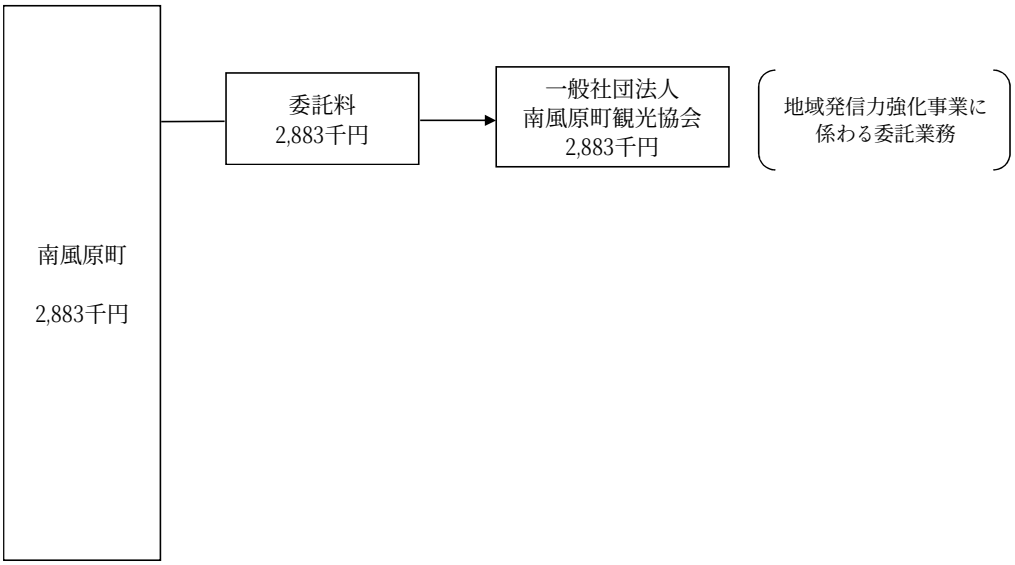
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・様々なイベントに参加していますが、へちまについては『はえばる美瓜』の名称よりも『へちま』ということが強い印象がある。 ・Beaury'sは、小学生ダンスチームで活動しているので、練習やイベント参加する際、夜に行うことがあるので、保護者の理解と立会い及び送迎が必要となる。	・Beaury'sとして更なる活動向上をしていく上で、ビュウリーズのメンバーは、はえばる美瓜や南風原町のことについて勉強会を開催して勉強をする。 ・南風原産へちまの愛称の『はえばる美瓜』という名称を浸透させていく必要がある。 ・ダンス向上を図るために、練習を重ねたりイベントに参加するには保護者の協力が必要となり、保護者との意思疎通を緊密に行う。

今後の取り組み方針

・小学生ダンスチームのため、卒業していく子供の後継者を町内小学校に公募して、南風原町の子供達の多くが、自分たちの地域を意識することの出来る機会を増やしていく。
・はえばる美瓜のPR活動をしていくために勉強会を行ったり、イベント・メディア出演を広げていき、南風原町のPRをする活動を推し進めていく。
・新しくレッスンをはじめている子供達の積極性を引き出し、次世代のBeaury'sを育て、地域の子供達を育てていく。
・町内のさまざまな分野のイベントと連携し南風原町の活性化に繋げるためPR活動を行い、練習を重ねていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,883	2,883	2,306	577	0



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本業務の実施にあたっては、南風原町の歴史、背景や地域性の理解と企業との連携観光町作りの知識と経験、さらには南風原町のまちづくりに関わる人材づくりが求められる。南風原町の町づくり関わる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○観光協会に委託したことにより、観光協会と地域が協働でまちづくりに参加することができた。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑬	ヒーローのまちづくり事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－（2）－ウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容	全国的ヒーローである「ウルトラマン」の生みの親である金城哲夫さんは本町出身です。本町の観光振興、地域活性化のため、金城哲夫さんにちなんだまちづくりを行う。町民主体に誘致活動を行い、金城哲夫さんのフォーラムやウルトラマン映画上映、脚本コンペ、映像化を定期的に行い、地元客及び観光客を本町へ誘導し、活性化を図る。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,568				
	(b)予算現額	3,456				
	(c)増減額(b-a)	▲ 2,112				
	(d)繰越額					
	A. 計(b+d)	3,456				
B. 執行済額		3,389				
うち交付金充当額		2,711				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		98.1%				

予算の状況の説明

・当初予算では、消費税を計上していたが、消費税免除事業者として認定されたことと、契約の際、内容等を精査し契約を行ったために生じた残額である。
・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
イベント、フォーラムの開催	目　標	(　2回　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	5回			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明

・夏休みキッズパークというイベントの中で、ウルトラマンの上映会（イベント）を1回、また金城哲夫生誕75周年祭を行い今年度の誘客数1,000人を8,274人と大きく上回る事が出来た。金城哲夫生誕75周年祭では、地域住民といっしょに運営委員会を立ち上げ、企画・イベントを開催、宣伝等に力を入れる事ができ、目標人数を達成。南風原町民のみならず、県内外の多くの方にイベントに来て頂いた。
アンケート結果⇒町内49%　町外46%　県外5%
金城哲夫住民会議のメンバーと、脚本コンペ計画を立案し作成した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(29年度)
イベント、フォーラムの開催	目　標	(　)	(　2回（1,000人）)	(　)	(　)	(　5,000人　)
	実　績		5回（8,274人）			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明

・今年度のヒーローのまちづくり事業で、南風原町の偉人「金城哲夫氏」をPRし、町民及び県内外に南風原町の偉人「金城哲夫氏」の事を、知ってもらう事が出来た。
・同時に町民で組織する「金城哲夫とウルトラマン住民会議」が、大きく前進し町民主体のまちづくりが行われ始めた。
・今後も、金城哲夫氏関連のイベントやフォーラムを定期的に行う事によって、より多くの方に南風原町の偉人である金城哲夫氏を知ってもらい、地元客や観光客が南風原町を訪れ、町の活性化につなげていく素地ができつつある。

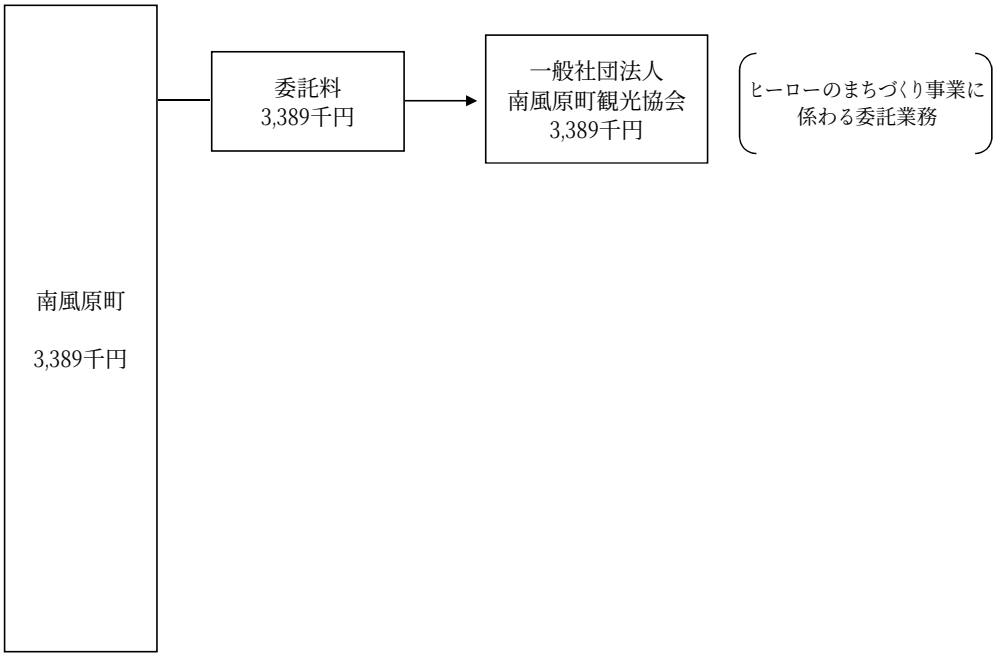
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・イベントを開催するにあたって、金城哲夫とウルトラマン住民会議（地域住民の団体）の協力が必要不可欠であるが、企画を行っていくにあたり、お互いの時間的調整が難しく、会議数や時間外の仕事が増えてしまった。 ・イベントの内容が大きかった為、担当者が一人という事がとても大変だった。例えば、運営委員や関係者が約50名以上いた為、文書の配布や連絡事項の伝達に時間がかかった等。	・金城哲夫とウルトラマン住民会議（地域住民の団体）と連絡調整を細目に行い、会議数や時間外の仕事を少なくしていく。 ・担当者を二人以上にし、お互いで協力しあって、大きなイベントにも取り組んでいく。

今後の取り組み方針

・イベント（上映会）・フォーラム定期的に行う。
・金城哲夫とウルトラマン住民会議（地域住民の団体）と連携をして、平成25年度に行った脚本コンペ計画立案をもとに、（仮称）金城哲夫脚本大賞を実施し、第2の金城哲夫を誕生させる。
・金城哲夫氏の脚本原稿や大賞受賞原稿などを活用して、町民において上演ができるよう組織化をして練習をする。
・運営委員や関係者が約50名以上いた為、文書の配布や連絡事項の伝達に時間がかかったことと、イベントの内容が大きかった為、担当者を増員して、事業内容を充実させていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,389	3,389	2,711	678	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本業務の実施にあたっては、南風原町の歴史、背景や地域性の理解と企業との連携観光町作りの知識と経験、さらには南風原町のまちづくりに関わる人材づくりが求められる。南風原町の町づくり関わる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○観光協会に委託したことにより、観光協会と地域が協働でまちづくりに参加することができた。 ○予算の状況の説明のとおり予算を減額となっているが、事業内容に基づく事業執行を行うためのものであり、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑭	南風原町観光情報発信ツール制作事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

日本観光協会の調査では観光客が目的地決定に参考にするものとしてインターネットが1位となっていることから、南風原町観光協会のホームページを整備し、本町の観光発信ツールとして活用し情報発信を行う。観光客へ本町の魅力を迅速且つ的確に伝えていくことで、ニーズに合わせた内容充実型観光の創出及び観光客などの誘致を図る。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,861				
	(b)予算現額	3,476				
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,385				
	(d)繰越額	0				
	A. 計(b+d)	3,476				
B. 執行済額		3,413				
うち交付金充当額		2,730				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		98.2%				

予算の状況の説明

・事業完了により減額1,385千円が発生しているが、ホームページ製作委託費の入札残による補助金(変更)確定による減である。
・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
ホームページ制作	目　標	（　1件　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1件			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・平成25年7月から活動を開始。カボチャや琉球かすりなどの特産品・町内観光スポットのPRや、南風原町観光協会会員の紹介を行うページを作成し、9月1日に一般公開を行った。公開後は引き続きスポットなどの紹介ページを更新するとともに町内で行われるイベント情報やお知らせ、町紹介ムービーなどを発信している。25年度内において一般公開後、全ページにおいて計76ページの掲載を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
ホームページアクセス数	目　標	（　）	（3,000ｱｸｾｽ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		11,251ｱｸｾｽ			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・平成25年9月から一般公開を開始し、3月31日時点で11,251件のアクセス数をカウントしている。ホームページの活用法として、他都道府県に対して町内イベント情報の告知による誘客や南風原町紹介パンフレット請求の窓口として利用している。
・このホームページのアクセス解析を行うことにより、観光協会ホームページにアクセスする(関心を持っている)おおよその年齢層や、検索されたキーワードによってユーザーの潜在的ニーズを知り、南風原町のどのような事に関心が高いのかという分析につなげる。
年齢層：18～24歳　27.5%　　25～34歳　33.5%　　35～44歳　15.5%
キーワード：南風原町観光協会　7.56%　　はえるん　1.42%　　金城哲夫　1.03%

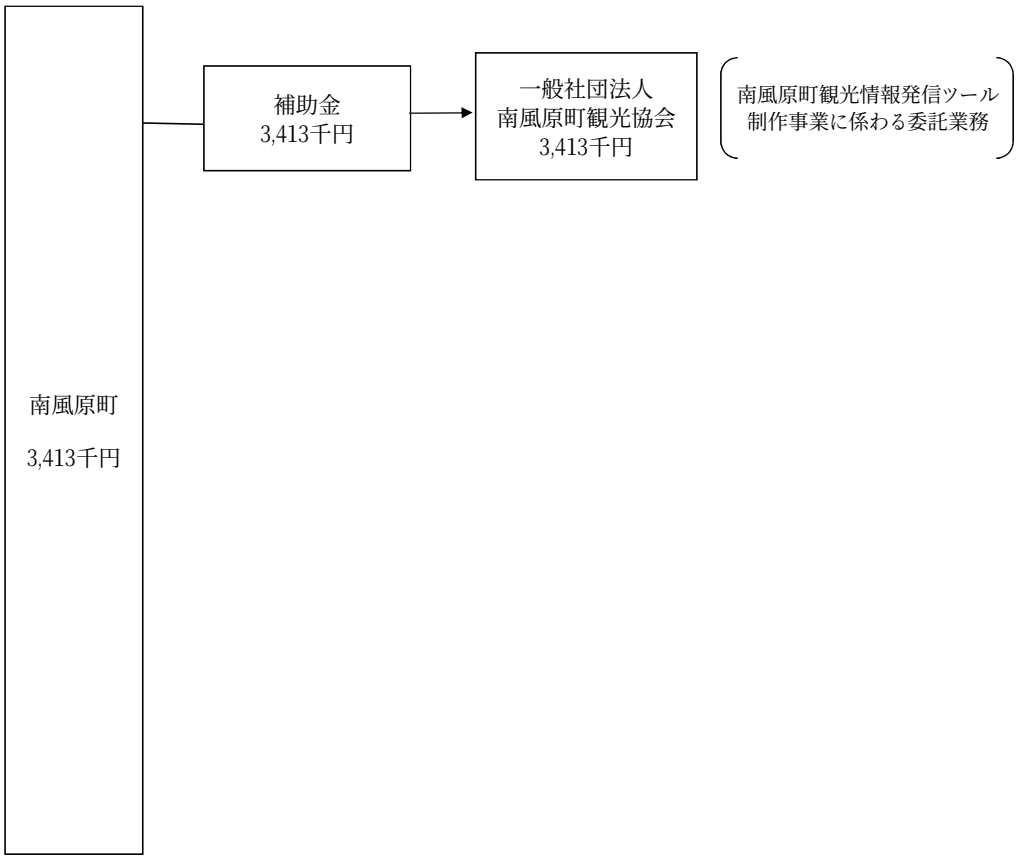
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ホームページを更新するにあたり、どうしても更新者1人よがりになってしまいページの掲載情報に偏りが出てしまいがちである。 ・ホームページを更新できる者が担当者1人のためページ更新回数に限りがあり、不在時の急な対応に対して応対できない。	・ホームページ運営委員会を立ち上げ、5人を配置。当ホームページに関して討議を重ねることにより、複数の視点による均等な情報発信をしている。 ・担当者以外の職員に対しての操作方法の伝達を行い、更新回数の増進を図る。

今後の取り組み方針

ホームページ更新マニュアルの作成を行い、事務所に設置。全職員に講習会し、誰でも操作を行えるよう体制を整えより活発な情報発信を促す。
各事業による情報発信を実現化し、ホームページによる観光協会主催ツアー等の予約・申込を簡易に行えるようにする。
本土でも南風原町をより身近に感じてもらえるよう町内の特産品であるカボチャやかすりや南風原町ゆるキャラはえるんグッズなど、南風原町で生産されたものをネットを媒体として販売を行う。ホームページ運営委員会を立ち上げ、5人を配置。当ホームページに関して討議を重ね内容のブラッシュアップを行い、アクセス数を増やしていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,413	3,413	2,730	683	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○南風原町の観光情報発進を観光協会が担っていることから、観光協会へ補助を行った。 ○本町観光協会は平成25年に設立しており、運営資金を100%町補助で運営しているため、負担困難と判断したため、補助金であるが受益者負担を課していない。 ○観光協会に補助したことにより、観光協会と地域が協働でまちづくりに参加することができた。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑮	黄金森公園スポーツ施設活性化事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－２－(1)－イ 健康･長寿おきなわの推進
担当部課名	教育部　教育総務課	事業実施(予定)年度	平成２５～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(1)

事業内容

良好なスポーツ･トレーニング環境の提供により環境と結びつけたスポーツコンベンションの誘致、開催を図るため、「黄金森公園陸上競技場」の競技機器の整備を行う。陸上競技用の投擲囲い･走高跳及び棒高跳びマットの購入、サッカー用としてサッカーゴール（ジュニア用）を購入し、環境の整備を図る。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	18,580				
	(b)予算現額	18,580				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	18,580				
B. 執行済額		18,238				
うち交付金充当額		14,590				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		98.2%				

予算の状況の説明：･当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
黄金森公園陸上競技場の競技機器整備(棒高跳び用マット、走り高跳び用マット、円盤投げ用ゲージ等)	目　標	（　整備完了　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	整備完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：･黄金森公園陸上競技場の競技機器について、棒高跳び用マット、走り高跳び用マット、円盤投げ用ゲージ、サッカー用ゴールポスト･ネット、役員席用机を当初の計画通り整備することができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
黄金森公園陸上競技場の競技機器整備(棒高跳び用マット、走り高跳び用マット、円盤投げ用ゲージ等)	目　標	（　）	（整備完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		整備完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：･黄金森公園陸上競技場の競技機器整備により環境が整備され、観光と結びつけたスポーツコンベンションの誘致が期待できる。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・環境の整備を進めていく上で、本町の現状やニーズなどを常に把握し、効率的に環境の整備に取り組んでいかなければならない。	・現在黄金森公園陸上競技場で練習や合宿等により活用している団体については、リピーターとなるよう取り組む必要がある。

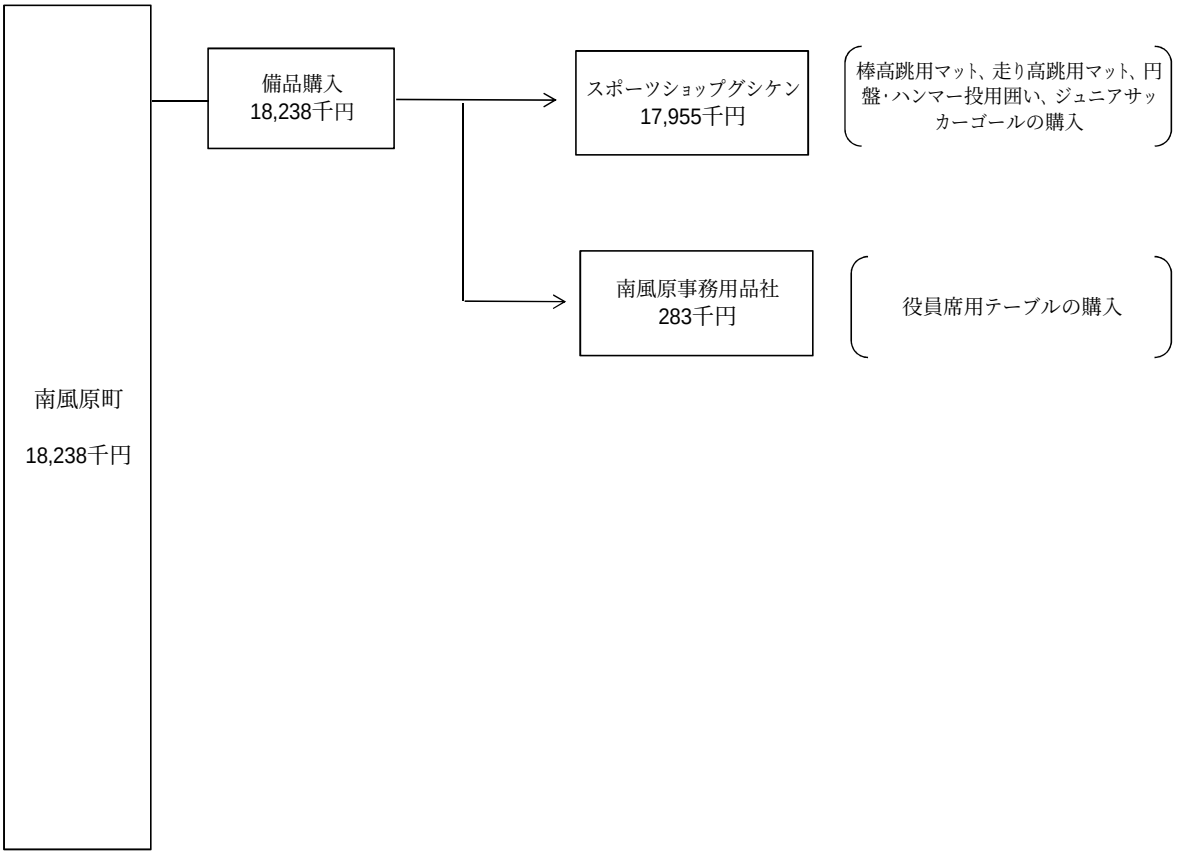
今後の取り組み方針

・リピーターを増やすために、施設の使用状況や活動状況を把握し、どのような整備が必要なのか検証を行い、環境の整備に取り組む。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,238	18,238	14,590	3,648	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令に基づく指名競争入札及び随意契約による購入のため、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑯	南風原町観光振興計画策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	平成25年4月に南風原町観光協会が発足した。推進基盤が整備されたのを機に、本町の豊富な観光資源を活かした総合的･効果的な観光振興をより一層推進するため、町、観光関係団体、観光事業者、町民などが観光立町の実現という共通の目標に向かって、それぞれの立場で取り組むものと位置づけた観光振興計画を策定する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,558				
	(b)予算現額	3,150				
	(c)増減額(b-a)	▲ 408				
	(d)繰越額					
	A. 計(b+d)	3,150				
B. 執行済額		3,150				
うち交付金充当額		2,520				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明	･予算が減額となっているが、南風原町観光振興計画策定委託業務の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
観光振興計画策定	目　標	（観光振興計画策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績	観光振興計画策定			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	･南風原町観光振興計画策定委員会を立ち上げ、策定に向けて委員会を3回開催し、観光振興計画を策定した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
観光振興計画策定	目　標	（　）	（観光振興計画策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績		観光振興計画策定			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	･南風原町観光振興計画を策定し、今後の南風原町の観光振興計画の基本となる内容になった。

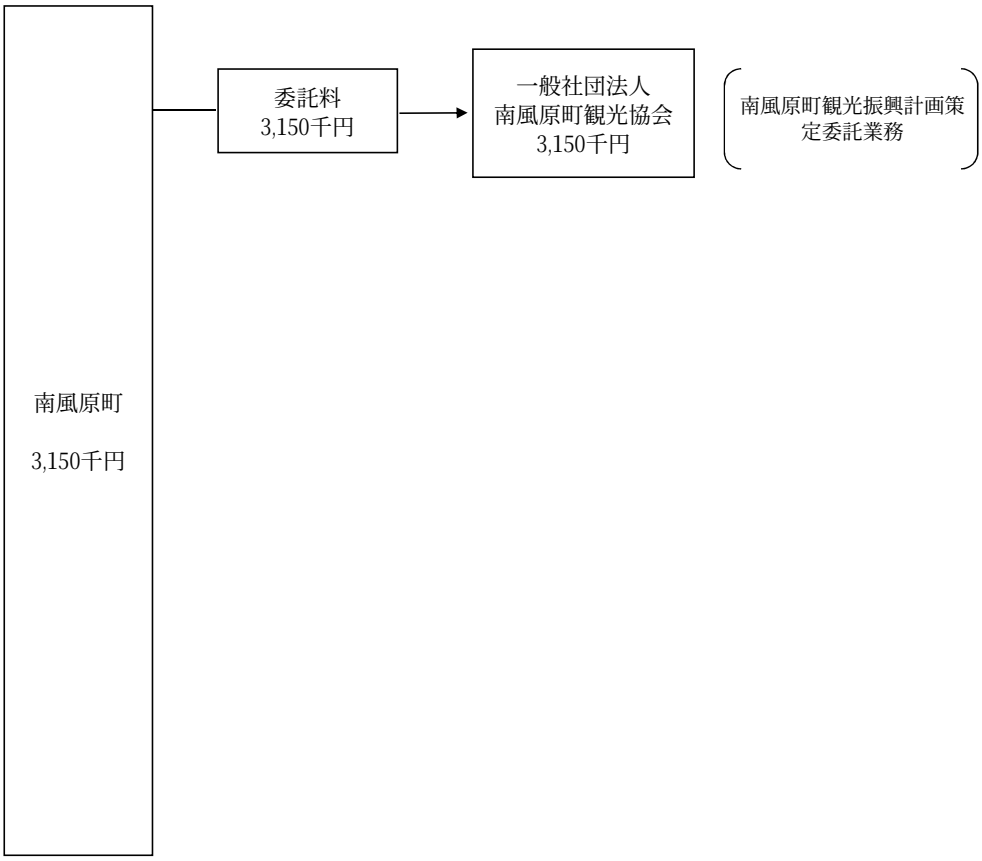
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・今回策定した南風原町観光振興計画を効果的に運用しなければならない。 ・南風原町観光振興計画策定の中において、南風原町は、他地域には見られない特異な観光資源を有していながら、観光資源に対する町民の認識が薄く、観光業の取り組みも低かったとの指摘があった。	・観光協会や南部広域観光協会、商工会など関係機関との連携が必要。 ・南風原町の他地域には見られない文化や史跡、伝統工芸や伝統文化が、非常に優れたものであることを再認識させつつ、観光振興計画を基に、観光資源に対する町民・観光業者の意識高揚を図る事で、官民一体の更なる観光PR、ホームページや広報、SNS等のあらゆる情報場板を活用した啓発活動を行っていくことで、より一層の観光地として確立を目指す。

今後の取り組み方針

観光協会や地域住民、関係機関にも観光振興計画策定の目的等を啓発し、共に運用していきたい。
啓発活動として南風原町観光パンフレット、観光ポータルサイトの強化、地域住民への観光の意識向上のため、観光協会がフォーラムや講演会を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,150	3,150	2,520	630	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は入札方式により実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2－⑰	シマじまガイド事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 世界水準の観光リゾート地の形成
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

着地型観光メニューとして「シマじまガイド」(町内ディープな名所案内巡り)を実施し、本町の観光まちづくりを推進している南風原町観光協会に委託する。
「シマじまガイド」では、訪問客に地元の魅力をあますところなく伝えようと、これまでにない新しいまち歩きコースを策定し、参加しやすさ、定時出発をキーワードに南風原町内に広く展開していく。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,132	4,240			
	(b)予算現額	1,132	4,240			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	1,132	4,240			
B. 執行済額		1,132	4,172			
うち交付金充当額		905	3,337			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	98.4%			

予算の状況の説明：・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
シマじまガイド事業利用者数	目　標	(　－　)	(　1,300人　)	(　　)	(　　)
	実　績		1,458人		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：
・指数を平成25年度より人数に変更しました。事業開催1回あたりの利用者数にばらつきがあり、回数よりも利用者数での指数は成果をたてやすい。
・南風原町内の集落にある昔からの生活習慣や、文化、芸能など従来の観光とは一味違った他地域にはないガイドをめざしてシナリオづくりから始め、町内に伝統的にある綱引き行事などを集落の住民と一緒になって観光客の誘客をしたり、町内の12ある集落の歴史や先人の遺跡を調査し、資料を整えてきた。
・同時に南風原町は平和学習の中心地であり、多くの修学旅行生が訪れる。その中で平和講座をしてほしいとの要望があり語り部の発掘養成や講座の開催も同時に進めて1,285人の修学旅行生に平和講座を行っている。
・平成25年度は、語り部の高齢化により、今後の語り部の発掘調査と体験講話のシナリオ製作をおこなったので、回数や利用者数が減になりましたが、今後は当初の平成24年度の回数まで実績を上げるよう、内容を充実させ、情報発信に努める。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
シマじまガイド事業利用者数	目　標	(　　)	(　1,000人　)	(　1,300人　)	(　　)	(　1,450人　)
	実　績		3349人	1,458人		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：
・シマじま案内をシナリオづくりから始め、各集落の案内等を企画してきた。沖縄まちまーい実行委員会に加入し、他市町村との意見交換等の場を持つことで、事業の内容充実に努めている。
・平成25年度は、語り部の高齢化により、今後の語り部の発掘調査と体験講話のシナリオ製作をおこなったので、回数や利用者数が減になりましたが、今後は当初の平成24年度の回数まで実績を上げるよう、内容を充実させ、情報発信に努める。

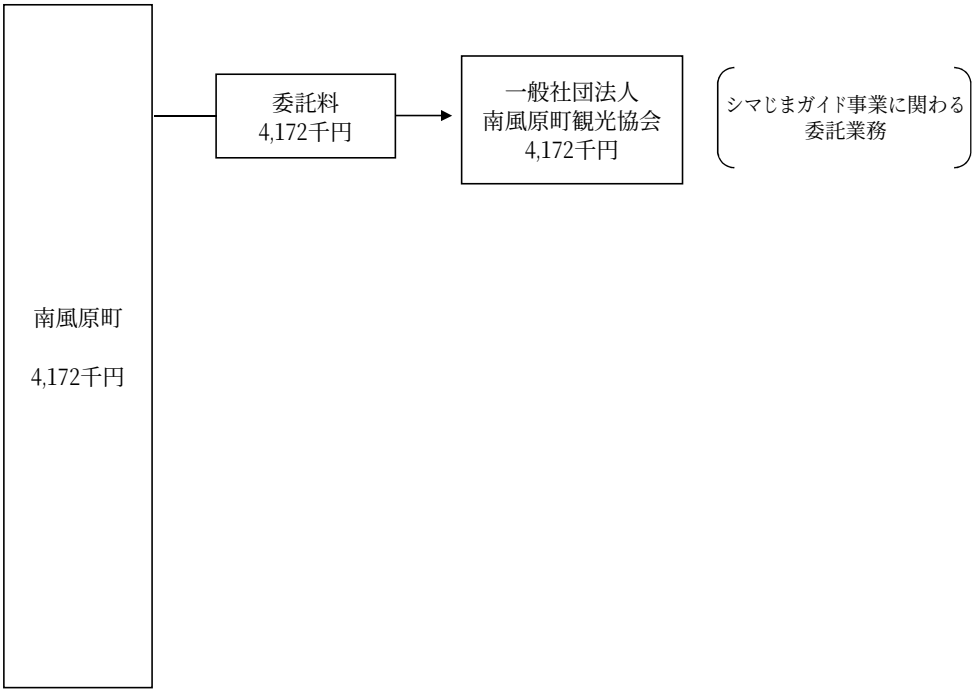
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・集客を伸ばすために、ホームページと新聞で行っている案内告知をさらに充実させる必要がある。 ・案内をするガイドの養成も急務である。 ・少人数でも出来るシステムを構築する必要がある。	・町内の綱引き等の行事など事前に分かっている行事は5か月前から組立て告知をすること他地域からの集客につなげる。 ・観光協会職員を含めて案内ガイドの養成講座を行う。 ・観光客の要望によっていつでも案内が出来るよう、観光協会職員による案内業務も検討し行うことが必要。 ・開催告知を旅行業者への売り込みも視野に入れ、ブラッシュアップが必要となってくる。

今後の取り組み方針

・イベント事項は、5か月前より計画をして、旅行社などに告知をして集客依頼をする。
・観光協会職員を含むガイド養成講座を開催する。
・常時、客の要望により案内が出来る体制を整える。
・案内シナリオの追加作成を進める。
・他地域と違った沖縄の文化、習慣などを案内ができるパンフレット等を製作する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,172	4,172	3,337	835	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体である。観光発進は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。 ○観光協会に委託したことにより、観光協会と地域が協働でまちづくりに参加することができた。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－①	はえばるリサイクルループ事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－(2)－ア 持続可能な循環型社会の構築
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１０－(1)
事業内容	町内での食品廃棄物の循環を構築するため、町内で発生する食品廃棄物(生ごみ、廃食用油含む)を分別回収し、それらで養豚用飼料や堆肥、バイオディーゼル燃料を生産する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	12,596	16,520			
	(b)予算現額	12,596	16,520			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	12,596	16,520			
B．執行済額		11,539	14,867			
うち交付金充当額		9,231	11,893			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		91.6%	90.0%			

予算の状況の説明：・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標を鑑みて適正であったと考える。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
生ごみ(家庭系)の年間資源化量	目　標	(　45トン　)	(　45トン　)	(　　)	(　　)
	実　績	37トン	32トン		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：・生ごみの回収量を増やすために、回収地域へのチラシ配布や広報等で生ごみ回収参加の呼びかけを行った。見込んでいたほど回収世帯の件数を増やすことができず、年間資源化量は目標を下回った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
生ごみ(家庭系)の年間資源化量	目　標	(　35トン　)	(　45トン　)	(　45トン　)	(　　)	(　89トン　)
	実　績		37トン	32トン		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：・生ごみの回収量を増やすために、回収地域へのチラシ配布や広報等で生ごみ回収参加の呼びかけを行った。見込んでいたほど回収世帯の件数を増やすことができず、年間資源化量は目標を下回った。食品廃棄物の循環を構築するため年間資源化量の増加に今後も努める。

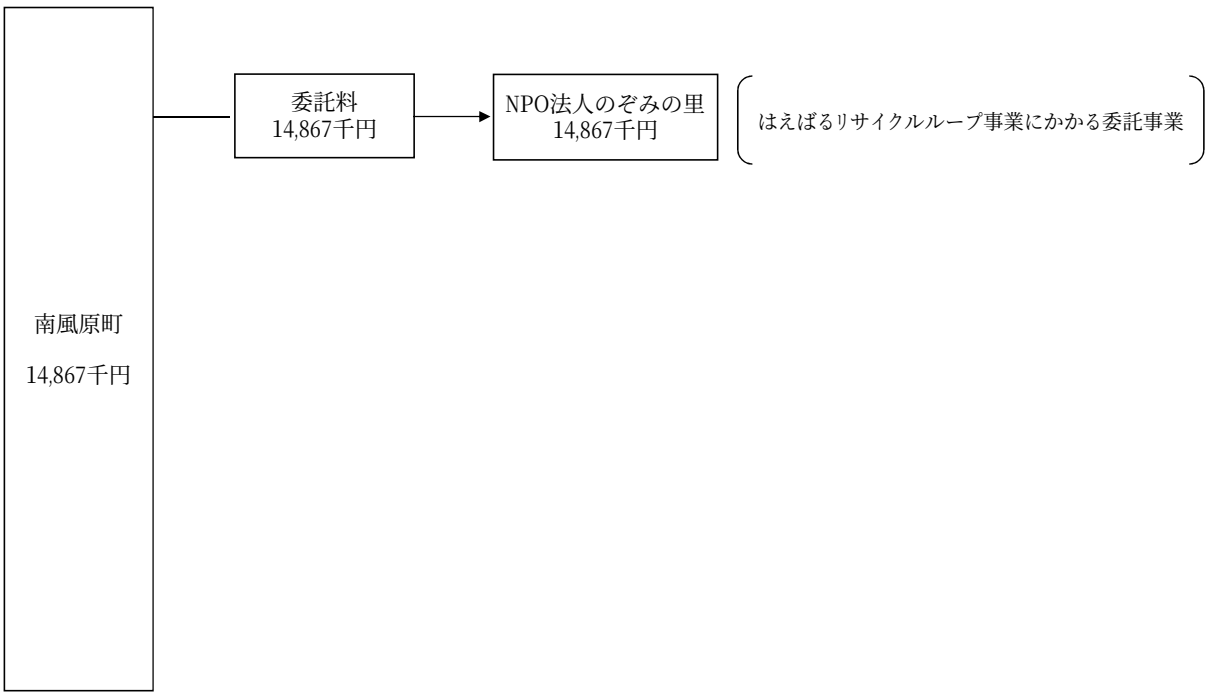
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・活動目標の生ごみの年間資源化量が目標達成できなかった要因として、チラシ配布が回収地域全体へ配布回数が少ないことや、広報等での募集案内の回数が少なかったことが考えられる。	・活動目標を達成するために、回収地域全体の募集人数の拡大をはかるため、チラシを定期的に配布できるよう計画することや、町広報紙での募集案内の回数を増やすことが必要である。

今後の取り組み方針

町内の各家庭や飲食店等からの生ごみや廃食用油の回収量を増やすことで、養豚用飼料や堆肥の生産増による食品廃棄物の循環の環の拡大を目指す。
また目標を達成するために、募集人数の拡大のためのチラシの配布計画及び町広報紙等での募集案内を増やしていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,867	14,867	11,893	2,974	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は平成20年度から町内の食品循環資源である生ごみの回収処理の事業を請け、分別及び飼料化・堆肥化、廃食油の燃料化及び養豚を行うリサイクルループ事業を展開している。他に町内の業者及び近隣地域でこの事業を展開できるところがないために随意契約としているため、選定は妥当と考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－②	環境学習支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(1)－オ
					自然環境の保全･再生･適正利用
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(1)
事業内容	児童館や学校、教育委員会等と連携し、小学4、5年生を対象に、専門家による「体験型」の環境教育･環境学習を実施する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	630	788			
	(b)予算現額	630	788			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	630	788			
B. 執行済額		630	630			
うち交付金充当額		504	504			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	79.9%			

予算の状況の説明：
･予算については学校からの追加要望にそなえて、目標回数以上の15回分を計上していたが、当初目標の13回より1回少ない実績のため、執行率が昨年よりも下がっている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
町内4小学校の4年生を対象に環境学習「買い物ゲーム」の実施。	目　標	（12回）	（13回）	（　）	（　）
	実　績	12回	12回		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
･町内の4小学校において4年生10クラス、5年生2クラスで「買い物ゲーム」を実施した。
･実施回数については、学校との日程調整が難しく、目標とした回数より1回少なくなった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
環境学習「買い物ゲーム」体験者数	目　標	（325人）	（400人）	（450人）	（　）	（500人）
	実　績		407人	414人		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
･町内の4小学校において12クラス、合計414人の児童が「買い物ゲーム」を体験し、ごみ処理問題や環境保全についての理解を深めることができたが、学校との日程調整が難しく、目標とした人数に達することができなかった。
　しかし体験した生徒からは、「ごみを減らすことが大事なんだなと思った」「うちでリサイクルをがんばろうと思った」等の感想があり、学校の先生方からも「ごみ問題の大切さについて、もっと深く考える子が多くなった」という意見を頂き、実施した学校からは大変好評であった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・町内の４小学校において１２クラス、合計４１４人の児童が「買い物ゲーム」を体験し、ごみ処理問題や環境保全についての理解を深めることができたが、学校との日程調整が難しく、目標とした人数に達することができなかった。	・委託先と早期の契約をすることで、学校との連絡を早めに案内し、日程調整を円滑に行えるようにする。 ・町内小学校の4･5年生だけの環境教育プログラムだけでなく、他学年への導入も推進していく。 ・環境教育支援の取り組みとして、学校全体の年間スケジュールの中に環境学習としての「買い物ゲーム」を位置づけができるよう学校と事前に調整を図るよう努める。

今後の取り組み方針

学校全体の年間スケジュールの中に環境学習としての「買い物ゲーム」を位置づけし、学校への環境教育支援を広く行い、児童･生徒がごみ問題や環境問題について考え、実践することを目的としたこの事業は、学校及び生徒からも評価を受けているため、今後も継続して取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
630	630	504	126	0

南風原町
630千円

→ 委託料 630千円 → 沖縄リサイクル運動市民の会 630千円（環境学習支援事業にかかる委託事業）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先が開発した環境教育支援のための事業であるため、この委託先でしか事業ができないための随意契約である。 また、このプログラムは県内や県外、また海外でも実施されている実績があり、選定は妥当であると考える。 ○費目･使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－③	草木リサイクル事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(2)－ア 持続可能な循環型社会の構築
担当部課名	総務部　住民環境課	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(1)
事業内容	「循環のシステム」を構築するため、町内から出る草木を堆肥化し、農地で活用する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,318	7,214			
	(b)予算現額	5,501	5,714			
	(c)増減額(b-a)	183	▲ 1,500			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	5,501	5,714			
B. 執行済額		5,501	5,472			
うち交付金充当額		4,400	4,377			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	95.8%			

予算の状況の説明：・予算現額が当初予算額より1,500千円減額となっているのは、草木の回収量が当初見込んでいた量よりも減ったため、委託料の補正減を平成26年3月に行ったためである。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
草木のリサイクル量	目　標	(　340トン　)	(　450トン　)	(　　)	(　　)
	実　績	349トン	347トン		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：・町内の各家庭から排出された草木３４７トンを回収、委託業者により堆肥化され農地で活用された。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
草木のリサイクル量	目　標	(　299トン　)	(　340トン　)	(　450トン　)	(　　)	(　450トン　)
	実　績		349トン	347トン		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：・町内の各家庭から排出された草木を分別回収し、委託業者により堆肥化され農地で活用されることにより、循環のシステムが構築されている。
本年度は台風が少なく、前年度に台風被害で草木処理する家庭が多かったため、草木伐採が少なく目標に届かなかった。
(平成24年度の実績は平成24年7月から平成25年3月15日までの約9ヶ月間、平成25年度は平成25年4月から平成26年3月15日までの約1年間の実績である。よって報告トン数はほぼ同量だが回収期間に相違があるので、平成25年度は昨年度と比較して減となっている)

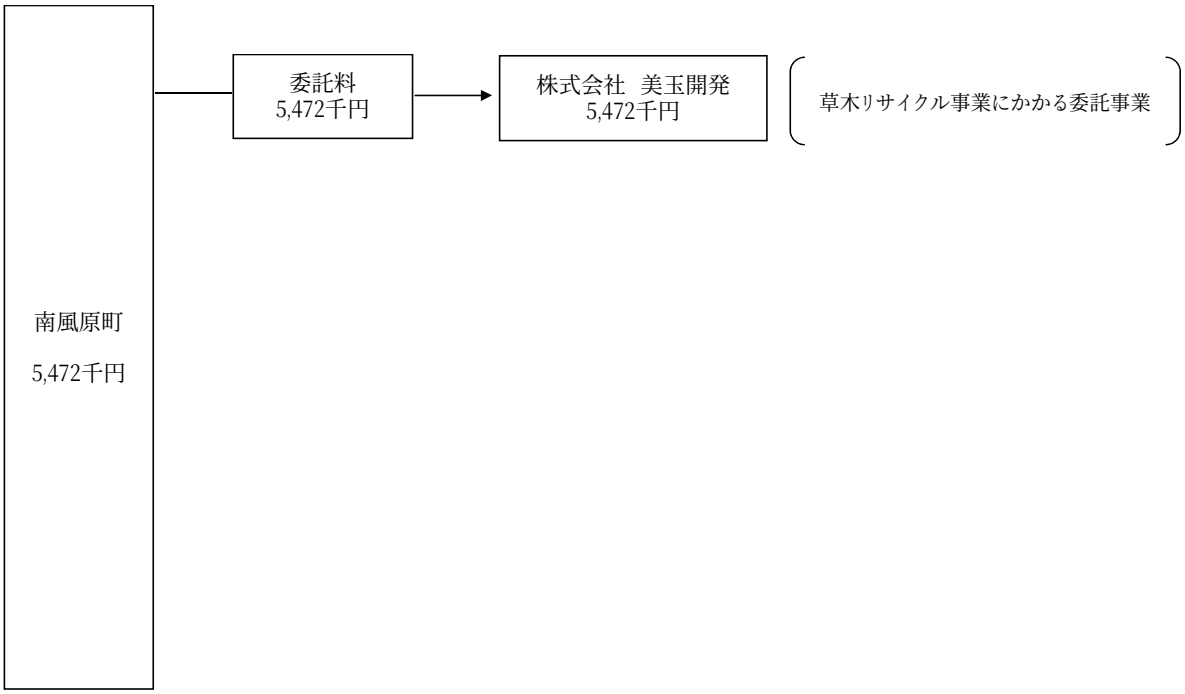
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・草木の回収時に土や草木以外の物が混入していることがあり堆肥化に支障をきたしている場合がある。 ・本来は資源ごみとして草木を回収しているが、もやすゴミとして出している場合がある。	・草木の分別指導を行い、草木以外の混入を防ぎ、堆肥化がスムーズに行えるようにする。 ・広報誌等による周知活動により、草木の堆肥化の増量を促進していく。

今後の取り組み方針

今後も分別回収を徹底し、町内から排出される草木は、すべて堆肥化できるようにし、循環型社会の構築を推進する。
そのために草木の分別指導を行い、草木以外の混入を防ぎ、堆肥化がスムーズに行えるようにする。
また広報誌等による周知活動により、草木の堆肥化の増量を促進していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,472	5,472	4,377	1,095	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の製造する堆肥は沖縄県リサイクル資材評価認定制度に認定されており、循環型社会を構築する本事業に合致するため、選定は妥当と考える。 また草木の堆肥化施設が近隣地域（町の家庭ごみ収集委託による搬入なので輸送コストも考慮）にないことからの随意契約である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－④	省エネ施設推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-⑶-ア 低炭素島しょ社会の実現
担当部課名	教育部　学校教育課	事業実施(予定)年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１０－(1)
事業内容	高温多湿な状況にある、児童生徒の教育環境の改善に向けた省エネと節電効果の対策として小中学校の普通教室に扇風機設置を行う。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	24,224	6,255			
	(b)予算現額	24,224	8,005			
	(c)増減額(b-a)	0	1,750			
	(d)繰越額	－				
	A．計(b+d)	24,224	8,005			
B．執行済額		20,474	7,938			
うち交付金充当額		16,378	6,350			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		84.5%	99.2%			

予算の状況の説明
・当初計画では、小学校普通教室にのみ扇風機設置を行う予算だったが、中学校にも設置の必要性が生じたことから、中学校にも設置が必要となり、平成２５年７月に予算流用により1,750千円増額した。
・予算は、計画通りに適正に執行することができた。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・扇風機設置 小学校1校:4台×28室	目　標	(　小学校:112台　)	(　小学校:112台　)	(　　)	(　　)
	実　績	小学校:112台	小学校:111台		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明
・平成24年度から扇風機設置の事業を行い、小学校を計画通りの設置を全て行うことができた。
・当初計画では、小学校にのみ扇風機設置だったため活動目標としては小学校だけだが、中学校にも設置の必要性が生じたことから、１１４台の扇風機の設置工事を合わせて行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
・扇風機設置 小学校1校:4台×28室	目　標	(　　)	(　小学校:112台　)	(　小学校:112台　)	(　　)	(　　)
	実　績		小学校:112台	小学校:111台		
【参考指標】	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明
・小学校は予定通り、全て設置することができた。
・当初予定にはなかったが、中学校にも設置の必要があったため台数等の確認を行い、１１４台の設置工事を行った。その結果中学校も全ての学校で設置工事を終えることができた。

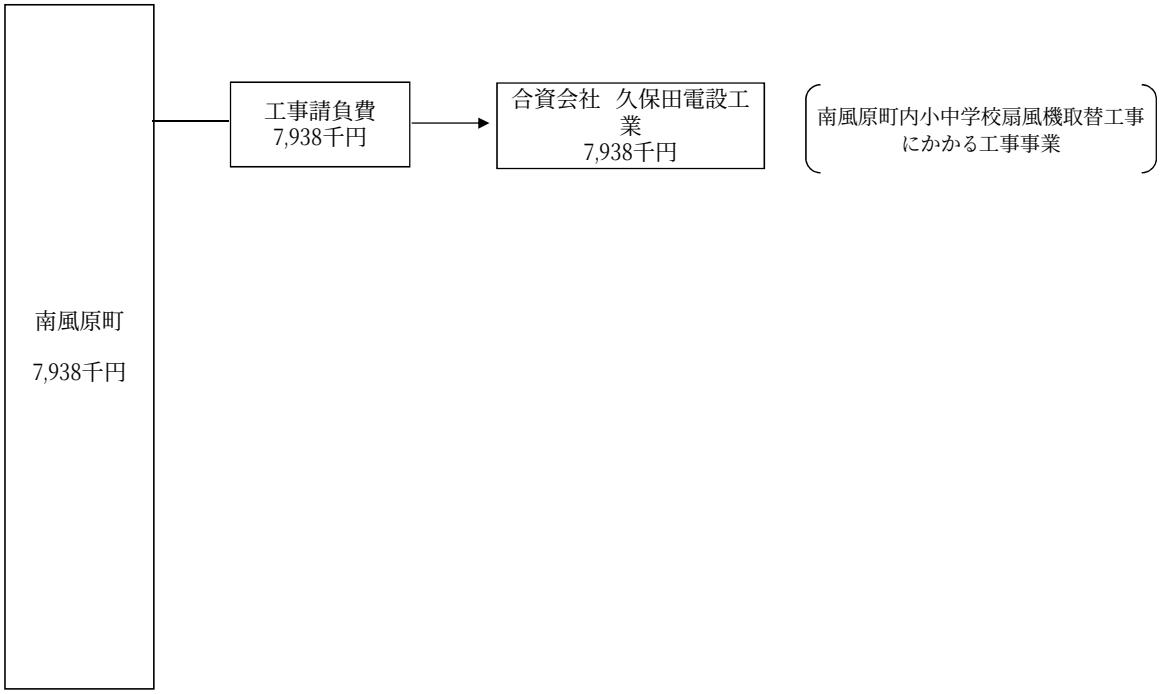
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成24年度から計画的に小学校・中学校へ扇風機を設置することができた。 ・今年度予定していなかった中学校を急遽行うことになり、台数把握や取替を行う教室の選別に時間がかかった。	・当初予定を立てる際に、学校現場などからの意見も聞きながら予定を立てるようにする。現場との連絡を密にすることで取替を行う教室や、台数を確認する時間の短縮につなげる。 ・消費電力のさらなる抑制を目指すため町内の他の公共施設において、実施可能な事業を行っていく。

今後の取り組み方針

・学校現場からの意見を聞きながら学校施設や、他の公共施設においても消費電力抑制効果を持つ事業が実施可能かどうかを検討し、可能であれば、事業を推進していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,938	7,938	6,350	1,588	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	事業者は町登録名簿から指名競争入札により選定しており、妥当であったと考えている。 費用・使途については事業目的の達成の観点から、適正であったといえる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－⑤	地域新エネルギービジョン策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(3)－ア 低炭素島しょ社会の実現
担当部課名	経済建設部　産業振興課	事業実施(予定)年度	平成２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(1)

事業内容

地球温暖化の原因となる温室効果ｶﾞｽを削減する手段として、南風原町全体で化石エネルギーに代わる新たなエネルギーの導入を検討･実施していくため、地域新エネルギービジョンを策定する。

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,819				
	(b)予算現額	3,749				
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,070				
	(d)繰越額					
	A. 計(b+d)	3,749				
B. 執行済額		3,748				
うち交付金充当額		2,998				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：･予算が1,070千円減額となっているが、委託費の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
地域新エネルギービジョン策定	目　標	（ビジョン策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績	ビジョン策定			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：南風原町地域エネルギービジョン策定委員会を立ち上げ、ビジョン策定に向けて委員会を3回開催した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
地域新エネルギービジョン策定	目　標	（　）	（ビジョン策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績		ビジョン策定			
【参考指標】	目　標	（　）	（－）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：･国や県、南風原町の現在の状況に添った南風原町地域エネルギービジョンを策定することにより、今後の南風原町の再生可能エネルギー関連施策の基準を設けることが出来た。

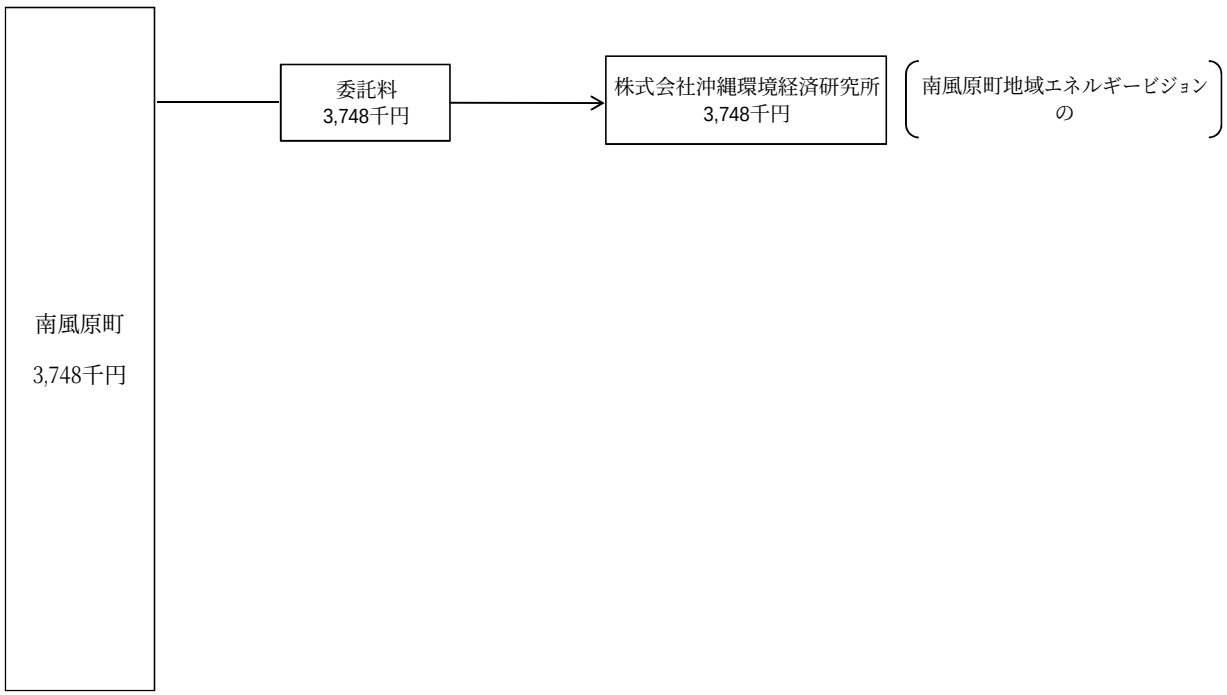
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・今回策定した南風原町地域エネルギービジョンを、今後の南風原町の再生可能エネルギー関連施策の基準とし、効果的に運用しなければならない。	・南風原町地域エネルギービジョンを効果的に運用するために、エネルギー関連施策についてPDCAサイクルを回せる仕組みづくりを行う必要がある。

今後の取り組み方針

南風原町再生可能エネルギー推進協議会（仮称）を立ち上げ、関係する部署との横断的な連携を密にすることでビジョンの推進体制を構築し、PDCAサイクルを回せる仕組みをつくる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,748	3,748	2,998	750	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－①	防災体制強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(4)－イ 社会リスクセーフティネットの確立
担当部課名	総務部　総務課	事業実施(予定)年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１０－(2)

事業内容

沖縄県は島しょ県であるため、大災害が発生すると孤立する可能性がある。町独自での自主防災として食料等の備蓄やスーパー減災マップ、地域防災計画の修正を行い、様々な災害に瞬時に対応できる体制を整える必要がある。特に、本町の地域防災計画には津波に関する項目がなく、東日本大震災での多くの被害は津波によるものである。島しょ県である沖縄だからこそ、東日本大震災を教訓にし、地域防災計画等を整え、防災体制の強化を図る必要がある。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算の状況	(a)当初予算額	157,323	0	7,525		
	(b)予算現額	140,346	0	13,710		
	(c)増減額(b-a)	▲ 16,977	0	6,185		
	(d)繰越額	－	81,900	0		
	A．計(b+d)	140,346	81,900	13,710		
B．執行済額		58,446	81,900	13,491		
うち交付金充当額		46,756	65,520	10,792		
次年度繰越額		81,900	0	0		
執行率（%）(B/A)		41.6%	100.0%	98.4%		

予算の状況の説明

・南風原町地域防災計画修正委託業務は平成25年7月の臨時議会にて6,185千円の補正を行い、予算の増額を行った。
・防災・減災お役立てマップ帳配付委託業務については、食糧等の備蓄品購入及び町地域防災計画修正委託業務の入札残を活用し、平成26年2月に993千円の流用を行い、予算の増額を行った。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・スーパー減災マップの作成	目　標	（　）	（・スーパー減災マップの作成）	（　）	（　）
	実　績		・スーパー減災マップの作成		
・3,240食分の備蓄品の購入(36,000人×1/20×3日分×3食の1年分)	目　標	（・3,240食分の備蓄品の購入）	（・3,240食分の備蓄品の購入）	（　）	（　）
	実　績	・3,312食分の備蓄品の購入	・3,312食分の備蓄品の購入		
・地域防災計画の見直し	目　標	（　）	（・地域防災計画の見直し）	（　）	（　）
	実　績		・地域防災計画の見直し		

達成状況説明

・南風原町地域防災計画を修正した。
・地域防災計画の食料等備蓄計画に基づき、人口の20分の1の3日分の食料等備蓄を目標としているため、平成25年度では、3,312食分の食料等を購入した。
・防災・減災お役立てマップ帳を作成し、各世帯へ配布した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
・スーパー減災マップの配布数	目　標	（0世帯）	（－）	（13,009世帯）	（　）	（　）
	実　績		－	13,312世帯		
・南風原町地域防災計画の「食料等備蓄計画」の目標備蓄数16,200食(36,000人×1/20×3日分×3食)に対する充足率	目　標	（0%）	（23.5%）	（44%）	（　）	（100%）
	実　績		23.5%	44.0%		
・地域防災計画の見直し	目　標	（未実施）	（－）	（地域防災計画の見直し）	（　）	（　）
	実　績		－	地域防災計画の見直し		

進捗状況説明

・地域防災計画の修正や備蓄品の購入、防災・減災マップ帳の作成を実施することにより、いつ発生するかわからない災害に備えることができるようになった。また、町独自で防災体制を強化することにより、災害に強いまちづくりの推進を図ることが可能となった。
・備蓄品の充足率について、H24～28年度の5ヵ年で100%を目標としており、2年目の25年度時点では44.0%となっているため、100%に向けての計画的な達成状況となっている。

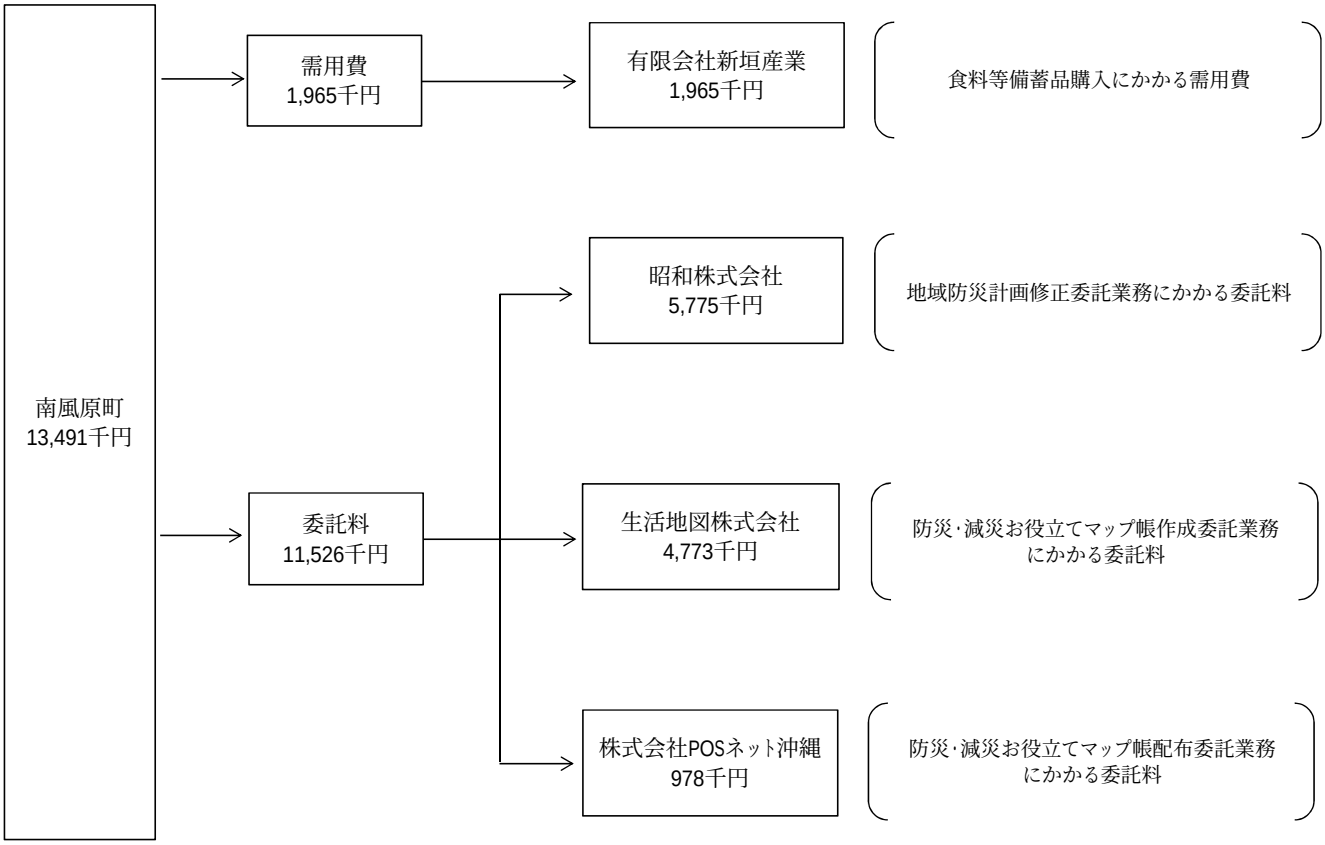
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・災害はいつ発生するかわからない為、食糧等の備蓄、防災・減災マップ帳の作成などを実施し、災害に強いまちづくりを目指していくためには、町だけではなく、住民や観光客などにおいても引き続き、災害時の行動や対応が瞬時に行えるように、啓発を図っていく必要がある。 ・東日本大震災の状況を踏まえた、南風原町地域防災計画の見直しのための計画修正委託費、減災マップ帳を町民が活用できるよう全世帯に配布するための委託費用を増額した。住民の責務や津波に関する項目等を新たに追加したことにより、当初予定していた町全体の防災体制強化を図った。また、全世帯に配布できたことで、町民の減災に対する知識普及に寄与することができた。今後は、積極的に整備した事業を基に防災訓練や避難訓練を実施し、住民等へ防災・減災啓発を行う必要がある。	・防災訓練を通し、備蓄品の必要性や避難場所の確認をすることにより、さまざまな人に防災に対する意識が芽生えるため、町全体の防災・減災に対する推進を図ることができる。

今後の取り組み方針

防災訓練や避難訓練を実施し、町全体の防災・減災体制の強化を図り、今まで以上に災害に強いまちづくりを推進していく。
住民等への啓発が課題となるため、訓練等への積極的な参加を呼びかけていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,491	13,491	10,792	2,699	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○購入先業者は、入札による落札業者の為、妥当である。 ○委託事業者は、防災計画修正業務及びマップ帳配付業務は入札による落札、マップ帳作成業務は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案したうえで選定しており、妥当である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－②	災害時避難施設改修事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(4)－イ 社会リスクセーフティネットの確立
担当部課名	総務部　総務課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(2)
事業内容	台風等の自然災害による被害が多発しているため、台風などの災害や不発弾処理等非常時の避難施設である地域公民館や集会施設の整備を行う。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,000	5,000			
	(b)予算現額	1,432	5,880			
	(c)増減額(b-a)	▲ 3,568	880			
	(d)繰越額	－	0			
	A. 計(b+d)	1,432	5,880			
B. 執行済額		1,428	5,880			
うち交付金充当額		1,142	4,704			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		99.7%	100.0%			

予算の状況の説明
- 当初5箇所の施設整備を予定していたが、2箇所の申請となっている。
- 大規模な改修となったため880千円の予算増額となった。
- 事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
避難所(公民館等)の防水改修工事(施設整備)補助	目　標	(　1箇所　)	(　3箇所　)	(　　)	(　　)
	実　績	1箇所	2箇所		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明
- 災害時の避難施設である地域公民館、コミュニティ施設(2箇所)を改修。
- 目標は3箇所の整備だったが、補助申請が2箇所となったため、2施設の改修整備となった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
施設整備補助 H24年度:1件→H25年度:3件	目　標	(23年度 0)	(1件 5%)	(3件 16%)	(　　)	(19件 100%)
	実　績		1件 5%	2件 11%		
【参考指標】	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明
- 災害時の避難施設であるコミュニティセンター(公民館)2箇所を災害に備え改修整備を行なった。いつ発生するかわからない災害に備えることができる。一次避難所(地域公民館や集会施設)を改修整備することにより、災害に強いまちづくりの推進を図ることが可能となる。
- 目標は3箇所の整備だったが、補助申請が2箇所となったため、2施設の改修整備となった。

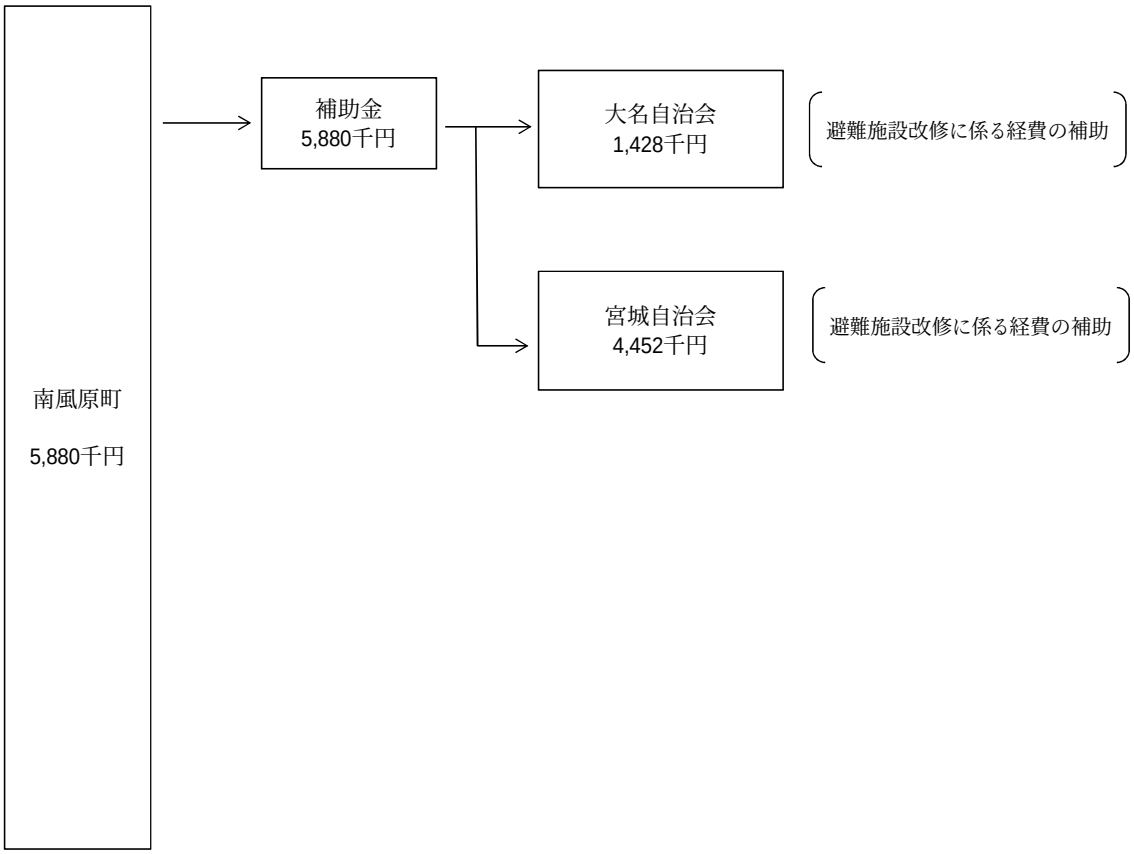
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・災害はいつ発生するかわからない為、避難施設の整備を行い、災害に備えなければならない。また、防災体制の強化を図り、啓蒙を行う必要がある。 ・積極的に、防災訓練等を開催し、災害に強いまちづくりを推進する。また、訓練を通して住民などへ、防災・減災の啓発を行う。	・防災訓練を通し、備蓄品の必要性や避難場所の確認をすることにより、様々な人に防災に対する意識が芽生えるため、町全体の防災・減災に対する推進を図ることができる。

今後の取り組み方針

整備した施設を活用して防災訓練や避難訓練を実施し、町全体の防災・減災体制の強化を図り、今まで以上に災害に強いまちづくりを推進していく。
住民等への啓発が課題となる為、施設を活用した訓練等への積極的な参加を呼びかけていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,880	5,880	4,704	1,176	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は当該補助金交付要綱に基づく地域自治組織であり妥当である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○当該補助金交付要綱に基づき8割を補助し、受益者（地域自治組織）は施設改修費の2割を負担。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－③	災害時避難施設防災体制強化事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－２－（４）－イ 社会リスクセーフティネットの確立
担当部課名	総務部　総務課	事業実施（予定）年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１０－（２）
事業内容	沖縄県は島しょ県であるため、大災害が発生すると孤立する可能性があるため、災害時の避難施設である地域公民館や集会施設の備品（ＡＥＤ）を整備する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,767	1,109			
	(b)予算現額	4,731	1,109			
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,036	0			
	(d)繰越額	－				
	A．計(b+d)	4,731	1,109			
B．執行済額		4,667	978			
うち交付金充当額		3,733	782			
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		98.6%	88.2%			

予算の状況の説明：
・事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。
・予算の執行残は、配置数の減（１自治会において既に整備済みであったため）と見積徴収による単価の減によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
自治会公民館、集会所のAEDパット、バッテリーの整備	目　標	（　－　）	（16自治会）	（　）	（　）
	実　績		15自治会		
	目　標	（　－　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
・平成２４年度は各自治会集会所等へ備蓄品の購入・防災倉庫の購入を行い目標を達成したため、平成２５年度は災害時の避難施設である地域公民館や集会施設(15箇所)に災害に備えたＡＥＤパットおよびバッテリーを購入。
・目標は16箇所の整備だが、1箇所は整備済のため整備対象外とした。そのため、整備自治会は15自治会となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
自治会公民館、集会所のAEDパット、バッテリーの整備	目　標	（　）	（　－　）	（16自治会）	（　）	（　）
	実　績		－	15自治会		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
・平成２４年度は各自治会集会所等へ備蓄品の購入・防災倉庫の購入を行い目標を達成したため、平成２５年度は災害時の避難施設である地域公民館や集会施設(15箇所)に災害に備えたＡＥＤパットおよびバッテリーを購入。災害時避難所である公民館や集会所での突然の心停止に備えることができ、災害に強いまちづくりの推進を図ることが可能となる。
・目標は16箇所の整備だが、1箇所は整備済のため整備対象外とした。そのため、整備自治会は15自治会となった。

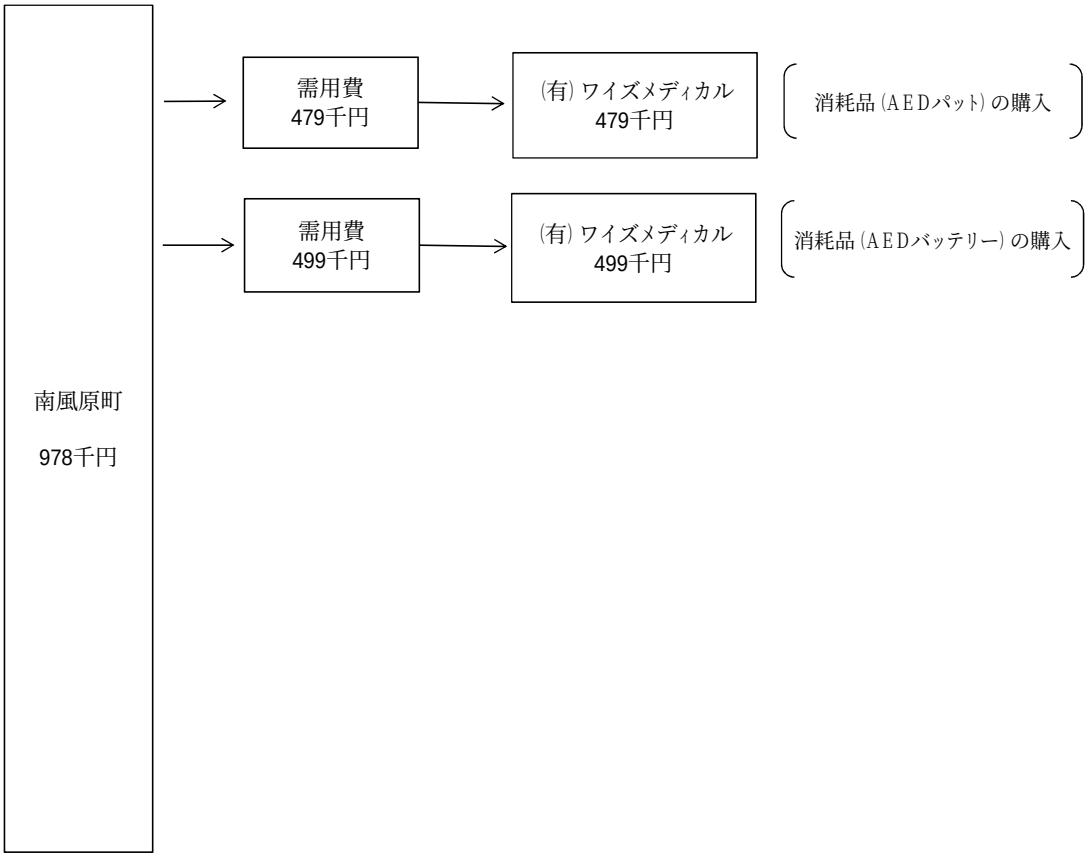
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・災害はいつ発生するかわからない為、避難施設のへのAED整備を行い、災害に備えなければならない。また、防災体制の強化を図り、啓蒙を行う必要がある。	・地域活動を通し、ＡＥＤの必要性や避難場所の確認をすることにより、様々な人に防災に対する意識が芽生えるため、町全体の防災・減災に対する推進を図ることができる。今後、救命講習等をとおしＡＥＤを使った救命手当方法や防災意識の普及啓蒙を行っていく。

今後の取り組み方針

整備した施設を活用し、町全体の防災・減災体制の強化を図り、今まで以上に災害に強いまちづくりを推進していく。
住民等への啓発が課題となる為、施設を活用、積極的な参加を呼びかけていく。
救命講習等をとおしＡＥＤを使った救命手当方法や防災意識の普及啓蒙を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
978	978	782	196	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令による随意契約の為、妥当である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－①	放課後児童の居場所づくり支援事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－２－（２）－イ 子育てセーフティーネットの充実
担当部課名	民生部　こども課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－４

事業内容

学童クラブの経営安定化を図ることを目的に、町内の学童クラブ１０園中、民間施設を借用し運営を行っているクラブに対して一月50,000円の上限で家賃補助を行う。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,548	2,310			
	(b)予算現額	1,548	2,310			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	1,548	2,310			
B．執行済額		1,540	2,310			
うち交付金充当額		1,232	1,848			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		99.5%	100.0%			

予算の状況の説明：学童クラブの方々に交付金の趣旨を説明し、該当する学童クラブとの調整も順調に進め、当初予算に計上した額で計画通り執行することができた。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
学童クラブ家賃補助実施学童：5件（津嘉山学童クラブ、学童クラブわんぱく家、ドルチェ学童クラブ、こがね森学童クラブ、第二こがね森学童クラブ）	目　標	（　5件　）	（　5件　）	（　　）	（　　）
	実　績	5件	5件		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：・学童クラブの経営安定化を図ることを目的に、賃借料を負担して民間施設等で運営を行っている5学童クラブに対して、負担軽減のため一月50,000円の上限で家賃補助を行い、利用している学童クラブに対し支援することができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
学童クラブ家賃補助実施学童：5件（津嘉山学童クラブ、学童クラブわんぱく家、ドルチェ学童クラブ、こがね森学童クラブ、第二こがね森学童クラブ）	目　標	（　0件　）	（　5件　）	（　5件　）	（　　）	（　5件　）
	実　績		5件	5件		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：・学童クラブの経営安定化を図ることを目的に、賃借料を負担して民間施設等で運営を行っている5学童クラブに対して、負担軽減のため一月50,000円の上限で家賃補助を行い、利用している学童クラブに対し支援することができた。利用料を一人500円の値引きをしたり、行事費・人件費に回すことができた。保護者（児童）、学童クラブ双方ともに環境の改善が見られた。今後は、新規に開設する学童クラブで民間施設を賃貸して運営する場合には、同事業を活用し経営の安定化を図りながら子ども達の居場所づくりを支援していきたい。

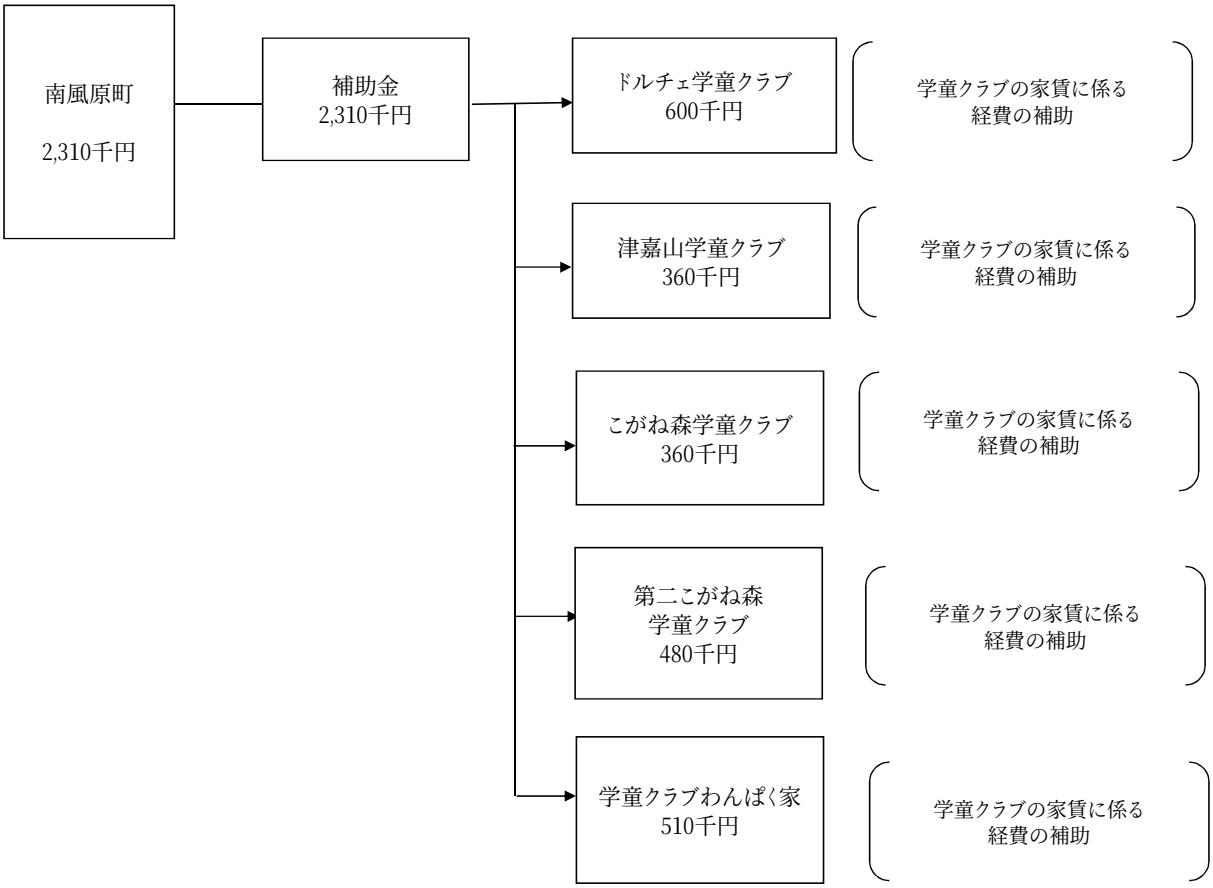
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・家賃補助を支援している学童クラブに対し、支援前と支援後でどのような効果があったかどうかを検証する。 ・学童クラブによって家賃の開きがあるため、現状の金額（50,000円）で妥当なのか他市町村の状況なども踏まえて検証する。 ・現段階での町内小学校の新設等の予定はなく、空き教室についても学級増が見込まれるため、公設民営化への移行は厳しい現状がある。他の公的施設も活用できないか検証していく。	・調査したところ保護者（児童）、学童クラブ双方ともに環境の改善は見られた。さらに環境改善に努めていく。 ・支援の効果（例：学童保育料の軽減）を見極め、事業の継続性を図っていきたい。また、支援を行っていない学童クラブとの比較も検証していきたい。

今後の取り組み方針

・今後も事業の継続性を図ると共に、現状の補助額が妥当なのか検証していく。また、学校以外の公的施設も活用できないか検証していく。
また、支援を行っていない学童クラブに対しても新規事業（例：母子家庭の利用料軽減等）の導入を検討し、子ども達の放課後居場所づくりの支援をしていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,310	2,310	1,848	462	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は当該補助金支給要綱により企業組織、実績、知識等を勘案した上で決定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５-②	預かり保育事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－２－（２）－イ 子育てセーフティネットの充実
担当部課名	教育委員会学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－４
事業内容	幼稚園の教育時間修了後も、引き続き園児の健やかな成長を支えるため預かり保育教諭を配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,183	1,255			
	(b)予算現額	4,183	1,255			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	0			
	A．計(b+d)	4,183	1,255			
B．執行済額		85	1,133			
うち交付金充当額		68	906			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		2.0%	90.3%			

予算の状況の説明：平成25年度においては当初の予算通り、概ね執行することができた。
事業計画書において、事業実施（予定）年度の項目が平成25～33年度になっていたのは誤りで、正しくは平成24～33年度である。

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
預かり保育　教諭配置	目　標	（　4人　）	（　1名　）	（　）	（　）
	実　績	4人	1名		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：教諭１名を配置することにより、１クラス３５人から３０人制を導入することができ、午後の保育を落ちついた雰囲気のなかで行うことができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
預かり保育　教諭配置	目　標	（　）	（　4人　）	（　1名　）	（　）	（　）
	実　績		4人	1名		
預かり率（入園者に対する預かり園児の数）※預かり率は5／1時点とする	目　標	（　）	（　63.0%　）	（　66.0%　）	（　）	（　）
	実　績		63.5%	69.1%		

進捗状況説明：平成25年度の給食開始に伴い預かり保育の希望者数増え、保護者にニーズに応えることができた。
また教諭１名を配置することにより、１クラス３５人から３０人とし、落ちついた環境作りをすることができた。
今後とも幼稚園の教育課程修了後の環境を整えることで、園児の居場所づくり、保護者の就労時間の確保へとつなげ，保護者が安心して子育てできるようを支援していく。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・人的環境を整えることで園児の安全面を確保しながら、園児の自発的な活動に対応できた。 ・預かり保育時間を18:30まですることで保護者の要望に応えることができたが、預かり保育教諭の負担が大きく採用に困難をきたしている。	・今後とも子供達の自発的な活動を推進しながら、屋内外保育活動を積極的に進め、心身の調和の取れた発達を促していく。 ・教諭の採用を確保するために、預かり保育時間の体制づくり等を検証し、働きやすい職場づくりを整える必要がある。

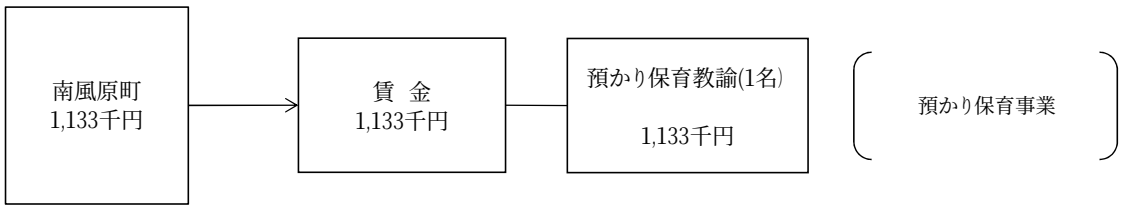
今後の取り組み方針

・預かり保育においても、人的環境を整えることにより、園児の安全面を確保し、園児の自発的な活動に対応できたので、今後とも地域のニーズに応え、幼児の健やかな成長に資する良好な環境整備に努めながら、園児が充実した幼稚園生活が展開できるよう対応していく。

・預かり保育のクラス数を早めに決定し、教諭採用にむけて早めの対応を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,133	1,133	906	227	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町の給与、勤務時間その他の勤務時間に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－③	幼稚園保育充実支援員配置事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－２－（２）－イ 子育てセーフティネット充実
担当部課名	教育委員会学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２５～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－４

事業内容

本町では平成２５年度より町立幼稚園の保育時間を正午から午後2時まで延長し、併せて給食の提供も行う。園児へ安心･安全に提供できる体制とするため、幼稚園保育充実支援員を配置し、給食センター内の備品を購入する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	958				
	(b)予算現額	1,647				
	(c)増減額(b-a)	689				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	1,647				
B. 執行済額		1,070				
うち交付金充当額		856				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		65.0%				

予算の状況の説明

･当初の事業予算は、支援員の配置に関する経費のみだったが、平成２５年７月の事業費見直しにより幼稚園のこども達に対する給食支援の備品購入が必要となったため689千円追加となった。
･予算減額と比較して執行率が低いが、予定していた支援員数3名が2名で対応可能となったことによる賃金の減である。

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
充実支援員配置数	目　標	（　3名　）		（　）	（　）
	実　績	2名			
給食提供関係備品の購入 配缶用台車、水切運搬車	目　標	（配缶用台車4台 水切運搬車1台）		（　）	（　）
	実　績	配缶用台車4台 水切運搬車1台			

達成状況説明

給食支援員を配置することにより、H２５年度から開始された給食を安心･安全に実施することができた。目標として，３名を採用予定であったが預かり保育教諭の増により、預かり保育教諭が給食支援に入ることにより２名採用で十分対応することができた。
また、事業計画通り給食提供関係備品を購入することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
給食支援員　配置数	目　標	（　－　）	（　3名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		2名			
給食提供関係備品の購入 配缶用台車、水切運搬車	目　標	（　－　）	（配缶用台車4台 水切運搬車1台）	（　）	（　）	（　）
	実　績		配缶用台車4台 水切運搬車1台			

進捗状況説明

目標で３名採用予定であったが、預かり保育教諭が入ることにより、２名の採用で給食支援をすることができた。また事業計画通り給食提供関係備品を購入することができた。今後とも、給食支援員を配置することにより安心･安全な給食を実施し、小学校へつなげていく。

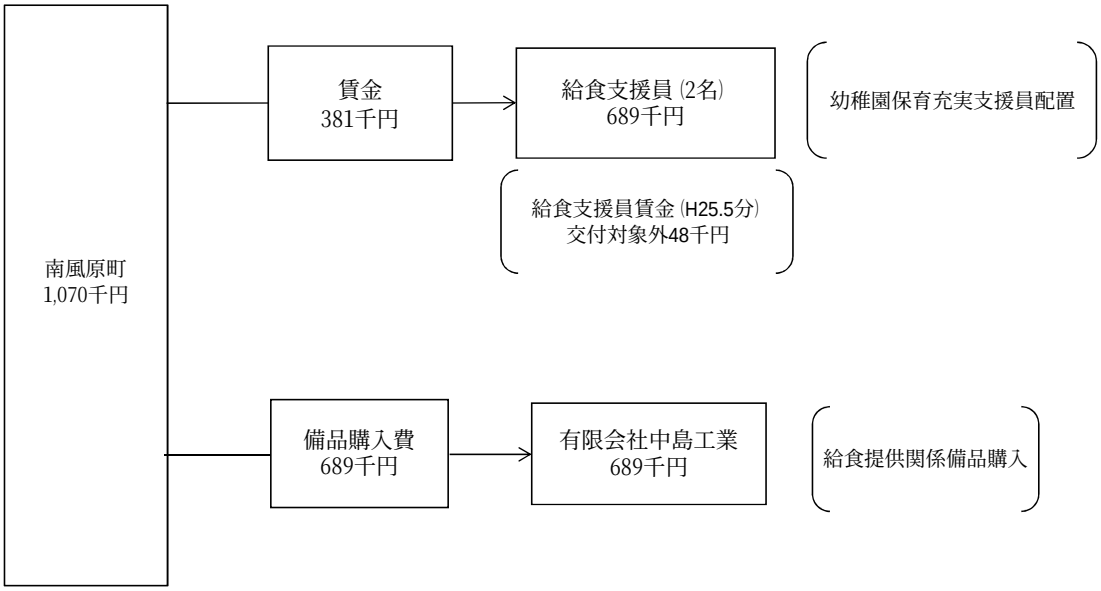
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・幼稚園での給食開始当初より給食支援員を配置してきたが、支援員の雇用時間は園児の給食時間に合わせた時間（11:30～13:30）と短いため、支援員採用にあたっては保護者や幼稚園現場の協力が必要である。	・支援員採用にあたっては幼稚園現場の協力を得て、支援員の確保を図りながら、各クラス2名体制で給食を実施し、安心・安全で楽しい給食時間を提供をしていく。

今後の取り組み方針

・幼稚園での給食を開始して2年が経過した。給食支援員を配置したことにより、導入時の混乱もなくスムーズに進めることができたと保護者をはじめ現場の先生方から大変喜ばれている。今後も幼稚園現場や保護者の協力を得て給食支援員を配置し、安心・安全で楽しい給食提供をしながら、幼児教育の充実を図っていきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,118	1,070	856	214	48



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町の給与、勤務時間その他の勤務時間に関する規則」に決められた時給を支払ったので適正であった。 ○備品購入については、「南風原町契約規則第25条により随意契約」で適正に執行した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－④	認可外保育施設環境整備事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－２－（２）－イ 子育てセーフティーネットの充実
担当部課名	民生部　こども課	事業実施(予定)年度	平成２５～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－４
事業内容	子育て世代の人口増に伴い待機児童が増え続けていることから、待機児童の受け皿となっている認可外保育園の施設整備に対して補助を行うことにより保育環境を向上させる。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,900				
	(b)予算現額	1,900				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	0				
	A. 計(b+d)	1,900				
B. 執行済額		1,900				
うち交付金充当額		1,520				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初予算に計上した額のとおり、整備を必要とする保育園との調整を順調に行い計画どおり執行することができた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
認可外保育園の施設整備数:1ヶ所	目　標	（　1ヶ所　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1ヶ所			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	子育て世代の人口増に伴い待機児童が増え続けていることから、待機児童の受け皿となっている認可外保育園の施設整備を行った。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（　年度）	25年度	26年度	目標値(27年度)	28年度
認可外保育園の施設整備数:1ヶ所(やまびこ保育園)	目　標	（　）	（　1ヶ所　）	（　）	（　4ヶ所　）	（　）
	実　績		1ヶ所			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	子育て世代の人口増に伴い待機児童が増え続けていることから、待機児童の受け皿となっている認可外保育施設の整備を行うことができた。今後は、他の認可外保育施設に対しても同事業を活用し施設の保育環境の向上を支援していきたい。					

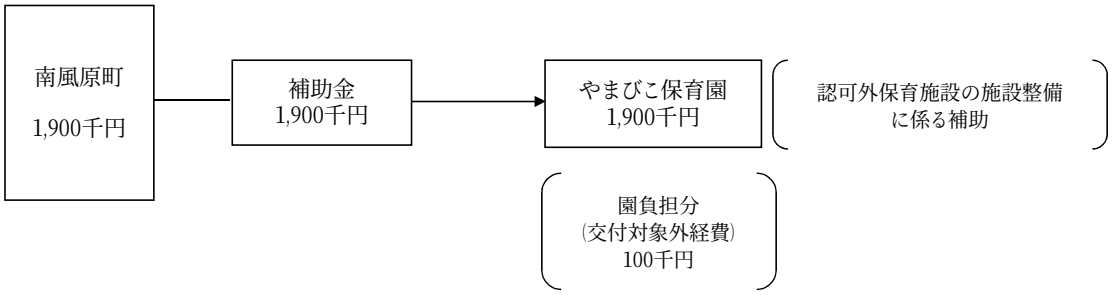
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・施設の整備を支援した認可外保育施設に対し、支援後でどのような効果があったかどうかを検証する。 ・町内の認可外保育施設は「認可外保育施設指導監督基準を満たす旨の証明書」の発行されている施設数が県平均より少ない現状があるので、認可外保育施設と調整が必要である。	・支援の効果（立ち入り調査の指摘事項の改善等）を見極め、事業の継続性を図っていきたい。また、支援を行っていない認可外保育施設との比較も検証していきたい。 ・毎年県が行っている認可外保育施設の指導において指摘された事項について改善を図るよう、認可外保育園に対して確認を行う。また年に1度開催している認可外保育園との会議の中でも県基準を満たすよう努力を促す。

今後の取り組み方針

・今後は事業の継続性を図ると共に、支援を行っていない認可外保育移設（施設を賃貸している認可外保育施設）に対しても事業の導入を検討し、待機児童の受け皿となっている認可外保育施設の支援を行っていきたい。
・県による認可外保育施設の指導を踏まえ、基準を満たせる保育園が増えるよう事業者との調整を進める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,000	1,900	1,520	380	100



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目、使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○受益者負担にについては、当該補助金交付規程により補助金の上限額及び設置者の負担額が定められており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－①	陸軍病院壕公開活用事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－（４）－ア 伝統文化の保全･継承及び新たな文化の創造
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)
事業内容	本町は沖縄戦で人口の４割以上が犠牲になった。戦中は後方陣地として町全域に日本軍陣地が構築され、沖縄陸軍病院も置かれた。町では悲しい歴史を二度と繰り返してはいけないという強い決意をもって、陸軍病院壕群20号を整備した。県内外から訪れる多くの人々に戦争と平和、命について考えてもらう施設として公開活用の取り組みを行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,081	5,856			
	(b)予算現額	3,630	5,856			
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,451	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	3,630	5,856			
B. 執行済額		3,630	5,536			
うち交付金充当額		2,904	4,428			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	94.5%			
予算の状況の説明		･当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
開壕日数	目　標	（308日）	（308日）	（　）	（　）
	実　績	317日	310日		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
･壕は、毎週水曜日が休壕日であるが、特に県外からの修学旅行の日程によっては水曜日も開壕したため、実績の日数が2日増となった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（33年度）
見学者数	目　標	（9,804人）	（9,700人）	（10,000人）	（　）	（10,300人）
	実　績		10,000人	9,498人		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
･見学者は毎年増減があって安定していない。24年度は10,000人の見学者がいたが、25年度は502人減の9,498人である。見学者減少の要因としては、県外からの中･高校の修学旅行（平和学習）数が24年度は82校だったのに対し、25年度は59校と23校減ったことが一因として挙げられる。しかし、県内の小･中･高校は24年度の17校から25年度は36校に倍増している状況もある。その他に学生以外の一般見学者数が24年度比で約380名減となっており、沖縄旅行における関心の所在の相違によるものではないかと考えている。
･定休日である水曜日も見学者側の要望によっては開壕したが、見学者増にはつながらなかった。

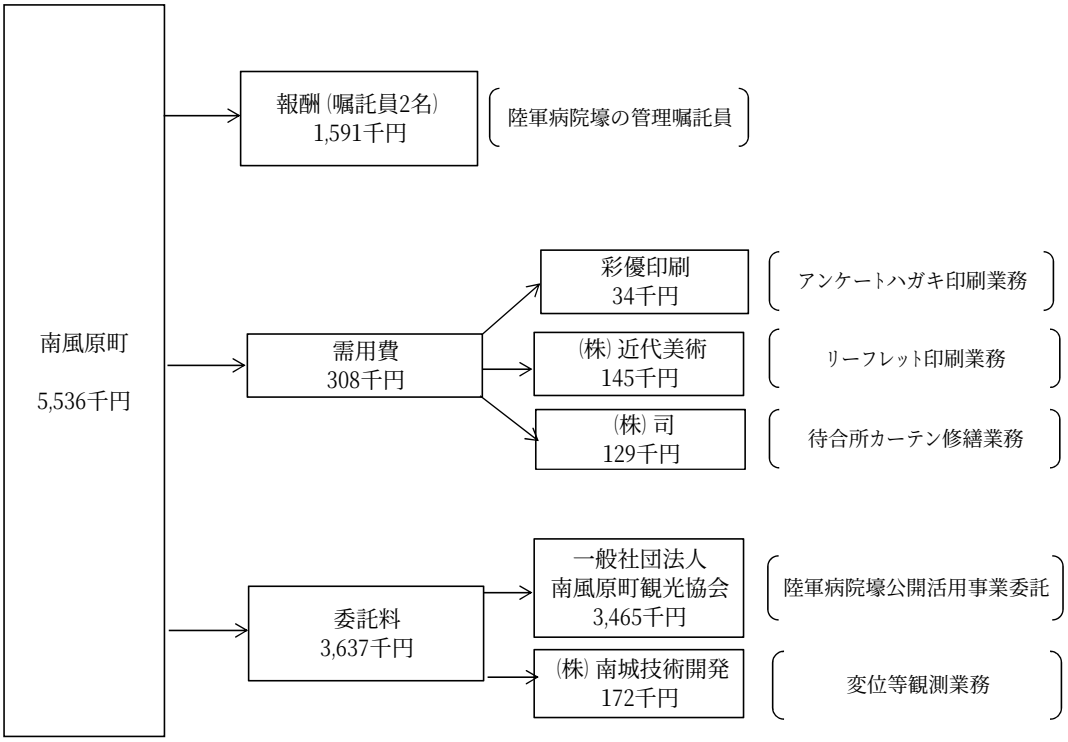
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・毎年の見学者数には波があるため、見学者数が安定していない。 例えば、2013年：9,498人、2012年：10,000人、2011年：9,804人、2010年：9,946人、2009年：8,406人という状況であるため、見学者数の安定性が求められる。	・南風原町観光協会と情報を共有しながら、懇切丁寧な対応でリピーターを増やすとともに、新規の見学者を誘致して見学者数の増加につなげていきたい。

今後の取り組み方針

町観光協会との連携によって、沖縄陸軍病院壕の存在を広く広報し、認知度を高めていきたい。
平和学習を予定している見学者（団体）に対する事前学習用資料等の提供を懇切丁寧に行い、継続して来壕してもらえるようにする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,536	5,536	4,428	1,108	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○印刷業務及び修繕業務については、地方自治法施行令第167条の2第1項第1号により随意契約した。 ○委託業務については、町の観光資源を活用するための組織である南風原町観光協会と、これまでの実績と知識を勘案して選定した業者に随意契約で業務委託しており、妥当であると考えている。 ○費目・使途については事業目的の観点から必要なものなのか等については、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－②	資料の公開活用事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－（５）－ア 文化産業の戦略的な創出・育成
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施（予定）年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)
事業内容	南風原文化センターに収蔵されている貴重な歴史資料をデータベース化して整理し、公開活用の幅を広げつつ後世へ継承していく。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	12,143	15,565			
	(b)予算現額	12,143	15,565			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	12,143	15,565			
B．執行済額		12,143	15,275			
うち交付金充当額		9,714	12,220			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	98.1%			
予算の状況の説明		・当初計画していた作業は全て実施して活動目標は達成できたが、新たな資料の増加によって成果目標の達成には至らなかった。しかし早速、展示会において活用できた成果は大きく、今後の公開活用及び将来へと継承していく上では適正であったと考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
収蔵資料のデータベース化済み資料数	目　標	(　3,500点　)	(　50,000点　)	(　　)	(　　)
	実　績	3,500点	50,000点		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：・南風原文化センターに収蔵されている「民俗」「考古」「戦争」「織物」「写真」「書籍」「移民」「ビデオ」「音声テープ」等の資料のうち、平成25年度は「写真」資料約10万点のうち5万点のデータベース化を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（29年度）
南風原文化センター収蔵資料のデータベース化率	目　標	(　0%　)	(　5%　)	(　74%　)	(　　)	(　100%　)
	実　績		3%	44%		
【参考指標】	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：
・当初の資料総数は72,000点として事業を開始したが、今年度、資料の整理作業を進める中で資料総数が122,000点あることが確認された（特に写真資料点数が膨大にあることが確認された）。そのため、当初の目標数値と実績数値（24年度で5%→3%、25年度で74%→44%）及び事業計画年度（28年度→29年度）の変更が出てきた。
・収蔵資料122,000点のうち、50,000点（41%）のデータベース化を実施した。前年度の3500点（3%）を含めると、53500点（44%）の出来高となる。今後は平成29年度までに全収蔵資料のデータベース化を進めていく。
・資料は早速、平成26年4～5月に開催した南風原文化センター企画展『検証4.28シリーズ　がちまやーの　うちあたい』展で活用することができた。

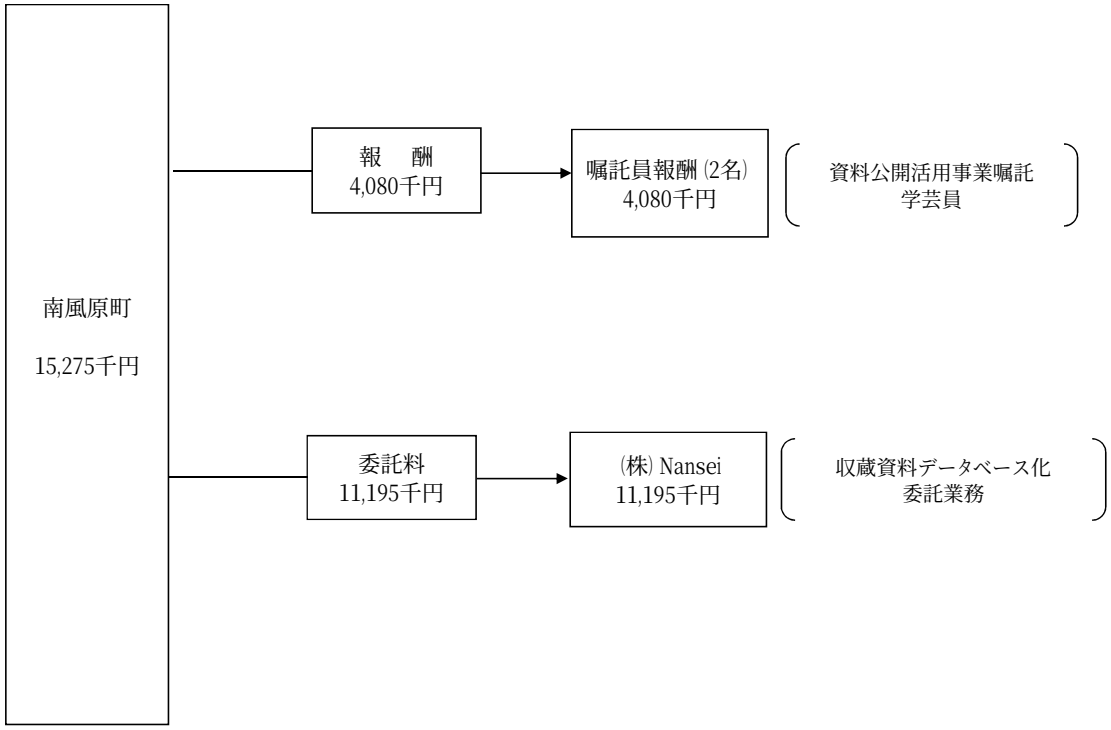
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成25年度は、「写真」資料の整理作業（資料をデータベース化）を行った。約10万点の写真の半数をデータ化したが、中には年代や場所、撮影者、寄贈者等が不明なものも多々あった。	・写真資料情報の充実については、地域の古老や当時を知る方への聞き取り調査、写真展等の展示会を通して多くの方に見ていただくことによって、関心を持ってもらうとともに、より多くの情報を収集する必要がある。

今後の取り組み方針

次年度には写真資料展や字展などの展示会を企画して、より多くの詳細な情報を収集しデータベースの充実に取り組む。
事業全体としては年次計画をもって、平成29年度までに収蔵資料のデータベース化業務完了できるように努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,275	15,275	12,220	3,055	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○嘱託員については直営事業であり、予算規模・費目・使途など適正であると考えている。 ○委託業務は、指名競争入札によるもので適正であると考えている。 ○費目・使途については事業目的の観点から必要なものなのか等については、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－③	子ども平和学習交流事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－(4)－エ 伝統文化の保全･継承及び新たな文化の創造
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－(2)

事業内容

町内の小学校4校から6年生を8人を選考し、事前学習で、戦争と平和（太平洋戦争の歴史、沖縄戦の状況や広島原爆の様子など）や差別･人権（ハンセン病に関すること、被差別部落など）を学習し、歴史の中での戦争や差別の問題を考える。学主したことを報告書としてまとめると共に、報告会で発表する。事業後も過去に参加したOBたちと協力し自分たちにできる活動を展開する。

実施方法　■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,561	1,435			
	(b)予算現額	1,561	1,435			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－				
	A．計(b+d)	1,561	1,435			
B．執行済額		1,451	1,283			
うち交付金充当額		1,160	1,026			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		93.0%	89.4%			

予算の状況の説明

執行率が89%だが、子どもたちの平和学習の助成事業として、予定通りの事業執行ができた。
執行残の約10%は、旅費や印刷製本費等の入札残による事業費残である。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
子ども平和学習交流会事業参加者数	目　標	(　16人　)	(　12人　)	(　　)	(　　)
	実　績	16人	12人		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明

当初8人の計画だったが、各小学校6年生各クラスから1人の割合くらいの人数が適当であると判断し、人数を4人増員し12人の生徒で平和学習交流事業を実施した。
6年生12人の参加者が適度な人数であった。研修後の話し合い、事後学習にはもっと力を入れたい。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
事前学習、本研修の後その報告会を開催	目　標	(　　)	(　　)	(報告会の開催)	(　　)	(　　)
	実　績			報告会の開催		
【参考指標】	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明

･事前学習後、本研修出発前に宿泊研修を含め数回にわたる学習の成果を報告激励会で発表した。本研修終了後も広島、大阪、京都での研修で学んだこと、自分の考えや意見をまとめて報告会で発表した。その後事業の総まとめとしての報告書を作成した。
･平成24年度は、「交流事業参加児童数」としており活動目標と同一の目的であった。また、交流事業の成果を発表する場が報告会のため、「報告会の開催」を成果目標とした。【平成24年度成果目標】:子ども平和学習交流事業参加児童数:12人（目標）→12人（実績）

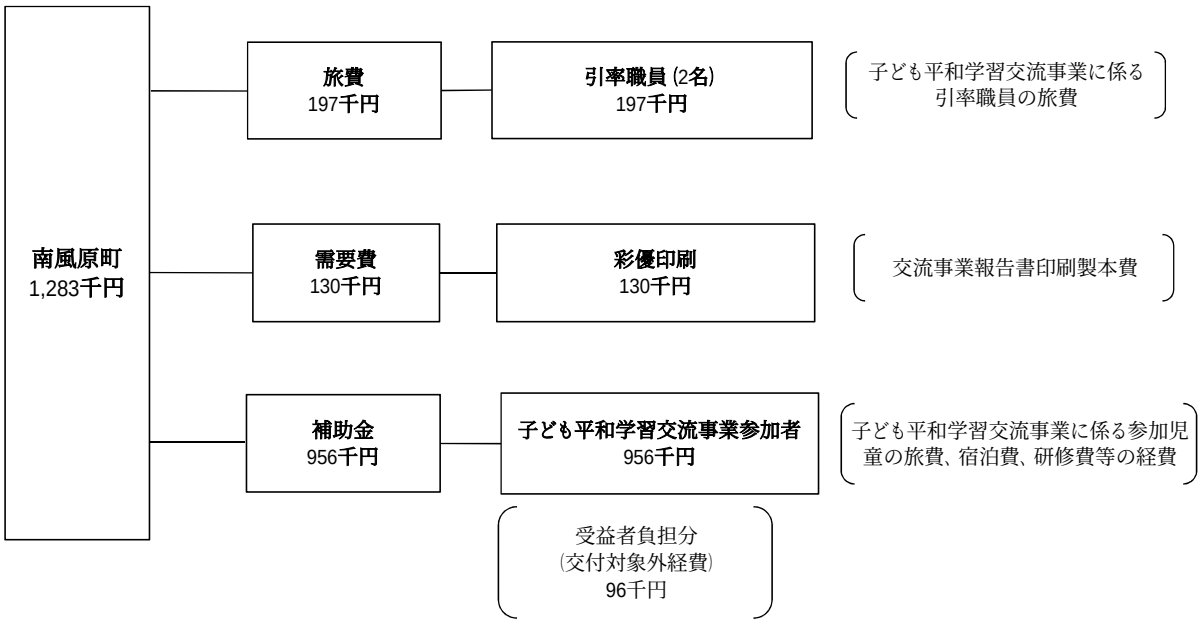
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	参加児童それぞれの個性にあった丁寧な指導ができるように改善が必要である。 各学校へ参加児童の選考を任せているため、学校なりの選抜方法を取り決めており、児童会の役員になっている場合は、他のやる気のある子どもが参加できなくなる場合がないよう、校長会での参加児童選考の依頼の際に要請をする。	・引率教諭の役割の明確化 ・研修の後の作文に時間を掛ける。（考える時間を増やす）

今後の取り組み方針

平和学習の内容と基本的な活動の柱をまとめ、子ども同士の交流、現地の自然や沖縄の同年代の方々がどんな風に戦中・戦後を生きてきたかを知るきっかけをさらに広げる。またＯＢ会との連携方法も確立したい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,379	1,283	1,026	257	96



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業に必要な旅費、現地経費を見積もり等を精査し支出している。また、事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。 ・受益者との負担関係については、実施要綱に基づき自己負担をを徴収しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－④	伝統芸能保存育成事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－（４）－ウ 伝統芸能の保全･継承及び新たな文化の創造
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（２）
事業内容	町内には数多くの伝統芸能がある。各字･自治会の伝統芸能の保存や継承への取組に必要な衣装や獅子舞などの道具の補修や買い換えに対し助成を行うことで伝統芸能継承を推進する。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,700	5,000			
	(b)予算現額	5,700	2,852			
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 2,148			
	(d)繰越額	0	0			
	A. 計(b+d)	5,700	2,852			
B. 執行済額		5,675	2,651			
うち交付金充当額		4,540	2,120			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		99.6%	93.0%			
予算の状況の説明		･当初10字に対して補助を行う計画であったが、申請団体が5字となったため平成26年3月に2,000千円補正減し148千円を流用した。 ･予算は減額したが、各字･自治会の伝統芸能継承を推進するための助成事業を行うことができた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
伝統芸能保存育成補助件数(10件)	目　標	(　10件　)	(　10件　)	(　　)	(　　)
	実　績	10件	5件		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：
･町内の伝統芸能継承を推進するため、5字(あざ)･自治会へ、伝統芸能保存や継承への取組に必要な衣装･楽器･道具の購入に対して5件の補助金交付を行った。
活動目標の字(あざ)･自治会への伝統芸能保存育成補助事業件数は、25年度で2年目となるためある程度補助金がゆきわたっているため申請件数が5件と目標には届かないが各字･自治会の伝統芸能復活への機運が高まっております。また今年度は民俗芸能交流会を予定している。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(26年度)
年中行事等での伝統芸能上演等回数	目　標	(　55回　)	(　67回　)	(　67回　)	(　　)	(　68回　)
	実　績		67回	67回		
【参考指標】	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：
･伝統芸能の上演等される場である年中行事が復活(1行事)したこともあり、各字(あざ)･自治会への補助実施により伝統芸能上演等回数の増に繋がった。また、祭りや諸公演･発表会等へ、伝統芸能の衣装･楽器･道具が整い誇りを持って出演することができるようになった。

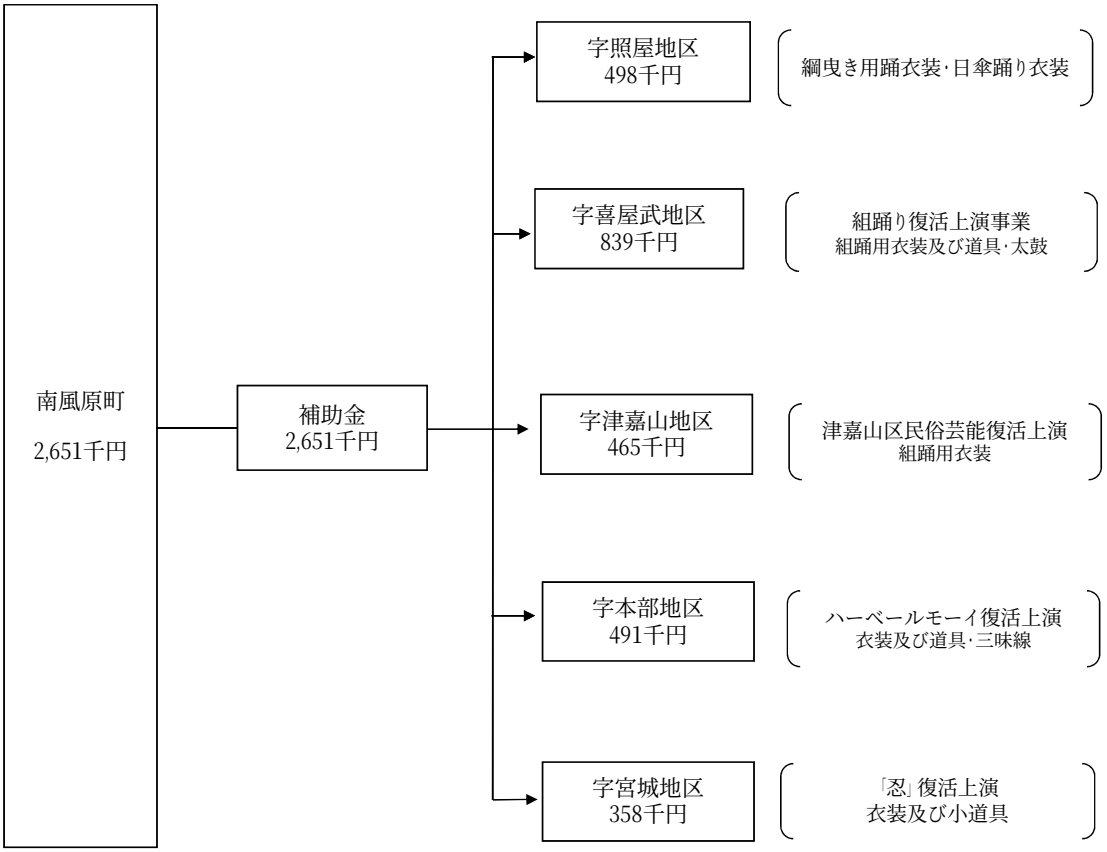
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成２５年度は申請件数が前年度より減少したが、地域が伝統芸能を実施するための予算確保ができたために自治会の伝統芸能復活への機運が高まっている。 ・年中行事の上演回数が毎年増えることはないが、維持するために公演する場や情報を提供することが課題である。 ・伝統芸能保存のために後継者を育成いくことが課題である。	・各字（あざ）・自治会への祭りや諸公演・発表会等への出演案内の情報提供を行うことで公演する機会の増加に努める。 ・町主催の民俗芸能交流を定期に開催し後継者育成に繋げながら、伝統芸能を継続していく環境を作る必要がある。

今後の取り組み方針

・各字（あざ）、自治会への祭りや諸公演・発表会等への出演案内の積極的な情報提供。
・平成２５年度も各字（あざ）・自治会への伝統芸能の保存や継承への取組（伝統芸能に必要な衣装・楽器・道具等の購入や道具の補修）に対し助成を行い、次年度以降は町主催の民俗芸能交流会等を開催し、町指定の無形民俗文化財を含め町の伝統芸能保存継承を推進していく予定である。
・伝統芸能保存するために各自治会および伝統芸能保存会と後継者育成に向けて連携していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,651	2,651	2,120	531	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金支出先は各自治会に限定されるため妥当である。 ○補助事業者は各字（あざ）・自治会の伝統芸能保存継承の取組に対して積極的であり、妥当である。 ○補助金の使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について南風原町振興特別推進交付要綱に基づき額の確定時において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑤	南風原町海外移住者子弟研修生交付金事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－4－(1)－ア 世界との交流ネットワークの形成
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)
事業内容	文化交流を推進するため、南風原町出身の海外移住者子弟を南風原町に研修生として受け入れ、移民の歴史はもちろん、相互の文化を学習させる。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,500	1,500			
	(b)予算現額	1,500	1,500			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	0			
	A. 計(b+d)	1,500	1,500			
B. 執行済額		1,496	1,207			
うち交付金充当額		1,196	965			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		99.7%	80.5%			
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。予算の執行残については、前年度に比べ研修内容の種類が少なかったため講師への謝礼金の減と、滞在日数が若干短かった事による滞在費の減によるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
･受け入れ国の数2カ国	目　標	(　1ヵ国　)	(　2カ国 ハワイ･ペルー　)	(　　)	(　　)
	実　績	1ヵ国	2カ国 (ハワイ･ペルー)		
･受け入れ研修生の数	目　標	(　2人　)	(　4人　)	(　　)	(　　)
	実　績	2人	4人		

達成状況説明：予定通り、2カ国から合計4人(米国ハワイ:3人、ペルー:1人)の研修生が訪れ、それぞれの研修を重ね交流を図った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
･研修成果の報告会を開催	目　標	(　　)	(　　)	(　報告会の開催　)	(　　)	(　　)
	実　績			報告会の開催		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：
･沖縄の親戚をはじめ町民に研修内容の報告し、帰国後、町人会への研修報告会を開催した。研修を通して二国間の関係や歴史認識の体得、今後の研修生本人の役割について自覚することができた。今後の研修生やこれまでの研修生の橋渡し役になっている。
･平成24年度は、「受け入れ国の数」「受け入れ研修生の数」としており活動目標と同一の目的であった。また、研修生の研修成果を発表する場が報告会のため、成果目標を「報告会の開催」とした。
【平成24年度成果目標】:受け入れ国の数:1ヵ国(目標)→1ヵ国(実績)、受け入研修生の数:2人(目標)→2人(実績)

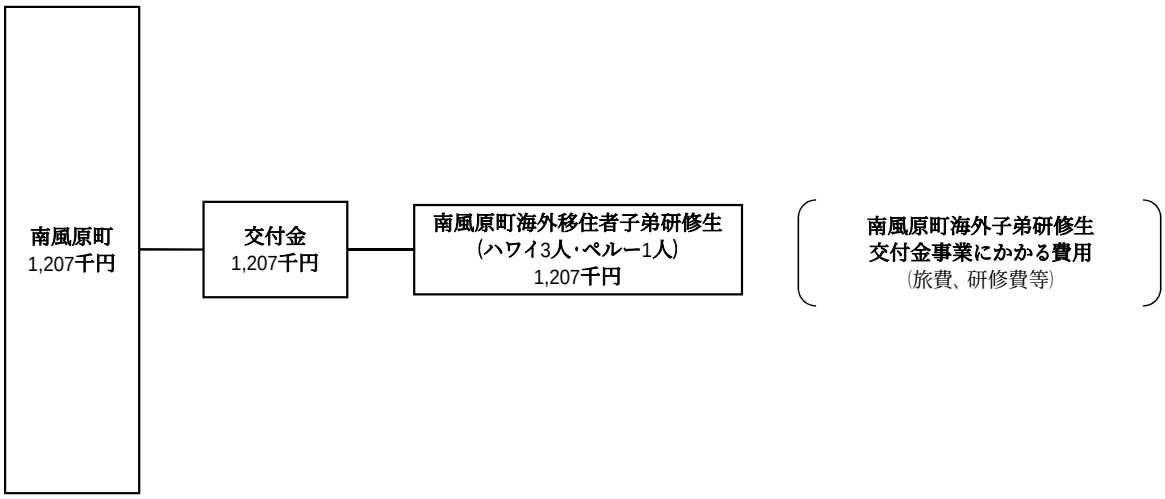
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・研修生によって、研修内容に差が出ることがある。研修内容によっては、予算額に差が出ないように、研修内容を工夫する必要がある。 ・ホームステイ先は、研修生の親戚関係に依頼をしているが、なかなか受け入れ先が決まらない場合がある。	・これから徐々に研修内容、滞在中のプログラムを再構築し、より深い研修になるよう検討する。さまざまな人との出会いの場も提供する研修を検討する。 ・研修内容や種類の拡大・充実に向けた取り組みを行う。基本的には日本語の研修、沖縄独自の文化の習得、研修生自身の興味による研修を含め、滞在期間中に習得できる研修内容のメニューの開拓を図る。 ・親族関係が無くてもホストファミリーとして受け入れるところがあれば、本事業に協力してもらうなどの対策を検討する。

今後の取り組み方針

・研修生ＯＢたちと積極的に情報交換し、今後の交流のあり方を話し合う。
・研修中に各小学校での授業としての取り組みを強化し、それぞれが自国を紹介する機会を増やしたい。
・研修内容の発掘と拡充、また研修生はできるだけホームステイをすることにより、沖縄の家族や親戚関係に触れる事ができるので、親族関係が無くてもホストファミリーとして受け入れるところがあれば、本事業に協力してもらうなどの対策も考える。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,207	1,207	965	242	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業に必要な旅費、現地経費を見積もり等から精査し支出している。また、支出額は事業達成に必要な経費のみを支出しており妥当であった。 ・受益者との負担関係については、実施要綱に基づき整理しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑥	伝統文化交流施設活性化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－ウ 伝統文化の保全･継承及び新たな文化の創造
担当部課名	教育委員会　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２４～２６年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容

地域交流センターは、各地域に伝わる伝統芸能の発表の場、本土の中高生の平和学習の講演会･演奏会等に活用されているが、施設の備品(黄金ホールのテーブル･イス、研修室モニター等)の配置が不十分であるため、備品の整備を行うことにより施設の充実及び機能の強化を図り、今後の文化活動･伝統芸能の継承や他の地域との文化･伝統交流等、総合的な文化事業を展開し地域活性化に繋げる。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	37,756	6,953			
	(b)予算現額	36,067	6,056			
	(c)増減額(b-a)	▲ 1,689	▲ 897			
	(d)繰越額	―	-			
	A. 計(b+d)	36,067	6,056			
B. 執行済額			6,056			
うち交付金充当額		28,853	4,844			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		0.0%	100.0%			

予算の状況の説明：補正減額が897千円発生しているが、備品購入費の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施できた他、活動目標、成果目標の達成状況などを勘案して、適正に執行できたものと考える。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
地域交流センターの備品設備の整備(黄金ホールのテーブル･イス、研修室モニター等)	目　標	(　)	(備品設備の整備)	(　)	(　)
	実　績		(備品設備の整備)		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：
･黄金ホールのテーブル(60台)･イス(300脚)、研修室のモニターを整備した。
･整備したことにより施設の充実が図られ、各種研修会、セミナー、フォーラム等の交流事業に活用ができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
利用来場者数	目　標	(　)	(　)	(10,000人)	(　)	(　)
	実　績			10,770人		
【参考指標】	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：
･地域交流センターの施設備品を充実したことにより目標以上の利用者が訪れた。
･平成24年度の成果目標は、「伝統文化交流イベント観客数」と限定した目標の設定をしていたが、今回ホール側の機能強化も図られた事から総合的な視点でより高い成果目標として、「利用来場者数」の向上をもって利活用状況の成果目標とした。
【平成24年度成果目標】　伝統文化交流イベント観客数:2,850人(目標)→3,270人(実績)

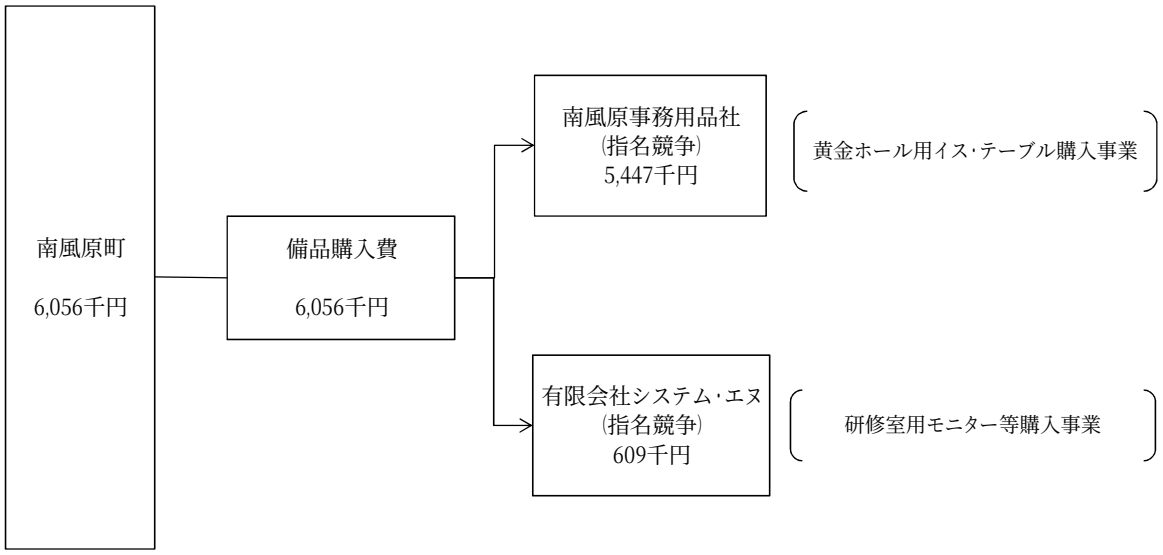
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	各研修室の施設整備を行った結果、舞台利用者の控室として利用できるようになり、多くの出演者の許容が可能となった。 また、黄金ホールのテーブルやイスを整備したことで、これまで対応が十分ではなかった各種研修会、セミナー、フォーラムなど、大人数で行う事業に活用できるようになった。 今後も更なる舞台等関係設備（演台・花台・司会者台）を整備し、施設充実強化が望まれる。	・左記の状況から、引き続き舞台等関係設備（演台・花台・司会者台）の充実強化をはかり、多種多様なイベントに対応していく。

今後の取り組み方針

上記の検証を踏まえ、平成２６年度には引き続き演台や司会者台等の舞台用設備を整備し、もって舞台機能の充実強化を計っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,056	6,056	4,844	1,212	0



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は指名競争により選定しており妥当であったと考えている。 ○購入した備品は、事業充実を図り活用し、費目・使途とも目的に即し必要なものに限定されており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑦	南風原町クサティ森等保全事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(5)－ア 文化産業の戦略的な創出･育成
担当部課名	経済建設部　区画下水道課	事業実施(予定)年度	平成２５～３０年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容

南風原町の集落は首里の近郊にあり、王朝時代の集落形態を今に残している。集落のクサティ森には遺跡や御嶽（ｳﾀｷ）、殿（ﾄｩﾝ）、拝所などの史跡が多数ある。字津嘉山のクサティ森は沖縄戦で軍司令部壕が建設され戦跡としても重要である。これらの歴史文化の保全継承及び文化資源を活用した観光振興を図るため、旧軍司令部壕の一部復元、説明板・散策道・休養施設整備及び整備のための用地取得を行う。平成２５年度は、基本計画の策定と一部早期工事着手に向け実施設計を行う。

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	20,000				
	(b)予算現額	20,000				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	0				
	A. 計(b+d)	20,000				
B. 執行済額		19,999				
うち交付金充当額		15,999				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：･平成25年度の当初計画事業をすべて実施し、当該年度の目標を達成したことから適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
基本計画の策定及び一部実施設計	目　標	（基本計画及び実施設計の策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績	基本計画及び実施設計の策定			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：･平成25年度の目標のとおり、南風原町クサティ森等基本計画及び早期整備箇所の実施設計として南風原クサティ森等実施設計(津嘉山殿周辺)を策定した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
クサティ森等の基本計画策定 津嘉山の殿(ﾄｩﾝ)周辺の実施設計	目　標	（　）	（基本計画及び実施設計の策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績		基本計画及び実施設計の策定			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：･クサティ森等の基本計画及び津嘉山の殿(ﾄｩﾝ)周辺の実施設計を策定したことにより、次年度は工事に着手できる。

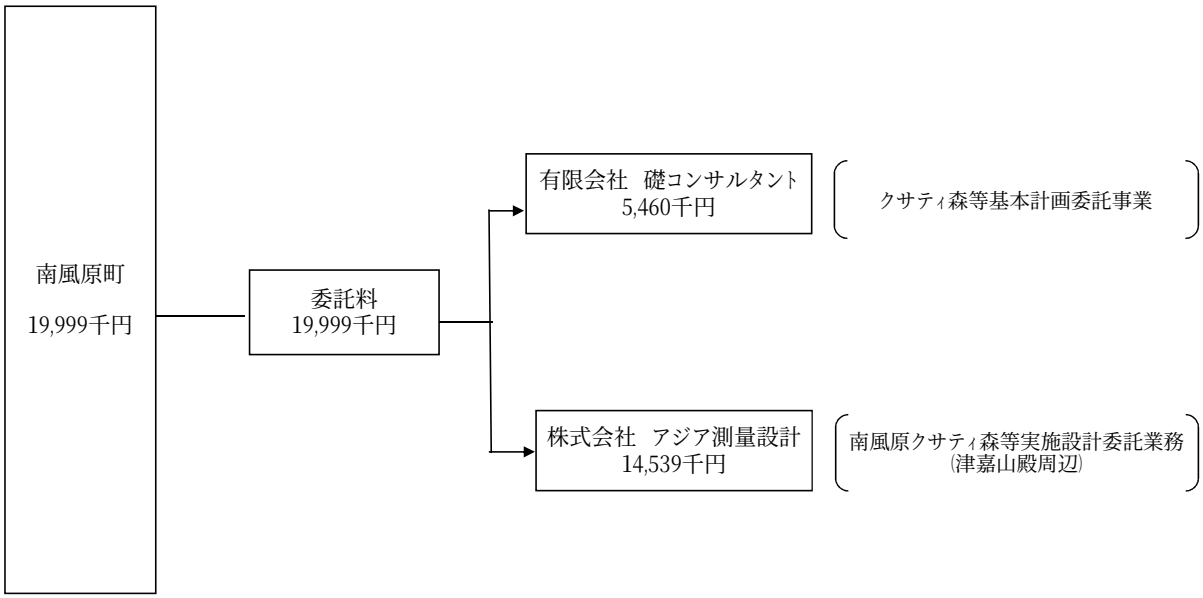
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成25年度の委託業務により、御嶽（ウタキ）、殿（トゥン）等の拝所周辺に地滑り等を確認しことにより擁壁等の必要箇所があり、拝所周辺の地形等の改変が懸念される。	・趣のある拝所等の維持のため、文化財関係者や地元との調整を密にし、詳細に設計の検討をしていく。

今後の取り組み方針

地滑り等が確認された箇所については、必要に応じ土質調査等をおこない適切な地滑り防止対策等を行う。また、趣のある拝所等の維持のため、文化財関係者や地元との調整を密にし、地滑り工法等の検討や詳細の設計をおこない工事を実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,999	19,999	15,999	4,000	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は指名競争入札により選定しており妥当である。 ○本年度の事業は設計業務であり、設計業務等標準積算基準書等を用い予算を算出しており適正である。 ○事業実施に必要な基本計画及び実施設計のみへの支出に限定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑨	南風原文化センター利活用推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1－(4)－ウ 伝統文化の保全･継承及び新たな文化の創造
担当部課名	教育部　生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成２５～２９年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(2)

事業内容

南風原文化センターの図書室で所蔵している図書資料の利活用を推進するために、図書の整理、登録作業をし、授業等の「調べ学習」に役立てるように必要な装備品や書棚を整備する。また南風原文化センターと沖縄陸軍病院壕の施設を紹介しながら夏場の見学に実用的なイラスト入り団扇を作成し、あらゆる機会に配布する。さらに南風原文化センター利用者層を拡大するため、平和学習･沖縄の文化と歴史の学習で訪れる団体のために常設展示室で放映している3種類の映像(「沖縄陸軍病院」「沖縄戦後史」「人びとの暮らし」)に、聴覚障がい者、難聴者、外国人のための音声(英訳、中国語訳、韓国語訳、スペイン語訳、ポルトガル語訳)、日本語字幕などを入れたDVDを制作する。制作は6種類各3本で既存DVDとは区別し、必要に応じて放映する。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	17,647				
	(b)予算現額	17,647				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	17,647				
B. 執行済額		17,448				
うち交付金充当額		13,958				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		98.9%				

予算の状況の説明

多言語DVDは、製作を委託し既存の映像資料に忠実な翻訳ができた。団扇の製作の印刷、図書室備品についても予定通り執行できた。
当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
･図書室の資料整理、登録作業に必要な備品購入	目　標	（備品購入）	（　）	（　）	（　）
	実　績	書架2台、ブックトラック			
･文化ｾﾝﾀｰ陸軍病院壕の広報用の団扇1万部製作	目　標	（団扇10,000部製作）	（　）	（　）	（　）
	実　績	団扇10,000部製作			
･文化ｾﾝﾀｰ常設展示用3種類の映像DVDを5カ国及び日本語字幕入りの6種類を製作	目　標	（DVD制作）	（　）	（　）	（　）
	実　績	DVD3種合計7種類製作			

達成状況説明

平成25年度の計画はほぼ予定通り達成できた。多言語DVDは、予定通り製作されさっそく活用され喜ばれた。少数でも展示内容の理解のためにさらなる活用に努める。団扇の活用も活発で、継続してその活用を広めたい。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
･図書室の環境整備	目　標	（　）	（図書室の環境整備）	（　）	（　）	（　）
	実　績		必要備品を購入し環境整備を図った			
･団扇の配布(H25年2000本)	目　標	（　）	（団扇の配布2,000）	（　）	（　）	（　）
	実　績		団扇1,500部配布			
･製作DVDの利用拡大	目　標	（　）	（DVD利用拡大）	（　）	（　）	（　）
	実　績		外国からの団体や個人見学者へ利用提供を行った			

進捗状況説明

図書室に必要備品を整えたことで、収蔵された、寄贈･購入図書の整理が進み、利用者の利用環境を整備することができた。団扇は各種イベントや、団体見学の際に配布し重宝された。多言語DVDは、さっそく外国人見学者にとって、理解しやすい情報として活用されている。

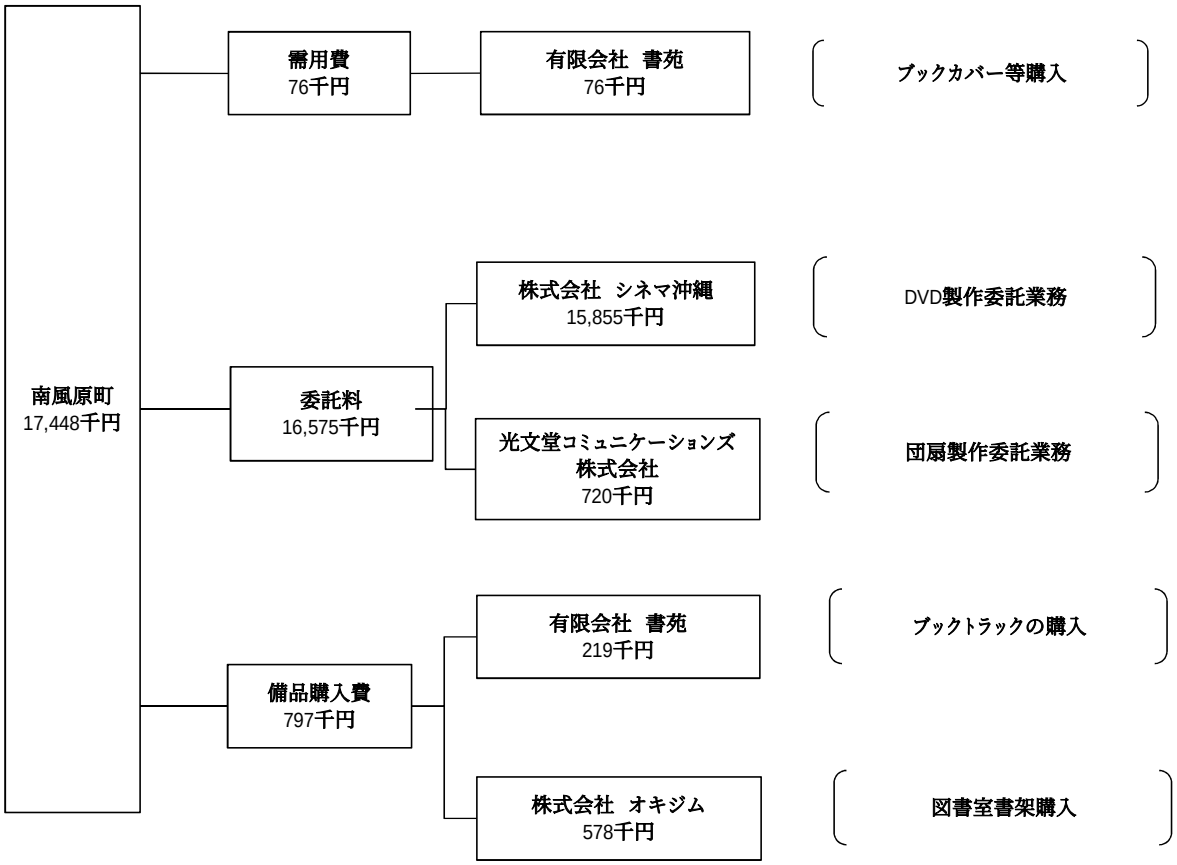
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・文化センター利活用の拡大を図るため、製作したＤＶＤを積極的に利用し、多言語対応が可能になったDVD利用団体客や、個人の外国人らにたいへん喜ばれた。 ・無料で配布している団扇は好評で、季節にあった施設の宣伝を兼ねたサービス品として役に立っている。 ・収蔵図書も利用者がよりよく活用しやすい方法で、整理公開できた。 ・当初の計画には含んでいなかったが、図書整理にあたり、図書登録に必要なブックカバー、番号記入用のシール、ラベル剥がし用液など細かな消耗品を揃える必要がでてきため、需用費の執行を行った。	・今後も外国人来館者への積極的な多言語DVDの活用を促し、外国人利用のための環境整備をすすめる。 ・来館者へは特に夏場の団扇配布を積極的に行い、各種集会やｲﾍﾞﾝﾄでも活用できるようにする。 ・これから収蔵される図書資料も、スムースに整理登録されるように機能的・効率的な作業を進める。

今後の取り組み方針

多言語DVDは、これからも臨機応変に外国人や、高齢者、耳の不自由な来館者のために活用していく。また館の宣伝、展示や活動の紹介のために、配布できる実用的なグッズの製作に取り組みたい。図書室の蔵書については、今後の寄贈も踏まえ、早急に整理・登録を進め、活用しやすい環境づくりに取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,448	17,448	13,958	3,490	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○DVD製作委託業務については、既存のDVDの製作者に人格・著作権が付されるため随意契約を行った。また、団扇委託及び備品購入業務については、指名競争入札により業者選定をしている。いずれにおいても、支出先の選定方法は妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7－①	長寿県復活食の応援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(1)－ア 健康･長寿おきなわの推進
担当部課名	民生部保健福祉課	事業実施(予定)年度	平成２５年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－4
事業内容	長寿県復活に向けて、南風原町の生活習慣病の予防と内臓脂肪を改善するために、油を使わない食事と野菜の摂取を増やす食事のレシピを考案し、町民へ周知する。その方法として、レシピカレンダーとポスターを作成配布し、町民へライフサイクルに応じたバランス食を啓発していく。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	7,875				
	(b)予算現額	5,481				
	(c)増減額(b-a)	▲ 2,394				
	(d)繰越額	0				
	A. 計(b+d)	5,481				
B. 執行済額		5,313				
うち交付金充当額		4,250				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		96.9%				
予算の状況の説明		･2,394千円の減額が生じているが、レシピ集の作成手法を見直した事による減であり、当初計画していた内容は全て実施できた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	27年度
油を使わない食事と野菜の摂取を増やす食事のレシピ考案	目　標	（　レシピ考案　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	レシピ考案			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明
･油を使わない食事と野菜の摂取量を増やす食事のレシピを13品目考案し、健康レシピカレンダーとして町民へ配布した。
･健康レシピカレンダーを2月末で作成し、保健指導、栄養指導等で活用した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
レシピの作成	目　標	（　　）	（12,000部）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		12,000部			
ポスターの作成	目　標	（　　）	（600部）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		600部			

進捗状況説明
･健康レシピカレンダーを12,000部作成し、全世帯へ配布した。
･ポスターを600枚作成し、町内公共施設、小中学校、医療機関、県内市町村、保健所等に配布した。
･健康レシピカレンダーとポスターは保健指導や栄養指導等でも活用している。

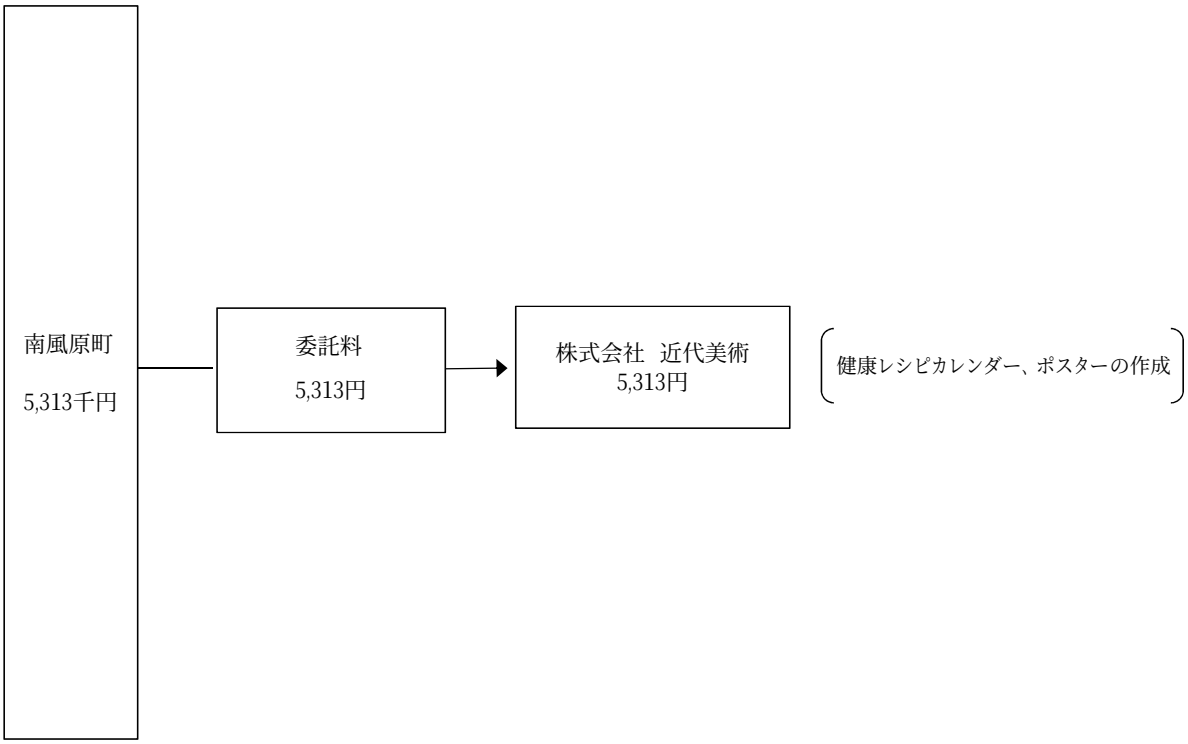
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・健康レシピカレンダーやポスターを活用し保健指導や栄養指導を実施しているが、町民の食習慣を改善するには、継続した指導が必要であることが分かった。 ・食生活習慣基礎作りは乳幼児期から始まっているので、妊産婦や乳幼児においても生活習慣病を予防するための情報提供を行っていく必要がある。	・野菜の摂取を増やすレシピを追加し、、町民へ継続した情報提供や周知活動を行っていく。 ・妊婦や乳幼児、学童向けの情報提供を行う。

今後の取り組み方針

健康長寿の復活を目指し、今後も継続して町民へ①個々人の基準量を伝える（主に野菜と油）②食品に含まれている油の量を伝える③油を使わない料理、野菜の摂取を増やす料理を伝えることを活動目標に事業を展開していく。平成26年度は、健康レシピカレンダーの全世帯配布を継続し、油を使わない料理、野菜の摂取を増やす料理のレシピを考案し、町民に周知していく。各ライフステージに生活習慣病予防を強化していくため、これまで取り組みの弱かった妊婦や学童についても横断幕やマグネットを作成し、啓発していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,313	5,313	4,250	1,063	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名型プロポーザル方式により企業組織、実績、趣旨理解等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模や費目・使途については、支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	